

## 異文化コミュニケーション I

担当教員 大城 朋子

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

多様な文化を背景とした多様な人々との効果的なコミュニケーション能力を身に付けていくために、まずはジャパノロジーを深める。それと同時に多文化への理解を深めていく。そして、自文化を正当に評価し発信する力をつけ、国際社会に積極的に関わっていく基盤を整えていく。その際に、世界共通の言語となりつつある英語を道具として使い、課題を中心にグローバル時代に必要とされる力を身につけていく。

## 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	異文化コミュニケーションとは
2	文化とアイデンティティス (テレオタイプと偏見)
3	非言語コミュニケーション
4	海外メディアの中の日本
5	時間と空間と文化
6	課題①言語と文化 (挨拶、呼称・人称代名詞、他)
7	課題②言語と文化 (省略表現、曖昧な日本語、他)
8	課題③言語と文化 (相づち、敬語表現、外来語)
9	課題④言語と文化 (日本のことわざ、忌み言葉、他)
10	生活と文化 (住)
11	生活と文化 (食)
12	生活と文化 (衣)
13	課題⑤日本の祭りと年中行事
14	課題⑥日本の祭りと年中行事
15	メディアと異文化コミュニケーション (映画、アニメ、マンガ、小説、他)
16	まとめ

## 【履修上の注意事項】

資料をじっくり読み、疑問点、問題点を自分の意見をまとめてほしい。そして、発信の道具としての英語力を身につけるため、準2級から2級の英語検定試験合格を目指すこと。

## 【評価方法】

課題に関する資料をよく読み、まとめて発表する。そして、意見を交換し洞察を深めていく。その際には英語、そして、パワーポイント等の道具を駆使して効果的な情報発信型のプレゼンテーションに持っていく。

## 【テキスト】

随時資料を配布するが、情報収集力を付けるためにも、各自が自主的に資料を収集することも期待される。

## 【参考文献】

- 『多文化社会と異文化コミュニケーション』伊佐雅子監修、三修社  
 『異文化コミュニケーション ワークブック』八代京子他著、三修社  
 『日本事情ハンドブック』水谷修他著、大修館書店

## 異文化コミュニケーションⅡ

担当教員 大城 朋子

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

異文化コミュニケーションⅠに引き続き、多様な文化を背景とした多様な人々との効果的なコミュニケーション能力を身に付けていくために、まずはジャパノロジーを深める。それと同時に多文化への理解を深めていく。そして自文化を正当に評価し発信する力をつけ、国際社会に積極的に関わっていく基盤を整えていく。その際に、世界共通の言語となりつつある英語を道具として用い、課題を中心にグローバル時代に必要とされる力を身につけていく。

## 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	職業観（労働観の変化、社会参加、他）
2	家族観（結婚観、他）
3	家族観（役割観、性差観、他）
4	娯楽観
5	子供文化と老人社会
6	若者文化1
7	若者文化2
8	調査発表&Discussion①
9	調査発表&Discussion②
10	調査発表&Discussion③
11	調査発表&Discussion④
12	調査発表&Discussion⑤
13	調査発表&Discussion⑥
14	日本社会と外国人、そして多文化共生
15	グローバルコミュニケーション
16	まとめ

## 【履修上の注意事項】

資料をじっくり読み、疑問点、問題点を自分の意見をまとめてほしい。そして、発信の道具としての英語力を身につけるため、準2級から2級の英語検定試験合格を目指す。

## 【評価方法】

課題に関する資料をよく読み、まとめて発表する。そして、意見を交換し洞察を深めていく。その際には英語、そして、パワーポイント等の道具を駆使して効果的な情報発信型のプレゼンテーションに持っていく。

## 【テキスト】

随時資料を配布するが、情報収集力を付けるためにも各自が自主的に資料を収集することも期待される。

## 【参考文献】

『多文化社会と異文化コミュニケーション』伊佐雅子監修、三修社  
『異文化コミュニケーション ワークブック』八代京子他著、三修社  
『日本事情ハンドブック』水谷修他著、大修館書店

## 演習 I

担当教員 葛綿 正一

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

本演習は日本の古典文学・文化に関する演習を行うものである。今年度は特に狂言を取り上げる。狂言作品を一つ一つ取り上げながら注釈を試み、笑いの問題、オノマトペの効用などについて考える。

## 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	演習の進め方	17	発表する (8)
2	調べる (1)	18	発表する (9)
3	調べる (2)	19	発表する (10)
4	調べる (3)	20	発表する (11)
5	調べる (4)	21	発表する (12)
6	分析する (1)	22	発表する (13)
7	分析する (2)	23	発表する (14)
8	分析する (3)	24	発表する (15)
9	分析する (4)	25	ゼミ論集の制作 (1)
10	発表する (1)	26	ゼミ論集の制作 (2)
11	発表する (2)	27	ゼミ論集の制作 (3)
12	発表する (3)	28	ゼミ論集の制作 (4)
13	発表する (4)	29	まとめ (1)
14	発表する (5)	30	まとめ (2)
15	発表する (6)	31	
16	発表する (7)		

## 【履修上の注意事項】

九月にゼミ合宿の実施、二月にゼミ論集の完成を予定している。

毎回、小レポートの提出を義務づける。

厳しく学び合う場にしたいので、意欲の乏しい人は受講を遠慮してほしい。

登録予定人数は12名。中世近世文学論または映像文化論に関してテーマの明確な学生のみ受け入れる。

## 【評価方法】

発表内容、出席状況、授業への参加姿勢を総合的に評価する。

## 【テキスト】

そのつど紹介する。

## 【参考文献】

そのつど紹介する。

## 演習 I

担当教員 黒澤 亜里子

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

基本的には近現代の文学テキストを取り上げますが、毎年異なるテーマ、課題を設定します。一つのテーマをめぐって真剣に考え、かつ論じ合うゼミの醍醐味、楽しさを知ってもらいたい。

### 【授業の展開計画】

- 1 ゼミ運営の方針説明
- 2 レジュメの作り方
- 3 調査、資料収集の方法
- 4 学術論文のスタイル
- 5 発表及び討議
- 6 ゼミ論文の作成
- 7 ゼミ報告集の編集作業

### 【履修上の注意事項】

夏期合宿への参加は必須です。

### 【評価方法】

①発表 ②ゼミ活動への取り組みの姿勢、貢献度 ③出席

### 【テキスト】

プリント使用。

### 【参考文献】

取り上げる作品に応じて適宜指示します。

## 演習 I

担当教員 大野 隆之

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

日本近代文学の諸作品を徹底的に読み込む。研究・批評と、単なる感想文との差異を十分に自覚し、自己の研究スタイルを確立する。さらに他者の見解を十分理解したうえで、批判的に討議する能力を身につける。

### 【授業の展開計画】

- 1、演習のすすめ方、班編成、テキストの決定。
- 2、問題のたて方。
- 3、資料の蒐集法。
- 4、模擬演習。
- 5、報告と討議。

### 【履修上の注意事項】

報告および学年末のレポートが評価の中心となるが、報告者以外の討議の姿勢を十分に加味する。「現代文学理論」未受講の者は同時に受講すること。学年末にはゼミ報告書を発行する。過年度生は「演習一」に読み替える。

### 【評価方法】

### 【テキスト】

基本的に、各自が選択する。どのようなテキストを選ぶか、それ自体がすでに研究の一部である。

### 【参考文献】

## 演習 I

担当教員 山口 真也

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

本ゼミ(文化情報学ゼミ)のテーマである「表現の自由(知る自由)研究」「図書館情報学研究」「文化情報ソフトウェア制作」に関するさまざまなトピックを取り上げ、各自が興味関心を持つ専門分野の研究方法を学びます。後期から始まる個人研究発表のテーマ設定を各自で行うことを最終目標とし、①情報収集(文献調査)方法、②レジュメの作成方法、③グループ討論の方法(論理的な思考方法・発表スキル)、④社会調査方法などを学習し、卒業研究を行うために必要となる基本的な知識・技術を身につけることを目的とします。

## 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション(1):履修上の注意、授業の内容紹介、論文集の配布、発表日程の決定
2	オリエンテーション(2):就職活動と研究活動の両立・就職ガイダンス
3	卒業論文中間報告(1):4年生が現在取り組んでいる卒論テーマの紹介
4	卒業論文中間報告(2):4年生が現在取り組んでいる卒論テーマの紹介
5	卒業論文報告(1):昨年度の卒業論文集掲載論文のテーマに関するグループ討論
6	卒業論文報告(2):昨年度の卒業論文集掲載論文のテーマに関するグループ討論
7	卒業論文報告(3):昨年度の卒業論文集掲載論文のテーマに関するグループ討論
8	個人研究テーマの決定(1):先行研究の調査方法(図書・雑誌記事編)
9	個人研究テーマの決定(2):先行研究の調査方法(新聞記事・辞書事典・各種データ編)
10	個人研究テーマの決定(3):学術研究の方法(問題意識・仮説・検証)、研究計画書の作成方法
11	個人研究テーマの決定(4):社会調査法(アンケート・観察・インタビュー調査方法)
12	個人研究テーマ発表(1)
13	個人研究テーマ発表(2)
14	個人研究テーマ発表(3)
15	個人研究テーマ発表(4)
16	授業のまとめと自己評価(到達度チェック、レポート提出)

## 【履修上の注意事項】

- 1)データベース、ソフト制作を行う学生は、「文化情報学概論論」「マルチメディア論」「データベース論」「文化情報学基礎演習(情報学クラス)」の単位をすでに取得していることが望ましい。また、「地域データベース論」「地域データベース演習」を受講することを履修の条件とする。
- 2)図書館情報学研究を行う学生は、①図書館司書資格課程履修中、②3年次後期より始まる学校図書館司書教諭課程履修予定であることを条件とする。

## 【評価方法】

- 1)演習課題の提出状況、出席状況を総合的に判断し、評価します。
- 2)出席回数が全授業回数の2/3に満たない場合は単位を与えません。
- 3)欠席する場合は欠席届を提出すること。(無断で欠席しないこと)

## 【テキスト】

適宜指示する。

## 【参考文献】

適宜指示する。

## 演習 I

担当教員 仁野平 智明

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

国語教育学における諸問題についてとりあげ、検討・考察する。各自が設定したテーマに基づいて、研究の方法論を学びつつ考察を深め、発表して質疑応答・討議を行う形式とする。

### 【授業の展開計画】

学生の発表及びそれに対する質疑応答・討議を中心とするが、必要に応じて国語教育学に関する文献講読をおりまぜるなどして理解の深化を促す。前半は3年次による国語教育領域論に関する研究発表を、後半は4年次による卒業論文着想発表を行う予定である。

1. ガイダンス
2. 国語教育学の研究について
3. 各領域における今日的な問題について
4. 研究発表①
5. 研究発表②
6. 研究発表③
7. 研究発表④
8. 研究発表⑤
9. 研究発表⑥
10. 卒業論文着想発表①
11. 卒業論文着想発表②
12. 卒業論文着想発表③
13. 卒業論文着想発表④
14. 卒業論文着想発表⑤
15. 卒業論文着想発表⑥
16. 総括

### 【履修上の注意事項】

国語科教職課程を履修していること。  
教師を志し、学ぶことの厳しさと楽しさを共有したいと願う者の受講を望む。

### 【評価方法】

発表内容、授業への取り組み、出席状況などをもとにして総合的に判断する。

### 【テキスト】

必要に応じて紹介する。

### 【参考文献】

必要に応じて紹介する。

## 演習 I

担当教員 下地 賀代子

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

日本語の記述的研究およびフィールドワークの方法論を身につけることを目標とします。具体的には、まず、日本語学、社会言語学に関する先行研究をふまえつつ、受講者全員でテーマを決定します。そして、先行研究を読みこみ、そのテーマに合った調査方法・調査項目について検討、討議を重ねることによって、具体的な調査内容を決定します。そして、夏休みには実際に調査を行います。

### 【授業の展開計画】

- ・先行研究の確認、問題点の明確化 → テーマの絞り込み
- ・先行研究の読み込み(発表)
- ・調査方法および項目の検討、討議 → 調査内容の決定、調査票の作成
- ・実際のフィールドワーク

### 【履修上の注意事項】

受講者の積極的な参加、自主的な取り組みを期待します。フィールド調査・研究の面白さと醍醐味を体験してほしいです。

### 【評価方法】

演習への参加度、発表、質疑応答を総合的に評価します。

### 【テキスト】

授業中に適宜紹介します。

### 【参考文献】

牧野成一他『ウチとソトの言語学』アルク社  
ダニエル・ロング他著『応用社会言語学を学ぶ人のために』世界思想社



## 演習 I

担当教員 吉田 肇吾

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

本ゼミのコンセプトは「お互いに学びあうこと」。情報メディア社会における各種図書館について、図書館情報学を中心とする学問分野で、各自が設定したテーマに基づいて調査研究を進め、その内容を発表し、質疑応答・討議をおこなう。なお、3年生の段階では、興味・関心のある分野・テーマの基礎知識の整理に重点を置くため、文献調査を徹底的におこない、ゼミ論としてまとめる。

## 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション：論文作成作業について
2	ゼミ論の執筆①：執筆スケジュール
3	ゼミ論の執筆②：テーマ設定・研究方法
4	ゼミ論の執筆③：資料・情報の収集方法
5	ゼミ論の執筆④：論文の構成方法
6	ゼミ論の執筆⑤：執筆の書き方
7	ゼミ論の執筆⑥：内容発表・質疑応答・討議
8	テーマと方法論の発表／個別指導①
9	テーマと方法論の発表／個別指導②
10	テーマと方法論の発表／個別指導③
11	テーマと方法論の発表／個別指導④
12	進行状況報告・題点の発表／個別指導①
13	進行状況報告・題点の発表／個別指導②
14	進行状況報告・題点の発表／個別指導③
15	進行状況報告・題点の発表／個別指導④
16	まとめ

## 【履修上の注意事項】

各自が明確なテーマ設定、論文作成計画を立案すること。

## 【評価方法】

各自の発表、及び出席日数と討議への参加姿勢も含めて総合的に評価する。

## 【テキスト】

設定したテーマに基づき、各自が関連資料の調査・収集・選択することを基本とする。必要に応じ、調査方法・関連資料などを紹介する。

## 【参考文献】

## 演習 I

担当教員 田場 裕規

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

本演習は、所定の万葉集歌に関することを広く調査し、【校異】【通釈】【語釈】【考説】の項をもってレポート発表する。そのことによって、古典文学の研究方法を学ぶ。

## 【授業の展開計画】

- 1 ガイダンス 9 長奥麻呂
- 2 雄略天皇 10 志貴皇子
- 3 有間皇子 11 山部赤人
- 4 額田王 12 大伴旅人
- 5 額田王 13 大伴坂上郎女
- 6 大津皇子・大伯皇女 14 大伴家持
- 7 柿本人麻呂① 15 東歌・防人歌
- 8 柿本人麻呂②

## 【履修上の注意事項】

①無断欠席をしないこと。②レジュメ等プリント類を多く使うが、保持および保管は学生の責任において為すこと。余分に刷らない。③テキストを熟読すること。④レポーター以外も下調べを行ってから参加すること。

## 【評価方法】

①出席を重視する。②発表内容・演習に対する取り組みの姿勢等を総合的に評価する。

## 【テキスト】

神野志隆光編『万葉鑑賞辞典』（講談社学術文庫）1200円

## 【参考文献】

伊藤博『萬葉集釋注』、澤瀉久孝『萬葉集注釋』、久保田淳・馬場あきこ『歌ことば歌枕大辞典』等

## 演習 I

担当教員 西岡 敏

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

琉球語諸方言に関する調査・記述を行ないます。ある方言を記述する場合には、まず語彙の収集と音素体系の確立から始め、そののち、収集語彙の音素的記述、形態や文法の調査などを行なって記述を広げていきます。言語を研究するときの基本的な文法概念について学び、テキストの収集（録音）と記述、および、それについて註釈を付けることも試みます。ある方言を別の方言と比べることも、必要になってくることがあります。

## 【授業の展開計画】

初めは、琉球語に関する本を読んだりメディアにふれたりして、琉球語についての理解を深めます。また、琉球語諸方言を記録として書き留める練習をします。

その後、琉球語諸方言に関するテーマを決め、それについて実際に調査・記述します。音韻論・形態論（動詞や形容詞の活用など）・文法論・語彙論・アクセント論・敬語論・言語地理学・言語民俗学などの研究分野が考えられますので、グループごとにテーマを絞り、調査・分析を進めます。とくに、今まで調査があまりされていない方言の記述・分析が奨励されます。文法記述、辞書（語彙集）作成、テキスト収集などが大きな目標となります。音声テキストおよび画像資料の収集と、そのデジタル化も、これからの大切な仕事です。地元方言（地方語）の再活性化という問題も考えていきます。

まず教室で、先行文献の検討、調査表の作成、予備調査などを行ないます。その後、実際に現地に赴いて野外調査（フィールドワーク）を行ないます。再び教室に戻ったあと、集めた資料の整理をします。年度末には、みんなで一つの冊子を作り上げましょう。

## 【履修上の注意事項】

「日本語音声学」を受講済みのこと。音声学の知識は必須です。未受講の場合は、必ず受講のうえ、単位取得のこと。

年に数回、方言調査のフィールドワークを行ないます。聞き取り調査、調査の整理、補充調査に積極的に参加してください。

## 【評価方法】

出席状況、フィールドワークへの準備および参加、演習の発表、提出レポートなどを総合的に判断します。

## 【テキスト】

その都度指示します。

## 【参考文献】

その都度指示します。

## 演習 I

担当教員 狩俣 恵一

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

主として琉歌研究であるが、琉球文学の範囲内であれば発表者の希望に応じた内容でも構わない。琉歌の発表者は、各々が選択した琉歌を解釈し、その問題点から派生するテーマに基づいて考察して発表する。

特に琉歌は本土の和歌や歌謡の影響を強く受けている作品が多いので、それらを比較することで、研究対象の特質を明らかにする。

### 【授業の展開計画】

1. 受講生全員の発表内容の確定。
2. 発表資料は、パソコンで作成すること。
3. 琉歌発表者の資料は、①「琉歌百控」（岩波書店『新日本古典文学大系』）の原歌・読み・解釈・発表者の訳を記載すること。②語釈（言葉の文法的解釈、沖縄古語辞典などを参照する）、③テーマを考察するために必要な琉歌（類歌等）等を『琉歌全集』などで調べて記載し、必要に応じて、作者・時代背景などにも触れること。
4. 発表を聞く学生は、質問または感想を述べて理解を深めること。
5. 学年末には、それぞれの発表をまとめた『琉歌研究』を発刊する。

### 【履修上の注意事項】

1. 最初の授業時に、発表日程を決める。
2. 発表者が発表資料作成に当たって研究室で相談を受ける場合、あらかじめ連絡すること。
3. 発表者は、無断欠席をしないこと。

### 【評価方法】

出席点・発表レジュメ・発表の方法・質問内容による総合評価。

### 【テキスト】

### 【参考文献】

『琉歌全集』 『沖縄古語大辞典』 『琉歌大成』 『琉歌百控』 等。

## 演習Ⅱ

担当教員 葛綿 正一

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

本演習は日本の古典文学・文化に関する演習を行うものである。今年度は特に狂言を取り上げる。狂言作品を一つ一つ取り上げながら注釈を試み、笑いの問題、オノマトペの効用などについて考える。

## 【授業の展開計画】

週	授業の内容	週	授業の内容
1	演習の進め方	17	発表する(8)
2	調べる(1)	18	発表する(9)
3	調べる(2)	19	発表する(10)
4	調べる(3)	20	発表する(11)
5	調べる(4)	21	発表する(12)
6	分析する(1)	22	発表する(13)
7	分析する(2)	23	発表する(14)
8	分析する(3)	24	発表する(15)
9	分析する(4)	25	ゼミ論集の制作(1)
10	発表する(1)	26	ゼミ論集の制作(2)
11	発表する(2)	27	ゼミ論集の制作(3)
12	発表する(3)	28	ゼミ論集の制作(4)
13	発表する(4)	29	まとめ(1)
14	発表する(5)	30	まとめ(2)
15	発表する(6)	31	
16	発表する(7)		

## 【履修上の注意事項】

九月にゼミ合宿の実施、二月にゼミ論集の完成を予定している。

毎回、小レポートの提出を義務づける。

厳しく学び合う場にしたいので、意欲の乏しい人は受講を遠慮してほしい。

## 【評価方法】

発表内容、出席状況、授業への参加姿勢を総合的に評価する。

## 【テキスト】

そのつど紹介する。

## 【参考文献】

そのつど紹介する。

## 演習Ⅱ

担当教員 山口 真也

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

本ゼミのテーマである「表現の自由(知る自由)研究」「図書館情報学研究」「文化情報データベース・ソフトウェア制作」に関するさまざまなテーマを取り上げ、個人ごとに研究発表を行います。その過程で、卒業研究の基礎となる研究レポートを作成し、①学術論文の執筆方法(論理的な文章構成力)、②社会調査方法(アンケート・観察・インタビュー方法)、③調査結果の分析方法(データ集計法)、④プレゼンテーションスキル、⑤ディベート方法を習得し、卒業論文の作成、卒業制作を行うための基本的な知識、技術を身につけることを目的とします。

## 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	後期の目標・発表日程の決定・夏休みの学習状況の報告
2	レジュメの作成方法・引用の方法・参考文献の書き方
3	研究発表の方法(シナリオの作り方、討論テーマの設定方法)・4年生による模範発表
4	個人研究発表①   基本概念の整理方法・学術論文の文体
5	個人研究発表②   観察調査の分析方法・グラフによる表現方法
6	個人研究発表③   卒業研究題目仮登録
7	個人研究発表④   司会進行方法
8	個人研究発表⑤   インタビュー調査の分析方法・グラフによる表現方法
9	個人研究発表⑥   アンケート調査の分析方法・グラフによる表現方法
10	個人研究発表⑦   テーマ討論の方法
11	個人研究発表⑧   テーマ討論の方法
12	個人研究発表⑨   就職ガイダンス①(エントリーシートの書き方)
13	個人研究発表⑩   就職ガイダンス②(エントリーシートの書き方)
14	個人研究発表⑪   就職ガイダンス③(エントリーシートの書き方)
15	個人研究発表⑫   就職ガイダンス④(エントリーシートの送り方)
16	授業のまとめ(到達度のチェック・レポート提出)

## 【履修上の注意事項】

- 履修条件等は演習Ⅰと同じ。
- ゼミ生が13名以上の場合は、人数分の補講を12月末、または2月に行うことがあります。

## 【評価方法】

- 研究発表の完成度、準備に至る作業状況、出席状況を総合的に判断し、評価する。
- 出席回数が全授業回数 $\frac{2}{3}$ に満たない場合は単位を与えない。
- 欠席する場合は欠席届を提出すること。(無断で欠席しないこと)

## 【テキスト】

適宜指示する。

## 【参考文献】

適宜指示する。

## 演習Ⅱ

担当教員 下地 賀代子

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

日本語の記述的研究およびフィールドワークの方法論を身につけることを目標とします。前期に収集した、日本語学、社会言語学に関するテーマについての調査資料を分析し、発表します。全体での討議を経て、調査報告書を作成します。

### 【授業の展開計画】

- ・調査資料の検討 → 成果の発表、討議
- ・先行研究との比較、考察
- ・執筆分担、報告書の構成を決定
- ・報告書の作成

### 【履修上の注意事項】

受講者の積極的な参加、自主的な取り組みを期待します。フィールド調査・研究の面白さと醍醐味を体験してほしいです。

### 【評価方法】

演習への参加度、発表、質疑応答を総合的に評価します。

### 【テキスト】

授業中に適宜紹介します。

### 【参考文献】

その他、授業中で適宜紹介します。

## 演習Ⅱ

担当教員 田場 裕規

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

本演習は、概ね「古代文学」（上代文学・中古文学）を扱うものとするが、国語科教育における古典教育（古典文学教育）に関する分野も扱い、「古典と教育」というテーマも併せて考察する。様々な視点から複眼的に思考することによって、「古典と教育」を論じ、学びの共同体を目指す。

### 【授業の展開計画】

演習Ⅰで学んだことを踏まえて、各自が設定した研究テーマについて調査・考察し、その報告と討議によって演習を進める。年度末には、ゼミ論集等を作成する。

- 1 ガイダンス
- 2 研究発表
- 3 研究発表
- 4 研究発表
- 5 研究発表
- 6 研究発表
- 7 研究発表
- 8 研究発表
- 9 研究発表
- 10 研究発表
- 11 研究発表
- 12 研究発表
- 13 研究発表
- 14 ゼミ論集等の作成
- 15 まとめ

### 【履修上の注意事項】

①無断欠席をしないこと。②レジュメ等プリント類を多く使うが、保持および保管は学生の責任において為すこと。余分に刷らない。③毎時間、A4一枚の課題を課し評価に加味する。

### 【評価方法】

①出席を重視する。②発表内容・演習に対する取り組みの姿勢等を総合的に評価する。

### 【テキスト】

必要に応じて指示する。

### 【参考文献】

必要に応じて指示する。



## 演習Ⅱ

担当教員 仁野平 智明

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

国語教育学における諸問題についてとりあげ、検討・考察する。各自が設定したテーマに基づいて、研究の方法論を学びつつ考察を深め、発表して質疑応答・討議を行う形式とする。

### 【授業の展開計画】

学生の発表及びそれに対する質疑応答・討議を中心とするが、必要に応じて国語教育学に関する文献講読をおりませるなどして理解の深化を促す。前半は国語教育指導論に関する研究発表を、後半は文学作品を考察対象とした教材論に関する研究発表を行い、1月は4年次による卒業論文発表会とする。

1. ガイダンス
2. 国語教育学指導論の今日的な問題について
3. 研究発表①
4. 研究発表②
5. 研究発表③
6. 研究発表④
7. 教材論について
8. 研究発表⑤
9. 研究発表⑥
10. 研究発表⑦
11. 研究発表⑧
12. 研究発表⑨
13. 研究発表⑩
14. 卒業論文発表会①
15. 卒業論文発表会②
16. 総括、ゼミ論集発行に向けて

### 【履修上の注意事項】

国語科教職課程を履修していること。  
教師を志し、学ぶことの厳しさと楽しさを共有したいと願う者の受講を望む。

### 【評価方法】

発表内容、授業への取り組み、出席状況などをもとにして総合的に判断する。

### 【テキスト】

必要に応じて紹介する。

### 【参考文献】

必要に応じて紹介する。

## 演習Ⅱ

担当教員 西岡 敏

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

琉球語諸方言に関する調査・記述を行ないます。ある方言を記述する場合には、まず語彙の収集と音素体系の確立から始め、そののち、収集語彙の音素的記述、形態や文法の調査などを行なって記述を広げていきます。言語を研究するときの基本的な文法概念について学び、テキストの収集（録音）と記述、および、それについて註釈を付けることも試みます。ある方言を別の方言と比べることも、必要になってくる場合があります。

### 【授業の展開計画】

初めは、琉球語に関する本を読んだりメディアにふれたりして、琉球語についての理解を深めます。また、琉球語諸方言を記録として書き留める練習をします。

その後、琉球語諸方言に関するテーマを決め、それについて実際に調査・記述します。音韻論・形態論（動詞や形容詞の活用など）・文法論・語彙論・アクセント論・敬語論・言語地理学・言語民俗学などの研究分野が考えられますので、グループごとにテーマを絞り、調査・分析を進めます。とくに、今まで調査があまりされていない方言の記述・分析が奨励されます。文法記述、辞書（語彙集）作成、テキスト収集などが大きな目標となります。音声テキストおよび画像資料の収集と、そのデジタル化も、これからの大切な仕事です。地元方言（地方語）の再活性化という問題も考えていきます。

まず教室で、先行文献の検討、調査表の作成、予備調査などを行ないます。その後、実際に現地に赴いて野外調査（フィールドワーク）を行ないます。再び教室に戻ったあと、集めた資料の整理をします。年度末には、みんなで一つの冊子を作り上げましょう。

### 【履修上の注意事項】

「日本語音声学」を受講済みのこと。音声学の知識は必須です。未受講の場合は、必ず受講のうえ、単位取得のこと。

年に数回、方言調査のフィールドワークを行ないます。聞き取り調査、調査の整理、補充調査に積極的に参加してください。

### 【評価方法】

出席状況、フィールドワークへの準備および参加、演習の発表、提出レポートなどを総合的に判断します。

### 【テキスト】

その都度指示します。

### 【参考文献】

その都度指示します。

## 演習Ⅱ

担当教員 大野 隆之

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

日本近代文学の諸作品を徹底的に読み込む。研究・批評と、単なる感想文との差異を十分に自覚し、自己の研究スタイルを確立する。さらに他者の見解を十分理解したうえで、批判的に討議する能力を身につける。

### 【授業の展開計画】

- 1、前期演習の反省。
- 2、後期の問題設定。
- 3、報告と討議。

### 【履修上の注意事項】

報告および学年末のレポートが評価の中心となるが、報告者以外の討議の姿勢を十分に加味する。  
「現代文学理論」未受講の者は同時に受講すること。学年末にはゼミ報告書を発行する。

過年度生は「演習一」に読み替える。

### 【評価方法】

### 【テキスト】

基本的に、各自が選択する。どのようなテキストを選ぶか、それ自体がすでに研究の一部である。

### 【参考文献】

## 演習Ⅱ

担当教員 吉田 肇吾

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

本ゼミのコンセプトは「お互いに学びあうこと」。情報メディア社会における各種図書館について、図書館情報学を中心とする学問分野で、各自が設定したテーマに基づいて調査研究を進め、その内容を発表し、質疑応答・討議をおこなう。なお、3年生の段階では、興味・関心のある分野・テーマの基礎知識の整理に重点を置くため、文献調査を徹底的におこない、ゼミ論としてまとめる。

## 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション：後期日程について
2	ゼミ論：経過報告／個別指導①
3	ゼミ論：経過報告／個別指導②
4	ゼミ論：経過報告／個別指導③
5	ゼミ論：書き方
6	ゼミ論執筆：個別指導①
7	ゼミ論執筆：個別指導②
8	ゼミ論執筆：個別指導③
9	ゼミ論執筆：個別指導④
10	ゼミ論発表／質疑応答①
11	ゼミ論発表／質疑応答②
12	ゼミ論発表／質疑応答③
13	ゼミ論発表／質疑応答④
14	ゼミ論発表／質疑応答⑤
15	ゼミ論発表／質疑応答⑥
16	ゼミ論提出

## 【履修上の注意事項】

各自のテーマ設定に基づき、あらゆる情報手段を活用して必要な資料・情報源を収集し、テーマに関する基礎知識を整理すること。

## 【評価方法】

各自の発表、及び出席回数と討議への参加姿勢も含めて総合的に評価する。

## 【テキスト】

設定したテーマに基づき、各自が関連資料の調査・収集・選択することを基本とする。必要に応じ、調査方法・関連資料などを紹介する。

## 【参考文献】

## 演習Ⅱ

担当教員 黒澤 亜里子

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

基本的には近現代の文学テキストを取り上げますが、毎年異なるテーマ、課題を設定します。一つのテーマをめぐって真剣に考え、かつ論じ合うゼミの醍醐味、楽しさを知ってもらいたい。

### 【授業の展開計画】

- 1 ゼミ運営の方針説明
- 2 レジュメの作り方
- 3 調査、資料収集の方法
- 4 学術論文のスタイル
- 5 発表及び討議
- 6 ゼミ論文の作成
- 7 ゼミ報告集の編集作業

### 【履修上の注意事項】

夏期合宿への参加は必須です。

### 【評価方法】

- ①発表 ②ゼミ活動への取り組みの姿勢、貢献度 ③出席

### 【テキスト】

プリント使用。

### 【参考文献】

取り上げる作品に応じて適宜指示します。

## 演習Ⅱ

担当教員 狩俣 恵一

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

主として琉歌研究であるが、琉球文学の範囲内であれば発表者の希望に応じた内容でも構わない。琉歌の発表者は、各々が選択した琉歌を解釈し、その問題点から派生するテーマに基づいて考察して発表する。特に琉歌は本土の和歌や歌謡の影響を強く受けている作品が多いので、比較することで、研究対象の特質を明らかにする。

### 【授業の展開計画】

1. 受講生全員の発表内容の確定。
2. レジュメは、パソコンで作成すること。
3. 琉歌発表者のレジュメには、①琉歌百控（新日本古典文学大系）の原歌・解釈・発表者の訳、②語釈（言葉の文法的解釈、「沖縄古語大辞典」などを参照）、③テーマを考察するために必要な琉歌（類歌等）等を『琉歌全集』などを参考に記載し、必要に応じて、作者・時代背景などにも触れること。
4. 発表を聞く学生は、質問または感想を述べること。

### 【履修上の注意事項】

最初の授業時に、発表日程を決める。発表者は、あらかじめ指導を受けること。発表者であるにも拘らず、当日に無断欠席した場合は単位を認めない。

### 【評価方法】

出席点・発表レジュメ・発表の方法・質問内容による総合評価。

### 【テキスト】

### 【参考文献】

『琉歌全集』 『沖縄古語大辞典』 『琉歌大成』 『琉歌百控』 等。

## 演習Ⅲ

担当教員 葛綿 正一

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

本演習は日本の古典文学・文化に関する演習を行うものである。今年度は特に狂言を取り上げる。狂言作品を一つ一つ取り上げながら注釈を試み、笑いの問題、オノマトペの効用などについて考える。

## 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	演習の進め方	17	発表する (8)
2	調べる (1)	18	発表する (9)
3	調べる (2)	19	発表する (10)
4	調べる (3)	20	発表する (11)
5	調べる (4)	21	発表する (12)
6	分析する (1)	22	発表する (13)
7	分析する (2)	23	発表する (14)
8	分析する (3)	24	発表する (15)
9	分析する (4)	25	ゼミ論集の制作 (1)
10	発表する (1)	26	ゼミ論集の制作 (2)
11	発表する (2)	27	ゼミ論集の制作 (3)
12	発表する (3)	28	ゼミ論集の制作 (4)
13	発表する (4)	29	まとめ (1)
14	発表する (5)	30	まとめ (2)
15	発表する (6)	31	
16	発表する (7)		

## 【履修上の注意事項】

九月にゼミ合宿の実施、二月にゼミ論集の完成を予定している。

毎回、小レポートの提出を義務づける。

厳しく学び合う場にしたいので、意欲の乏しい人は受講を遠慮してほしい。

## 【評価方法】

発表内容、出席状況、授業への参加姿勢を総合的に評価する。

## 【テキスト】

そのつど紹介する。

## 【参考文献】

そのつど紹介する。

## 演習Ⅲ

担当教員 田場 裕規

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

本演習は、所定の万葉集歌に関することを広く調査し、【校異】【通釈】【語釈】【考説】の項をもってレポート発表する。そのことによって、古典文学の研究方法を学ぶ。

### 【授業の展開計画】

- 1 ガイダンス 9 長奥麻呂
- 2 雄略天皇 10 志貴皇子
- 3 有間皇子 11 山部赤人
- 4 額田王 12 大伴旅人
- 5 額田王 13 大伴坂上郎女
- 6 大津皇子・大伯皇女 14 大伴家持
- 7 柿本人麻呂① 15 東歌・防人歌
- 8 柿本人麻呂②

### 【履修上の注意事項】

①無断欠席をしないこと。②レジュメ等プリント類を多く使うが、保持および保管は学生の責任において為すこと。余分に刷らない。③テキストを熟読すること。④レポーター以外も下調べを行ってから参加すること。

### 【評価方法】

①出席を重視する。②発表内容・演習に対する取り組みの姿勢等を総合的に評価する。

### 【テキスト】

神野志隆光編『万葉鑑賞辞典』（講談社学術文庫）1200円

### 【参考文献】

伊藤博『萬葉集釋注』、澤瀉久孝『萬葉集注釋』、久保田淳・馬場あきこ『歌ことば歌枕大辞典』等



## 演習Ⅲ

担当教員 仁野平 智明

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

国語教育学における諸問題についてとりあげ、検討・考察する。各自が設定したテーマに基づいて、研究の方法論を学びつつ考察を深め、発表して質疑応答・討議を行う形式とする。

### 【授業の展開計画】

学生の発表及びそれに対する質疑応答・討議を中心とするが、必要に応じて国語教育学に関する文献講読なをおりませるなどして理解の深化を促す。前半は3年次による国語教育領域論に関する研究発表を、後半は4年次による卒業論文着想発表を行う予定である。

1. ガイダンス
2. 国語教育学の研究について
3. 各領域における今日的な問題について
4. 研究発表①
5. 研究発表②
6. 研究発表③
7. 研究発表④
8. 研究発表⑤
9. 研究発表⑥
10. 卒業論文着想発表①
11. 卒業論文着想発表②
12. 卒業論文着想発表③
13. 卒業論文着想発表④
14. 卒業論文着想発表⑤
15. 卒業論文着想発表⑥
16. 総括

### 【履修上の注意事項】

国語科教職課程を履修していること。

教師を志し、学ぶことの厳しさと楽しさを共有したいと願う者の受講を望む。

### 【評価方法】

発表内容、授業への取り組み、出席状況などをもとにして総合的に判断する。

### 【テキスト】

必要に応じて紹介する。

### 【参考文献】

必要に応じて紹介する。

## 演習Ⅲ

担当教員 西岡 敏

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

琉球語諸方言に関する調査・記述を行ないます。ある方言を記述する場合には、まず語彙の収集と音素体系の確立から始め、そののち、収集語彙の音素的記述、形態や文法の調査などを行なって記述を広げていきます。言語を研究するときの基本的な文法概念について学び、テキストの収集（録音）と記述、および、それについて註釈を付けることも試みます。ある方言を別の方言と比べることも、必要になってくる場合があります。

## 【授業の展開計画】

初めは、琉球語に関する本を読んだりメディアにふれたりして、琉球語についての理解を深めます。また、琉球語諸方言を記録として書き留める練習をします。

その後、琉球語諸方言に関するテーマを決め、それについて実際に調査・記述します。音韻論・形態論（動詞や形容詞の活用など）・文法論・語彙論・アクセント論・敬語論・言語地理学・言語民俗学などの研究分野が考えられますので、グループごとにテーマを絞り、調査・分析を進めます。とくに、今まで調査があまりされていない方言の記述・分析が奨励されます。文法記述、辞書（語彙集）作成、テキスト収集などが大きな目標となります。音声テキストおよび画像資料の収集と、そのデジタル化も、これからの大切な仕事です。地元方言（地方語）の再活性化という問題も考えていきます。

まず教室で、先行文献の検討、調査表の作成、予備調査などを行ないます。その後、実際に現地に赴いて野外調査（フィールドワーク）を行ないます。再び教室に戻ったあと、集めた資料の整理をします。年度末には、みんなで一つの冊子を作り上げましょう。

## 【履修上の注意事項】

「日本語音声学」を受講済みのこと。音声学の知識は必須です。未受講の場合は、必ず受講のうえ、単位取得のこと。

年に数回、方言調査のフィールドワークを行ないます。聞き取り調査、調査の整理、補充調査に積極的に参加してください。

## 【評価方法】

出席状況、フィールドワークへの準備および参加、演習の発表、提出レポートなどを総合的に判断します。

## 【テキスト】

その都度指示します。

## 【参考文献】

その都度指示します。

## 演習Ⅲ

担当教員 狩俣 恵一

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

それぞれの研究テーマを発表する。琉球文学の範囲内であれば発表者の希望に応じた内容でも構わない。琉球文学には、琉球の士族社会で生まれたオモロ・琉歌・説話・古典芸能・記載文学などと、庶民社会で育まれた歌謡・説話・民俗芸能などがあるが、それらは相互に影響関係にある。そのことを考慮して、研究を進めること。特に琉歌は本土の和歌や歌謡の影響を強く受けている作品が多いので、比較することで、研究対象の特質を明らかにすること。

### 【授業の展開計画】

1. 受講生全員の発表内容の確定。
2. 発表資料作成に当たって指導を希望する学生は、あらかじめ連絡して研究室で指導を受けること。
3. 発表資料は、パソコンで作成すること。
4. 発表を聞く学生は、質問または感想を述べて理解を深めること。

### 【履修上の注意事項】

発表者が無断欠席した場合は単位を認めない。

### 【評価方法】

出席点・発表資料・発表内容・質疑の総合評価。

### 【テキスト】

なし

### 【参考文献】

必要に応じて、その都度指示する。

## 演習Ⅲ

担当教員 下地 賀代子

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

日本語の記述的研究およびフィールドワークの方法論を身につけることを目標とします。具体的には、まず、日本語学、社会言語学に関する先行研究をふまえつつ、受講者全員でテーマを決定します。そして、先行研究を読みこみ、そのテーマに合った調査方法・調査項目について検討、討議を重ねることによって、具体的な調査内容を決定します。そして、夏休みには実際に調査を行います。

### 【授業の展開計画】

- ・先行研究の確認、問題点の明確化 → テーマの絞り込み
- ・先行研究の読み込み(発表)
- ・調査方法および項目の検討、討議 → 調査内容の決定、調査票の作成
- ・実際のフィールドワーク

### 【履修上の注意事項】

受講者の積極的な参加、自主的な取り組みを期待します。フィールド調査・研究の面白さと醍醐味を体験してほしいです。

### 【評価方法】

演習への参加度、発表、質疑応答を総合的に評価します。

### 【テキスト】

授業中に適宜紹介します。

### 【参考文献】

牧野成一他『ウチとソトの言語学』アルク社  
ダニエル・ロング他著『応用社会言語学を学ぶ人のために』世界思想社

## 演習Ⅲ

担当教員 山口 真也

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

本ゼミ(文化情報学ゼミ)のテーマである「表現の自由(知る自由)研究」「図書館情報学研究」「文化情報ソフトウェア制作」に関するさまざまなトピックを取り上げ、各自が興味関心を持つ専門分野の研究方法を学びます。4年生は、新ゼミ生(3年生)のチューターとして、各自の卒論研究の中間報告を行うとともに、3年生によるグループ討論、研究テーマ決定、文献調査、テーマ発表において随時アドバイスを行うことで、卒業研究に必要なとなる知識、技能を再確認するとともに、プレゼンテーションスキルと協働意識を身につけることを目的とします。

### 【授業の展開計画】

各回の内容は演習Ⅰと同じです。

### 【履修上の注意事項】

演習Ⅰと同じ。

### 【評価方法】

演習Ⅰと同じ。

### 【テキスト】

適宜指示する。

### 【参考文献】

適宜指示する。

## 演習Ⅲ

担当教員 吉田 肇吾

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

本ゼミのコンセプトは「お互いに学びあうこと」。生涯学習社会・情報社会における各種図書館について、図書館情報学を中心とする学問分野で、各自が設定したテーマに基づき調査・研究を進め、その内容を発表し、質疑応答・討議をおこなう。4年次では、3年次で文献調査を通してまとめた基礎知識を踏まえた上で、さらにアンケート調査の実施や集計結果の考察を深め、卒論としてまとめる。

## 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション：ゼミ論から卒論へ
2	卒論：執筆スケジュールの組み方
3	卒論：テーマ設定・研究方法の確定
4	卒論：資料・情報の収集方法
5	卒論：論文の構成方法について
6	卒論：書き方・内容発表・質疑応答
7	テーマと方法論の発表／個別指導①
8	テーマと方法論の発表／個別指導②
9	テーマと方法論の発表／個別指導③
10	テーマと方法論の発表／個別指導④
11	進行状況・問題点の報告／個別指導①
12	進行状況・問題点の報告／個別指導②
13	進行状況・問題点の報告／個別指導③
14	進行状況・問題点の報告／個別指導④
15	進行状況・問題点の報告／個別指導⑤
16	まとめ

## 【履修上の注意事項】

各自のテーマ設定に基づき、論文作成作業を着実に進めること。

## 【評価方法】

各自の発表、及び出席回数と討議への参加姿勢も含めて総合的に評価する。

## 【テキスト】

設定したテーマに関する関連資料を収集して基礎知識を持ち、さらに図書館現場への調査活動をもおこなう。必要に応じ、調査方法・関連資料などを紹介する。

## 【参考文献】

## 演習Ⅲ

担当教員 黒澤 亜里子

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

基本的には近現代の文学テキストを取り上げますが、毎年異なるテーマ、課題を設定します。一つのテーマをめぐって真剣に考え、かつ論じ合うゼミナールの醍醐味、楽しさを知ってもらいたい。

### 【授業の展開計画】

- 1 ゼミ運営の方針説明
- 2 レジュメの作り方
- 3 調査、資料収集の方法
- 4 学術論文のスタイル
- 5 発表及び討議
- 6 ゼミ論文の作成
- 7 ゼミ報告集の編集作業

### 【履修上の注意事項】

夏期合宿への参加は必須です。

### 【評価方法】

①発表 ②ゼミ活動への取り組みの姿勢、貢献度 ③出席

### 【テキスト】

プリント使用。

### 【参考文献】

取り上げる作品に応じて適宜指示します。

## 演習Ⅲ

担当教員 大野 隆之

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

日本近代文学の諸作品を徹底的に読み込む。研究・批評と、単なる感想文との差異を十分に自覚し、自己の研究スタイルを確立する。さらに他者の見解を十分理解したうえで、批判的に討議する能力を身につける。

### 【授業の展開計画】

- 1、演習のすすめ方、班編成、テキストの決定。
- 2、問題のたて方。
- 3、資料の蒐集法。
- 4、模擬演習。
- 5、報告と討議。

### 【履修上の注意事項】

報告および学年末のレポートが評価の中心となるが、報告者以外の討議の姿勢を十分に加味する。「現代文学理論」未受講の者は同時に受講すること。学年末にはゼミ報告書を発行する。

過年度生は「演習一」に読み替える。

### 【評価方法】

### 【テキスト】

基本的に、各自が選択する。どのようなテキストを選ぶか、それ自体がすでに研究の一部である。

### 【参考文献】



## 演習Ⅳ

担当教員 葛綿 正一

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

本演習は日本の古典文学・文化に関する演習を行うものである。今年度は特に狂言を取り上げる。狂言作品を一つ一つ取り上げながら注釈を試み、笑いの問題、オノマトペの効用などについて考える。

## 【授業の展開計画】

週	授業の内容	週	授業の内容
1	演習の進め方	17	発表する(8)
2	調べる(1)	18	発表する(9)
3	調べる(2)	19	発表する(10)
4	調べる(3)	20	発表する(11)
5	調べる(4)	21	発表する(12)
6	分析する(1)	22	発表する(13)
7	分析する(2)	23	発表する(14)
8	分析する(3)	24	発表する(15)
9	分析する(4)	25	ゼミ論集の制作(1)
10	発表する(1)	26	ゼミ論集の制作(2)
11	発表する(2)	27	ゼミ論集の制作(3)
12	発表する(3)	28	ゼミ論集の制作(4)
13	発表する(4)	29	まとめ(1)
14	発表する(5)	30	まとめ(2)
15	発表する(6)	31	
16	発表する(7)		

## 【履修上の注意事項】

九月にゼミ合宿の実施、二月にゼミ論集の完成を予定している。

毎回、小レポートの提出を義務づける。

厳しく学び合う場にしたいので、意欲の乏しい人は受講を遠慮してほしい。

## 【評価方法】

発表内容、出席状況、授業への参加姿勢を総合的に評価する。

## 【テキスト】

そのつど紹介する。

## 【参考文献】

そのつど紹介する。

## 演習Ⅳ

担当教員 下地 賀代子

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

日本語の記述的研究およびフィールドワークの方法論を身につけることを目標とします。前期に収集した、日本語学、社会言語学に関するテーマについての調査資料を分析し、発表します。全体での討議を経て、調査報告書を作成します。

### 【授業の展開計画】

- ・調査資料の検討 → 成果の発表、討議
- ・先行研究との比較、考察
- ・執筆分担、報告書の構成を決定
- ・報告書の作成

### 【履修上の注意事項】

受講者の積極的な参加、自主的な取り組みを期待します。フィールド調査・研究の面白さと醍醐味を体験してほしいです。

### 【評価方法】

演習への参加度、発表、質疑応答を総合的に評価します。

### 【テキスト】

授業中に適宜紹介します。

### 【参考文献】

その他、授業中で適宜紹介します。

## 演習Ⅳ

担当教員 大野 隆之

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

日本近代文学の諸作品を徹底的に読み込む。研究・批評と、単なる感想文との差異を十分に自覚し、自己の研究スタイルを確立する。さらに他者の見解を十分理解したうえで、批判的に討議する能力を身につける。

### 【授業の展開計画】

- 1、前期演習の反省。
- 2、後期の問題設定。
- 3、報告と討議。

### 【履修上の注意事項】

報告および学年末のレポートが評価の中心となるが、報告者以外の討議の姿勢を十分に加味する。「現代文学理論」未受講の者は同時に受講すること。学年末にはゼミ報告書を発行する。

過年度生は「演習一」に読み替える。

### 【評価方法】

### 【テキスト】

基本的に、各自が選択する。どのようなテキストを選ぶか、それ自体がすでに研究の一部である。

### 【参考文献】

## 演習Ⅳ

担当教員 黒澤 亜里子

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

基本的には近現代の文学テキストを取り上げますが、毎年異なるテーマ、課題を設定します。一つのテーマをめぐって真剣に考え、かつ論じ合うゼミナールの醍醐味、楽しさを知ってもらいたい。

### 【授業の展開計画】

- 1 ゼミ運営の方針説明
- 2 レジユメの作り方
- 3 調査、資料収集の方法
- 4 学術論文のスタイル
- 5 発表及び討議
- 6 ゼミ論文の作成
- 7 ゼミ報告集の編集作業

### 【履修上の注意事項】

夏期合宿への参加は必須です。

### 【評価方法】

①発表 ②ゼミ活動への取り組みの姿勢、貢献度 ③出席

### 【テキスト】

プリント使用。

### 【参考文献】

取り上げる作品に応じて適宜指示します。

## 演習Ⅳ

担当教員 吉田 肇吾

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

本ゼミのコンセプトは「お互いに学びあうこと」。情報メディア社会における各種図書館について、図書館情報学を中心とする学問分野で、各自が設定したテーマに基づき調査・研究をすすめ、その内容を発表し質疑応答・討議をおこなう。4年次では、3年次で文献調査を通してまとめた基礎知識を踏まえた上で、さらに図書館現場へのアンケート調査などにより考察を深め、卒論としてまとめる。

## 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション：後期日程について
2	卒論：中間発表／個別指導①
3	卒論：中間発表／個別指導②
4	卒論：中間発表／個別指導③
5	卒論：中間発表／個別指導④
6	論文執筆：個別指導①
7	論文執筆：個別指導②
8	論文執筆：個別指導③
9	論文執筆：個別指導④
10	論文内容の発表・質疑応答／個別指導①
11	論文内容の発表・質疑応答／個別指導②
12	論文内容の発表・質疑応答／個別指導③
13	論文内容の発表・質疑応答／個別指導④
14	論文内容の発表・質疑応答／個別指導⑤
15	論文内容の発表・質疑応答／個別指導⑥
16	卒業論文提出

## 【履修上の注意事項】

各自のテーマ設定に基づき、論文作成の後期段階を着実に進めること。  
論文発表時には、各自レジュメを準備・配布し、口頭による丁寧な補足説明をおこなうこと。

## 【評価方法】

各自の発表、及び出席回数と討議への参加姿勢も含めて総合的に評価する。

## 【テキスト】

設定したテーマに基づき関連資料を収集することを基本とする。  
必要に応じ、調査方法・関連資料などを紹介する。

## 【参考文献】

## 演習Ⅳ

担当教員 狩俣 恵一

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

主として琉歌研究であるが、琉球文学の範囲内であれば発表者の希望に応じた内容でも構わない。琉歌の発表者は、各々が選択した琉歌を解釈し、その問題点から派生するテーマに基づいて考察して発表する。

特に琉歌は本土の和歌や歌謡の影響を強く受けている作品が多いので、比較することで、研究対象の特質を明らかにする。

### 【授業の展開計画】

1. 受講生全員の発表内容の確定。
2. レジュメは、パソコンで作成すること。
3. 琉歌発表者のレジュメには、①琉歌全集の原歌・評釈・発表者の訳、②語釈（言葉の文法的解釈）、③テーマを考察するために必要な琉歌（類歌等）等を記載し、必要に応じて、作者・時代背景などにも触れること。
4. 発表を聞く学生は、質問または感想を述べること。

### 【履修上の注意事項】

最初の授業時に、発表日程を決める。発表者は、あらかじめ指導を受けること。発表者であるにも拘らず、当日に無断欠席した場合は単位を認めない。

### 【評価方法】

出席点・発表レジュメ・発表の方法・質問内容による総合評価。

### 【テキスト】

### 【参考文献】

『琉歌全集』 『沖縄古語大辞典』 『琉歌大成』 『琉歌百控』 等。

## 演習Ⅳ

担当教員 仁野平 智明

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

国語教育学における諸問題についてとりあげ、検討・考察する。各自が設定したテーマに基づいて、研究の方法論を学びつつ考察を深め、発表して質疑応答・討議を行う形式とする。

### 【授業の展開計画】

学生の発表及びそれに対する質疑応答・討議を中心とするが、必要に応じて国語教育学に関する文献講読をおりませるなどして理解の深化を促す。前半は国語教育指導論に関する研究発表を、後半は文学作品を考察対象とした教材論に関する研究発表を行い、1月は4年次による卒業論文発表会とする。

1. ガイダンス
2. 国語教育学指導論の今日的な問題について
3. 研究発表①
4. 研究発表②
5. 研究発表③
6. 研究発表④
7. 教材論について
8. 研究発表⑤
9. 研究発表⑥
10. 研究発表⑦
11. 研究発表⑧
12. 研究発表⑨
13. 研究発表⑩
14. 卒業論文発表会①
15. 卒業論文発表会②
16. 総括、ゼミ論集発行に向けて

### 【履修上の注意事項】

国語科教職課程を履修していること。  
教師を志し、学ぶことの厳しさと楽しさを共有したいと願う者の受講を望む。

### 【評価方法】

発表内容、授業への取り組み、出席状況などをもとにして総合的に判断する。

### 【テキスト】

必要に応じて紹介する。

### 【参考文献】

必要に応じて紹介する。

## 演習Ⅳ

担当教員 田場 裕規

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

本演習は、概ね「古代文学」（上代文学・中古文学）を扱うものとするが、国語科教育における古典教育（古典文学教育）に関する分野も扱い、「古典と教育」というテーマも併せて考察する。様々な視点から複眼的に思考することによって、「古典と教育」を論じ、学びの共同体を目指す。

### 【授業の展開計画】

演習Ⅰで学んだことを踏まえて、各自が設定した研究テーマについて調査・考察し、その報告と討議によって演習を進める。年度末には、ゼミ論集等を作成する。

- 1 ガイダンス
- 2 研究発表
- 3 研究発表
- 4 研究発表
- 5 研究発表
- 6 研究発表
- 7 研究発表
- 8 研究発表
- 9 研究発表
- 10 研究発表
- 11 研究発表
- 12 研究発表
- 13 研究発表
- 14 ゼミ論集等の作成
- 15 まとめ

### 【履修上の注意事項】

①無断欠席をしないこと。②レジュメ等プリント類を多く使うが、保持および保管は学生の責任において為すこと。余分に刷らない。③毎時間、A4一枚の課題を課し評価に加味する。

### 【評価方法】

①出席を重視する。②発表内容・演習に対する取り組みの姿勢等を総合的に評価する。

### 【テキスト】

必要に応じて指示する。

### 【参考文献】

必要に応じて指示する。



## 演習Ⅳ

担当教員 西岡 敏

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

琉球語諸方言に関する調査・記述を行ないます。ある方言を記述する場合には、まず語彙の収集と音素体系の確立から始め、そののち、収集語彙の音素的記述、形態や文法の調査などを行なって記述を広げていきます。言語を研究するときの基本的な文法概念について学び、テキストの収集（録音）と記述、および、それについて註釈を付けることも試みます。ある方言を別の方言と比べることも、必要になってくる場合があります。

## 【授業の展開計画】

初めは、琉球語に関する本を読んだりメディアにふれたりして、琉球語についての理解を深めます。また、琉球語諸方言を記録として書き留める練習をします。

その後、琉球語諸方言に関するテーマを決め、それについて実際に調査・記述します。音韻論・形態論（動詞や形容詞の活用など）・文法論・語彙論・アクセント論・敬語論・言語地理学・言語民俗学などの研究分野が考えられますので、グループごとにテーマを絞り、調査・分析を進めます。とくに、今まで調査があまりされていない方言の記述・分析が奨励されます。文法記述、辞書（語彙集）作成、テキスト収集などが大きな目標となります。音声テキストおよび画像資料の収集と、そのデジタル化も、これからの大切な仕事です。地元方言（地方語）の再活性化という問題も考えていきます。

まず教室で、先行文献の検討、調査表の作成、予備調査などを行ないます。その後、実際に現地に赴いて野外調査（フィールドワーク）を行ないます。再び教室に戻ったあと、集めた資料の整理をします。年度末には、みんなで一つの冊子を作り上げましょう。

## 【履修上の注意事項】

「日本語音声学」を受講済みのこと。音声学の知識は必須です。未受講の場合は、必ず受講のうえ、単位取得のこと。

年に数回、方言調査のフィールドワークを行ないます。聞き取り調査、調査の整理、補充調査に積極的に参加してください。

## 【評価方法】

出席状況、フィールドワークへの準備および参加、演習の発表、提出レポートなどを総合的に判断します。

## 【テキスト】

その都度指示します。

## 【参考文献】

その都度指示します。

## 演習Ⅳ

担当教員 山口 真也

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

本ゼミのテーマである「表現の自由(知る自由)研究」「図書館情報学研究」「文化情報データベース・ソフトウェア制作」に関するさまざまなテーマを取り上げ、3年生による個人研究発表を行います。4年生は、チューターとして、3年生による研究発表の準備や発表当日の進行をサポートすることで、卒業研究に必要となる基礎的な知識、技能を再確認するとともに、協働意識とプレゼンテーションスキル、司会進行方法、討論方法など、社会人として必要となる各種技能を習得することを目的とします。

### 【授業の展開計画】

各回の内容は演習Ⅱと同じです。

### 【履修上の注意事項】

- 1) 履修上の条件等は演習Ⅱと同じです。
- 2) ゼミ生が13名以上の場合は、人数分の補講を12月末、または2月に行うことがあります。

### 【評価方法】

演習Ⅱと同じ。

### 【テキスト】

適宜指示する。

### 【参考文献】

適宜指示する。

## 漢文学 I

担当教員 運天 亜紀子

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

漢文を読むためには本来の「漢字」が持つ意味や文章の構造を把握し、日本語の古文法に従って和訳・解釈する知識が必要である。この講義では漢文を読むための方法、調べ方を学び、「訓点」の施された漢文をより正確に読む訓練を繰り返しながら、漢文訓読に慣れ親しむことに重点をおく。また、単に文法事項の確認にとどまらず、漢文講読を通して古代中国の文化、思想、歴史等を理解し、文章の美しさ、深さを味わう機会としたい。

## 【授業の展開計画】

漢文学 I では、日本語古典文法 I、II の講義と連携し、漢文訓読法及び語文法を復習し、辞典や字典を引きながら、漢文を訓読し、解釈する練習を繰り返す。教材には沖縄県教員採用試験等の出題傾向を参考に、思想、歴史、伝記、説話等の様々なジャンルから短文を選定し、グループに分かれて持ち回りで内容についての発表を担当してもらう。その際担当者には「語釈」「試訳」等をまとめたレジュメの提出が課せられる。

週	授 業 の 内 容
1	登録・ガイダンス
2	「漢文訓読法基礎」句法の整理 (2) 一疑問・反語
3	「漢文訓読法基礎」句法の整理 (3) 一使役・受身・比較・選択
4	「漢文訓読法基礎」句法の整理 (4) 一假定・限定・比況・抑揚
5	「漢文訓読法基礎」句法の整理 (4) 一累加・詠嘆・願望・接続
6	「漢文の構造」一文型を中心に
7	「読解トレーニング」 『呂氏春秋』 『論語』 より
8	「読解トレーニング」 『十八史略』 より
9	「読解トレーニング」 『孟子』 『韓非子』 より
10	発表 『唐宋八家文』 より
11	発表 『唐宋八家文』 より
12	発表 『史記』 列伝より
13	発表 『史記』 列伝より
14	発表 『戦国策』 より
15	発表 『戦国策』 より
16	テスト

## 【履修上の注意事項】

- \* 受講に際しては『新字源』『漢語林』のような漢和辞典を用意すること。(電子辞書可)
- \* 「日本語古典文法 I・II」を履修済みであること。履修していない場合は、前期オリエンテーションにてプレテストを受け、漢文法の基礎を理解していることを確認した上で受講を許可する。

## 【評価方法】

発表、レジュメの内容とテストを中心に、授業態度や出席状況を含めて評価する。  
5回以上欠席した場合は期末テストの受験資格を失うので注意すること。

## 【テキスト】

『これでわかる 基本漢文マスター』三訂新版 新漢文教育プロジェクト編著 (文英堂)

## 【参考文献】

講義中紹介する。

## 漢文学Ⅱ

担当教員 運天 亜紀子

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

中国文学を代表するものとして「漢文、唐詩、宋詞、元曲」がしばしば挙げられるが、中でも“詩”は中国文学史上際立った特徴を持って発生し、発展し、継承された文学であり、中国文学の言わば王道と言えよう。漢文学Ⅰでは漢文を読む基礎及び散文の講読を、漢文学Ⅱではさらに進めて詩（韻文）を学習対象とし、漢詩の歴史やその構造、そして漢詩を読み解くための手順、方法を学び、多くの優れた作品を鑑賞することを目的とする。また、漢文学Ⅰでの学習経験を生かして、詩（作品）や詩人の背景を探るための資料を活用し、作品の理解を深めたい。

## 【授業の展開計画】

前半では詩のジャンルから押韻、平仄等の構造に関することを一通り紹介し、後半では漢文学Ⅰ同様、辞書や字書を引きながら実際に詩を読む作業を繰り返し行う。教材には様々なジャンル、時代の詩をなるべく多く選定し、グループごとに持ち回りで内容についての発表をしてもらう。その際担当者には「語釈」「試訳」等をまとめたレジュメの提出が課せられる。

週	授 業 の 内 容
1	登録・ガイダンス
2	四言詩『詩経』について
3	『楚辞』について（『史記』屈原伝を参考に）
4	楚歌について（『史記』項羽、高祖本記より）
5	樂府について（曹操、曹植の作品より。『世説新語』などの資料を参考に。）
6	古体詩まとめ（陶淵明を中心に）
7	近体詩について（押韻や平仄のきまり）
8	近体詩を読む 絶句（李白の詩を中心に）
9	近体詩を読む 律詩（杜甫の詩を中心に）
10	発表 王維、孟浩然の作品
11	発表 岑参、韋応物の作品
12	発表 白居易、劉禹錫の作品
13	発表 韓愈、杜牧の作品
14	発表 蘇軾、陸游の作品
15	発表 元好問、耶律楚材の作品
16	テスト

## 【履修上の注意事項】

- \* 受講に際しては『新字源』『漢語林』のような辞書を用意すること。
- \* 漢文学Ⅰを履修済みであること。

## 【評価方法】

発表、レジュメの内容とテストを中心に、授業態度や出席状況を含めて評価する。

## 【テキスト】

テキストは適宜プリントを配布する。

## 【参考文献】

参考文献は講義中紹介する。

## 基礎演習 I

担当教員 田場 裕規、黒澤 亜里子、狩俣 恵一、仁野平 智明、大野 隆之、下地 賀代子

対象学年 1年

開講時期 前期

単位区分 必

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

本授業は、1年生が大学生活にスムーズに移行できるように、履修計画や仲間づくりをサポートするとともに、情報収集・整理力など、大学生として必要となる「アカデミック・スキル」の基礎を幅広く習得することを目的とします。図書館オリエンテーションやワークショップなどの合同ガイダンスの実施と、要約文・意見文・レポートの作成方法を繰り返しながら、各自が「読む」「書く」「話す」力を高め、日本文化学科における学びの基礎的能力を習得することを目指します。

### 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション・クラス開き・前期の目標設定
2	自己紹介
3	図書館オリエンテーション
4	新入生歓迎会・ワークショップ①
5	新入生歓迎会・ワークショップ②
6	要約文の書き方①
7	要約文の書き方②
8	意見文の書き方
9	こころの健康ガイダンス
10	発表する・話しあう・まとめる①
11	発表する・話しあう・まとめる②
12	レポートの作成方法
13	キャリアガイダンス
14	(ゼミごとの学習)
15	(ゼミごとの学習)
16	まとめ・到達度の確認・夏休みの目標設定(レポート提出)

### 【履修上の注意事項】

- 1) 欠席する場合は必ず事前に連絡をすること。(無断欠席をしないこと)
- 2) 欠席回数が全授業回数の1/3を超えた場合は単位を与えない。
- 3) 第4回、第5回は4月末の公休日に集中形式で実施する。

### 【評価方法】

1回目のオリエンテーションにて説明します。

### 【テキスト】

1回目のオリエンテーションにて説明します。

### 【参考文献】

1回目のオリエンテーションにて説明します。

## 基礎演習Ⅱ

担当教員 田場 裕規、黒澤 亜里子、狩俣 恵一、仁野平 智明、大野 隆之、下地 賀代子

対象学年 1年

開講時期 後期

単位区分 必

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

本授業は、前期の基礎演習Ⅰでの学習内容をさらに発展させ、情報収集・整理力、分析力、思考力、批判力、発表力(プレゼンテーションスキル)、文章記述力など、大学生として必要となる「アカデミック・スキル」をさらに深く習得することを目的とします。文献検索ガイダンス、環境問題やキャリアをテーマとする講座などの共同ガイダンスを実施するとともに、グループごとの研究発表を行い、各自が共に学び合うことの大切さを理解し、日本文化学に関する研究手法の基礎的能力を習得することを目指します。

### 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	クラス開き・受講者の確認・教員紹介・後期の目標設定
2	研究発表の方法・テーマ、グループの決定
3	文献検索ガイダンス①(辞書事典・図書の調べ方)
4	文献検索ガイダンス②(雑誌記事・論文・新聞記事の調べ方)
5	レジュメの書き方・まとめ方、文章の引用方法・著作権
6	研究発表の見本(模擬発表)
7	環境意識を育てるためのガイダンス
8	グループ研究発表①
9	グループ研究発表②
10	グループ研究発表③
11	グループ研究発表④
12	グループ研究発表⑤
13	研究成果の出版①(レポート集の発行)
14	研究成果の出版②(レポート集の発行)
15	キャリアガイダンス
16	まとめ・到達度の確認・春休みの目標設定(レポート提出)

### 【履修上の注意事項】

- 1) 欠席する場合は必ず事前に連絡をすること。(無断欠席をしないこと)
- 2) 欠席回数が全授業回数の1/3を超えた場合は単位を与えない。
- 3) 第3回、第4回は10月上旬の公休日に集中形式で実施する。

### 【評価方法】

1回目のオリエンテーションにて説明します。

### 【テキスト】

1回目のオリエンテーションにて説明します。

### 【参考文献】

1回目のオリエンテーションにて説明します。

## 現代文学理論 I

担当教員 大野 隆之

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考 琉球文化・人文情報コースは選択科目

## 【授業のねらい】

20世紀以降に出現した文学理論の基礎的な内容を、森鷗外「舞姫」をテキストとして実践的に理解する。

## 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	プロローグ 現代文学理論の歴史と背景。
2	現象学の考え方の基礎を理解する。「舞姫」の概要を確認する。
3	空間論 1 空間論の概要を学ぶ。
4	空間論 2 「舞姫」における空間を、ベルリン中心に理解する。
5	身体論 1 身体論の概要を学ぶ。
6	身体論 2 「舞姫」における進退の問題。二人の病を中心に。
7	構造主義 1 構造主義の基礎を学ぶ。
8	構造主義 2 構造分析と批評。
9	映像論 モンタージュとフォトジェニー。後期のサブカルチャー批評につなげる入門編。
10	ナラトロジー 1 ナラトロジーの基本的考え方。
11	ナラトロジー 2 「舞姫」における語りのメカニズム。
12	精神分析批評 1 基礎的な考え方。
13	精神分析批評 2 批評の可能性と問題点。
14	詩学 表現論とはどのようなものか。
15	まとめ 現代文学理論の可能性と留意点。
16	テスト

## 【履修上の注意事項】

大野ゼミ希望者は必ず履修すること。

## 【評価方法】

テストのみ。

## 【テキスト】

角川文庫『舞姫・うたかたの記』

## 【参考文献】

授業の中で毎週紹介する。

## 現代文学理論Ⅱ

担当教員 大野 隆之

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考 琉球文化・人文情報コースは選択科目

### 【授業のねらい】

現代文学理論のうち沖縄文学に適用可能なものを抽出し、実際の作品を読み解きながら、作品分析の方法を学ぶ。

### 【授業の展開計画】

- 1, ポリフォニー 大城立裕「カクテルパーティー」
- 2, マイナー文学論 東峰夫「オキナワの少年」
- 3, 実証主義 久志英佐子「滅び行く琉球女の手記」
- 4, 男性原理と女性原理 又善栄喜「豚の報い」
- 5, ポストコロニアル 沖縄近代詩歌
- 6, サブカルチャー批評 ウルトラセブンと沖縄

### 【履修上の注意事項】

### 【評価方法】

レポート。

### 【テキスト】

『沖縄文学選』

### 【参考文献】



## 口承文芸学Ⅱ

担当教員 一俣 晴一郎

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

沖縄の伝承話を通して、本土や周辺諸国との口承文芸を比較研究する。

## 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	1. 口承文芸とは何か。後期講義の概要の説明。
2	2. 口承文芸の概要と分類。
3	3. 神話その1
4	4. 神話その2
5	5. 伝説その1
6	6. フィールドワーク（6と7は同一日に実施）
7	7. フィールドワーク
8	8. 伝説その2
9	9. 伝説その3
10	10. 昔話その1（大歳話）
11	11. 昔話その2（異郷訪問譚）
12	12. フィールドワーク（12と13は同一日に実施）
13	13. フィールドワーク
14	14. 昔話その3（動物昔話）
15	15. 昔話その4（天体説話）
16	16. 総括、レポート提出

## 【履修上の注意事項】

- 口承文芸学Ⅰを受講しているのが望ましい。
- フィールドワークを実施するので、受講者を学校車定員の25人に制限したい。

## 【評価方法】

- 出席状況（欠席5回で単位は認められない）欠席や遅刻で減点有り。
- レポート提出

## 【テキスト】

- 特になし。講義のたびに資料を配付する。

## 【参考文献】

## コミュニケーション論

担当教員 西岡 敏

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

琉球文化について漢文や英語で書かれた文献や資料を読み、その内容を理解していきます。また、計画を立てて、それらに出てくる関連地域を実際に訪ねます。琉球文化に関する見識を深め、漢文読解力や英語力の向上と図ると同時に、国際的に文化発信する能力を養います。

## 【授業の展開計画】

授業では、以下のことの繰り返しを計画しています。

1. 課題（漢文あるいは英文）の提示
2. 学生によるレジユメの準備および発表
3. 学生および教員によるコメント・討議
4. 現地訪問の計画・しおりの作成
5. 現地訪問（フィールドメモ・撮影など）
6. 現地訪問で得た資料の整理およびまとめ
7. インターネットなどを通じた情報発信

## 【履修上の注意事項】

パソコン教室を利用するため、登録人数を制限しています。  
出席日数が3分の2に満たない者は原則として単位を与えません。  
担当者を決めて発表を行うので、担当者は準備を怠らないこと。

## 【評価方法】

平常点、レポート、試験。平常点とレポートを重視します。平常点では、授業への貢献（積極的な発言など）、授業における発表の内容・姿勢、現地訪問の際の貢献度などについて評価します。

## 【テキスト】

その都度配布します。電子データとして配布することもあります。

## 【参考文献】

その都度指示します。

## 書道及び書道史 I

担当教員 神谷 俊男

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

本講義は硬筆・毛筆実技と書写書道理論(国語科書写と書道. 書体変遷, 書道史概説…)学習を通じて書写書道教育に必要な基礎的知識技能を身につける

## 【授業の展開計画】

- 1 受講者登録人数調整(受講者定員超過時). 講義概要と受講心得. テキスト「改訂基本ペン習字」について
  - 2 執筆法, 姿勢, 楷書基本点画学習 I …筆, 墨汁, 硯, 半紙, 下敷き, お手拭き, 整理用紙(以後, 書道用具と表記す)
  - 3 国語科書写の楷書字形と中国唐時代の楷書比較学習…書道用具, B鉛筆(シャープペンシルは以後不可)
  - 4 漢字書体と筆順, 楷書基本点画学習 II …書道用具, B鉛筆,
  - 5 「中学校国語科書写」教科書使用①… “ ” , 「改訂基本ペン習字, 点検 I」
  - 6 “ ” ②… “ ” , 「筆順部首名小テスト I (15分)」
  - 7 「硬筆毛筆書写検定試験」演習…「改訂基本ペン習字」, フェルトペン, B鉛筆, 30cm定規等
  - 8 「中学校国語科書写」教科書使用③…書道用具,
  - 9 “ ” ④… “ ”
  - 10 “ ” ⑤… “ ” , 「改訂基本ペン習字, 点検 II」
  - 11 “ ” ⑥… “ ” , 「筆順部首名小テスト II (15分)」
  - 12 色紙大用紙に好きな語句3~4字墨書…添削指導を積極的に受けること, 書道用具
  - 13 前回練習した課題を色紙に清書提出…書道用具, 色紙2~3枚持参, 「改訂基本ペン習字」最終検印する
  - 14 中国唐時代・日本平安時代の書道史概説, 今回までに未提出物があれば提出をして, 検印を受けること
  - 15 「中学校国語科書写教育とその現状」. 「書体変遷について」, 提出物等(ファイル含む) の最終点検
  - 16 期末考査
- 受講心得

- ① 書道技能は練習, 継続してこそ体得できるから皆出席を望む
  - ② よってこの授業は事前事後学習を必須とする科目であることを承知し登録すること
  - ③ 書道用具(筆, 墨汁, 硯, 書道用紙, 下敷, 文鎮等). 教科書教材は忘れずに購入持参すること
  - ④ 用具(特に筆, 硯, 墨池)は学内で洗わず, 必ず自宅で洗うこと
  - ⑤ 文部科学省後援「硬筆書写検定(通称:ペン字検定)」受験奨励…6/19(日)学内実施, 受付5/7~6/4授業時
- \*毎回持参すべき物…テキスト, 配布されたプリント, 筆記具(ボールペン, B鉛筆, 消しごむ)

## 【履修上の注意事項】

中学校, 高等学校の国語科教員免許取得者対象の科目である。よって登録者が定員超過した場合, 4年次優先し3年次は抽選となる。受講するにあたってはまず家庭での事前事後学習を必要とする講義であることを承知して登録すること。また国語科教師(特に中学校)をめざすなら自身を持って書写指導ができるよう強い意識を持って積極的に授業に参加することを期待する。用具(特に筆, 硯)は学内で洗わず自宅で洗うこと。受講生は授業内容と関連する「文部科学省後援・硬筆毛筆書写検定試験」(6月18日)をできるだけ受験し資格を取得しよう。

## 【評価方法】

- ① 出席状況(出欠遅刻の多少)及び授業への参加姿勢の積極度(無断退出, 未提出物有り, 無添削, 私語等減点)
- ② 「改訂基本ペン習字」, 毛筆作品の上達度, ファイルその他課題の提出物の有無及び上達度
- ③ 『筆順部首等小テスト』, 期末考査の結果…60点以上取得すること
- ④ 3分の1(5回)以上欠席者は単位取得不可
- ⑤ 欠席者は当日提出すべき物は後日速やかに提出すること

## 【テキスト】

「中学校国語科書写」教科書:「改訂基本ペン習字」(今城昭二著)…学内「朝野書房」にて購入すること  
その他「教師作成プリント」使用。

## 【参考文献】

授業時, 随時紹介する。インターネット検索紹介もあり。

## 書道及び書道史Ⅱ

担当教員 神谷 俊男

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

本講義は硬筆・毛筆実技、作品制作と書写書道理論学習を通じ、書写書道教育に必要な知識技能を身につけるために主に以下の事項を実施する。

- ①漢字(行書)や「かな」の硬毛筆学習②落款印の制作(篆刻)③年賀状、履歴書の書き方、筆順問題等の学習  
④文部科学省後援「硬筆毛筆書写検定試験」問題演習⑤日本、中国書道史概説・書写書道概論等

## 【授業の展開計画】

- 1受講者登録人数調整(定員超過時)、講義概要、受講心得。「改訂基本ペン習字」持参。  
2行書の基本用筆法実習(楷書との相違点留意)。「筆順部首名小テストⅠ」(15分)…書道用具、B鉛筆持参  
3「中学校国語科書写」教科書①…行書の項目墨書(書道用具)。硬筆用具持参。  
4        "        ②…        "        "        "        "        "  
5        "        ③…        "        "        "        "        "        "        "        "        "        "        "        "        "  
6        "        ④…        "        "        "        "        "        "        "        "        "        "        "        "        "        "  
7「硬筆毛筆書写検定試験問題演習」…「改訂基本ペン習字」・B鉛筆・30cm定規・フェルトペン等持参  
8落款印制作①…印稿作成(各自の名前をテキストで調べ印材の大きさに書く)・B鉛筆・フェルトペン等持参  
9        "        ②…印材に布字し、印刀で刻す。印稿・B鉛筆・フェルトペン・紙やすり荒細2種類持参  
10       "       ③…印鑑仕上げ(印稿、印泥か朱肉、セロテープ、はさみ、紙やすり等持参)。印帽作成。  
11年賀状の書き方(宛名書き、賀詞、添え書き等)…書用具小筆、B鉛筆、定規、印鑑、年賀はがき等持参、  
12「中学校国語科書写」教科書⑤…硬筆学習・教材プリント(今回までに配布した)、筆記具等持参  
13書き初め作品・『基本ペン習字』提出…書き初め用紙、書き初め用下敷、印鑑、書道用具等持参  
14書道史概説(日本・中国)。今回までに未提出物があれば提出して検印受けること。  
15書写書道概論(書写書道教育、「かな」の字源等)。提出物(ファイル等含む)の最終締切り  
16期末考査  
  受講心得  
  ・書道技能は練習、継続してこそ体得できる。故に皆出席を望む  
  ・事前事後学習を必要とする科目であることを承知し登録すること  
  ・書道用具(特に筆、硯、墨池)は学内で洗わず、必ず自宅で洗うこと  
  ・文部科学省後援「硬筆毛筆書写検定」受験を奨励する {今年度11/13(日)学内実施予定}  
\*毎回持参すべき物…テキスト、教材プリント、硬筆用具(ボールペン、B鉛筆、消しゴム等)

## 【履修上の注意事項】

「書道及び書道史Ⅰ」を履修済みであること。中学、高校の国語科教員免許取得者対象の科目である。よって定員超過した場合、4年次優先し3年次は抽選となる。受講するにあたってはまず家庭での事前事後学習を必要とする講義であることを承知した上で登録すること。書道用具(特に筆・硯)は学内で洗わず自宅に洗うこと。受講生は授業内容と関連する「文科省後援:硬筆毛筆書写検定試験」(11月13日実施)をできるだけ受験し準1級～3級の資格を取得しよう。提出すべき物は欠席の理由に関係なく後日提出すること。

## 【評価方法】

- ①出席状況(出欠遅刻の多少)及び授業への参加姿勢の積極度(無断退出、未提出物有り、無添削、私語等減点)  
②「改訂基本ペン習字」、毛筆作品(半紙、書き初め用紙等)の上達度、落款印(印鑑、印稿等)の完成度、年賀状の書き方及び体裁の完成度、ファイル その他課題の提出物の有無と上達度  
③『筆順部首名等小テスト』(2回実施)、期末考査の結果…各考査60点以上取得すること  
④欠席者は理由に関係なく当日提出すべきものは後日提出すること。

## 【テキスト】

「中学校国語科書写」教科書、「改訂基本ペン習字」(金城昭二著)…前期受講者は購入済(2種類)  
「新版篆刻の実習」(養毛政雄著)。印材(青田石)、印刀…朝野書房にて購入  
その他「教師作成教材プリント」使用

## 【参考文献】

授業時、随時紹介する。インターネット検索紹介もあり。

## 情報システム論

担当教員 一芳山 紀子

対象学年 3年

単位区分 選必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

1・2年次においてで人文情報基礎・文化情報処理論・データベース論等においてソフトウェアの初歩的知識・技術を習得している者。および同様の知識・技術を持っている者を対象とする。本講義では、文系の学生が学ぶ機会が少なかったパソコン基礎概論や情報倫理・関連法規を体系的に学習し、情報管理能力を養い、ソフトウェア操作レベルのエンドユーザから脱却し、実社会において「情報運用管理者」として活躍できるスキルを習得するものである。なお、本カリキュラムは、7年間の研究と実践により、専門家の範疇とされていたパソコン基礎概論を、文系の学生向け理論として、新規に体系づけたものである。

### 【授業の展開計画】

- 1 パソコンの種類とハードウェア構成
- 2 本体を構成する部品とその役割
- 3 パソコン解体と組み立て
- 4 パソコンの周辺機器 ～日常でのメンテナンス～
- 5 ソフトウェアの種類/歴史とその機能/ファイルの概念
- 6 パソコンのトラブル対処 ハードウェア編
- 7 パソコンのトラブル対処 ソフトウェア編
- 8 情報倫理1：情報倫理の必要性和ネチケット
- 9 情報倫理2：関連法規（個人情報保護法・不正アクセス禁止法 他）
- 10 情報倫理3：サイバー犯罪の事例と対処法
- 11 ネットワーク基礎
- 12 著作権
- 13 インターネットセキュリティ
- 14 単元別確認テスト
- 15 期末試験
- 16 総括とまとめ/弱点指導

### 【履修上の注意事項】

原則として、人文情報基礎、データベース論の単位を取得したものを対象とし、パソコン上級者向けの授業と位置付ける。

### 【評価方法】

出席状況、学習態度、単元別テスト、期末試験などを総合的に判断し、評価する。（出席回数が全授業回数の三分の二を満たさない場合は単位を与えない）

### 【テキスト】

アプロスコンピュータ学院編：文系の学生のためのパソコン基礎概論 I

### 【参考文献】

パソコン整備士協会編：パソコン整備士検定試験 3級公式テキスト

## 人文情報基礎

担当教員 山口 真也

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

日本文化学科の専門課程で修得する日本文化、琉球文化に関する知識をより広く、多様な手法で表現するために、ワープロソフト、表計算ソフト、プレゼンテーションソフトの操作方法に関する基本的な技術を修得することを目指すとともに、文化研究における情報技術の必要性と可能性を実践的に学習する。

## 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス   文化情報学を学ぶ意義・パソコン教室、グループウェアの使い方・実力判定テスト
2	PCの基本操作   日本語入力・ファイルの保存と削除・フォルダ管理
3	ワープロソフトの基本操作①   書式設定・書式の定義・ファイル保存・ファイルとフォルダの管理
4	ワープロソフトの基本操作②   拡張書式設定・ページレイアウト・参考機能(脚注)
5	ワープロソフトの基本操作③   クリップアートとワードアート・画像処理・パーティ案内文書の作成
6	ワープロソフトの基本操作④   表と罫線設定・写真入り履歴書の作成
7	ワープロソフトの基本操作⑤   図形描画・イラスト入りのハガキ、地図入りの文書作成
8	小テスト① 文書入力(10分間350文字)、文書処理技能検定3級レベルの問題より
9	表計算ソフトの基本操作①   データ入力・行と列の挿入、簡単な表計算(足し算・引き算)
10	表計算ソフトの基本操作②   簡単な関数(SUM、AVERAGE、DATE、IF)
11	表計算ソフトの基本操作③   表の整形・グラフ作成方法、ワープロソフトとの連携
12	表計算ソフトの基本操作④   データベース機能・オートフィル設定・ページ設定・印刷
13	小テスト② データ活用検定3級レベルの問題より
14	プレゼンテーションソフトの基本操作①   写真、グラフの挿入・アニメーション設定
15	プレゼンテーションソフトの基本操作②   音声データの挿入・インターネットとの連携
16	総合試験・到達度の確認

## 【履修上の注意事項】

- 1) 学籍番号順にクラス分けをする。
- 2) 日本語入力の練習は各自行うこと。第8回までに10分間350文字レベルに達していない学生には空き時間に補講を行う。
- 3) 欠席した場合は翌週までに欠席届を提出し、次週までの課題の説明を受けること。(山口研究室5-405に持参)

## 【評価方法】

- 1) 演習課題の提出状況、出席状況、2回の小テスト、総合試験の点数を総合的に判断し、評価する。
- 2) 出席回数が全授業回数の2/3に満たない場合は単位を与えない。

## 【テキスト】

- 1) プリントを配布する。
- 2) 授業中に作成するデータの記録媒体として、USBメモリ(1GB、1000円程度)を各自で準備すること。

## 【参考文献】

## 卒業論文

担当教員 下地 賀代子

対象学年 4年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

### 【授業のねらい】

日本語についての様々な研究分野から、各自が興味・関心を持っているテーマを選び、卒業論文としてまとめます。テーマについての先行研究を収集・検討し、問題点を明らかにして、調査・研究を進めていきます。また、中間発表を行うことによって、不十分な点を明らかにし、進捗状況を確認します。そして、その研究成果を文章化していきます。卒業論文はこれまでの「学び」の集大成です。早い段階から計画的に取り組んでほしいと思います。

### 【授業の展開計画】

次のような流れで卒業論文の完成を目指します。

- 1 テーマのしぼりこみ、確定
- 2 先行研究、資料の収集
- 3 内容の確認と考察→問題点を見つける
- 4 テーマにもとづく調査および研究
- 5 調査・研究成果の中間発表と討論
- 6 論文のアウトライン(目次)の作成
- 7 \*夏休み：さらなる調査および研究
- 8 注・参考文献の書き方、引用の仕方
- 9 調査研究成果の中間発表(進捗状況の確認)
- 10 草稿の作成と提出
- 11 添削および個別指導
- 12 仮提出と添削
- 13 完成原稿(卒業論文)の提出

### 【履修上の注意事項】

進捗状況に応じて、個別的な面談も行います。

### 【評価方法】

卒業論文の内容と形式、またどのように取り組んだかという点を評価します。

### 【テキスト】

なし

### 【参考文献】

適宜紹介します

## 卒業論文

担当教員 田場 裕規

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

本講は卒業論文の作成をめざすものである。対象は概ね「古代文学」（上代文学・中古文学）を扱うものとするが、国語科教育における古典教育（古典文学教育）に関する分野も対象とする。

## 【授業の展開計画】

卒業論文執筆の主体は学生個人である。以下に示す展開計画は、参考（目安）のために記載するが、研究計画はそれぞれが作成して取り組む。

- 1 卒業論文の要件
- 2 卒業論文の進め方・年間計画作成
- 3 先行研究の検索、収集、整理①
- 4 先行研究の検索、収集、整理②
- 5 先行研究の検索、収集、整理③
- 6 先行研究の検索、収集、整理④
- 7 研究方法の検討①
- 8 研究方法の検討②
- 9 研究方法の検討③
- 10 小テーマの設定①
- 11 小テーマの設定②
- 12 卒業論文テーマの確定
- 13 卒業論文の構成
- 14 卒業論文の構成の検討
- 15 中間発表会
- 16 卒業論文の目次・章立て①
- 17 卒業論文の目次・章立て②
- 18 卒業論文の執筆方法①
- 19 卒業論文の執筆方法②
- 20 卒業論文の執筆①
- 21 卒業論文の執筆②
- 22 卒業論文の執筆③
- 23 卒業論文の執筆④
- 24 仮提出と添削
- 25 添削・個別指導①
- 26 添削・個別指導②
- 27 添削・個別指導③
- 28 卒業論文提出
- 29 卒業論文集の作成
- 30 卒業論文発表会

## 【履修上の注意事項】

- ①学位論文であることを自覚し、自分自身の向き合うテーマに対して謙虚に取り組んで欲しい。
- ②調査・検討作業をレジュメ等にまとめるときは遺漏のないように努めること。
- ③提出締め切りは厳守すること。

## 【評価方法】

論文の内容、組み立て、取り組み状況等を総合的に評価する。

## 【テキスト】

必要に応じて指示する。

## 【参考文献】



## 卒業論文

担当教員 仁野平 智明

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

各自の設定したテーマについて、先行研究をふまえたうえで、分析方法や論文の構成に関する方法論を身につけ、その成果を卒業論文としてまとめる。

## 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス	17	論の検証法
2	年間計画書作成	18	中間発表(1)
3	論文の構成、課題の見つけ方	19	中間発表(2)
4	文献・資料収集の方法および扱い方	20	中間発表(3)
5	研究概要の発表(1)	21	中間発表(4)
6	研究概要の発表(2)	22	中間発表(5)
7	研究概要の発表(3)	23	論文の執筆(1)・個別指導
8	研究概要の発表(4)	24	論文の執筆(2)・個別指導
9	研究概要の発表(5)	25	論文の執筆(3)・個別指導
10	研究概要の発表(6)	26	論文の執筆(4)・個別指導
11	研究概要の発表(7)	27	論文の執筆(5)・個別指導
12	研究概要の発表(8)	28	論文内容の発表・質疑応答(1)
13	研究概要の発表(10)	29	論文内容の発表・質疑応答(2)
14	研究概要の発表(11)	30	論文内容の発表・質疑応答(3)
15	前期の総括	31	総括
16	注釈の付け方・資料の整理法		

## 【履修上の注意事項】

3年生のゼミ論文とともに、論集を作成する。

## 【評価方法】

論文の内容、取り組みの姿勢などによって評価する。

## 【テキスト】

適宜紹介します。

## 【参考文献】

適宜紹介します。

## 卒業論文

担当教員 西岡 敏

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

3年次で設定したテーマを4年次で卒業論文として結実させます。卒業論文提出者（4年次）は、琉球語諸方言についての様々な研究分野から、自分が関心を持っているテーマを選択して、先行研究をふまえつつ、調査・研究の掘り起こし作業を進めていきます。調査・研究の成果を中間発表し、他の人の質問や意見を参考にして、不十分なところを直していきます。それらを論文という形として文章化し、個別的な指導・添削を受けてまとめます。

### 【授業の展開計画】

卒論テーマの確定  
全体の略図を考える（目次の作成）  
先行研究の検索、収集、内容確認（参考文献目録の作成）  
テーマに基づく調査および研究  
中間発表および討論  
注釈の付け方、文献引用の仕方  
草稿の作成と提出  
草稿の添削および個別指導  
仮提出と添削  
完全原稿の執筆および提出  
卒論発表会

### 【履修上の注意事項】

個別的な面談を必要とします。必要とあればゼミ合宿を行いません。

### 【評価方法】

論文の内容、形式、取り組み方などの観点から総合的に判断します。

### 【テキスト】

その都度指示します。

### 【参考文献】

その都度指示します。

## 卒業論文

担当教員 大野 隆之

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

### 【授業の展開計画】

言うまでもなく卒業論文は学術論文であり、その単位が認められることで学士の称号が与えられる。したがってそれにふさわしい水準が当然のこととして要求される。そのためには、特に近代・現代文学を対象とする場合は、何よりも独創的な「問題のたて方」が重要である。作家の年譜を淡々と並べたり、無用な引用を長々としたあと、自分の人生観を披瀝するような随筆は学術論文ではない。問題をたてる、その問題に対処する適切な方法を選択し必要な資料をそろえる、独善に注意しながら慎重に考察を進める、わかりやすく論理的に執筆する、授業では、それら各段階のポイントを指導する。具体的には以下に示すような手順で進めていく予定である。

- 1、論文のスタイルⅠ。作家論か、作品論か。
- 2、論文のスタイルⅡ。資料中心の実証主義か、方法を中心とするか。
- 3、題目＝問題の設定。発表。
- 4、関連資料の収集。読解。
- 5、中間発表。
- 6、個別指導。
- 7、執筆。
- 8、卒業論文提出。

### 【履修上の注意事項】

4年次は就職や、資格取得等で多忙であるが、最初から分かっていることなので、しっかりとした年間計画を立てること。

なるべく全集を購入すること。

### 【評価方法】

### 【テキスト】

必要に応じプリントを配布する。参考文献については各自に指導する予定である。

### 【参考文献】

## 卒業論文

担当教員 大城 朋子

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

テーマの最終設定、資料の収集と読み込み、論文の構想立て、実際の調査や分析等を行い、推敲を重ねるという一連の論文作成のプロセスを経て学術論文を完成させていきます。このような長期に渡る計画的で地道な研究を通して論理的な思考態度を身につけ、大学での学問の集大成とします。具体的には以下に示すような手順で進めます。

## 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション、テーマの絞り込み
2	論文作成構想と具体的年間計画
3	テーマに関する論文目録の作成と発表
4	先行研究の読み込みと発表①
5	先行研究の読み込みと発表②
6	先行研究の読み込みと発表③
7	仮説論証の方法と調査票作成
8	調査の実施とまとめ
9	調査の実施とまとめ
10	先行研究の読み込みと発表④
11	先行研究の読み込みと発表⑤
12	結果・分析・考察のまとめ①
13	結果・分析・考察のまとめ②
14	論文仮提出（12月第2週目の金曜日）
15	論文本提出（1月第2週目の土曜日）
16	論文発表と冊子作成

## 【履修上の注意事項】

上記の各プロセスの各段階で発表を繰り返し行っていくので、発表の頻度は高いものになります。準備を綿密に行うように。

## 【評価方法】

論文の内容を評価していきますが、論文完成に至までの過程における一連の課題や発表等への取り組みも評価の対象となります。

## 【テキスト】

必要に応じて、適宜資料を配布します。

## 【参考文献】

各自が、論文に用いる参考文献の内容を他のゼミ生に紹介していきます。よって、参考文献は多岐にわたることになります。

## 卒業論文

担当教員 吉田 肇吾

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

生涯学習社会・情報社会における図書館について、図書館情報学を中心とする学問分野の諸問題から、各々が独自のテーマを自由に設定し、卒業論文を執筆することで論理的思考の展開方法を学ぶ。具体的には「問題解決能力」として、各自の問題設定能力→あらゆる情報手段を使用した資料収集能力→収集した各種資料の比較・検討・選択能力→論文作成→発表→質疑応答・討論という論文作成作業プロセスをたどることにより、コミュニケーション能力まで含めた、社会生活の中で重要な実践的能力を養う。

## 【授業の展開計画】

週	授業の内容	週	授業の内容
1	オリエンテーション：論文作成プロセス	17	中間発表①
2	執筆スケジュールの組み方	18	中間発表②
3	テーマ設定・研究方法の確定	19	中間発表③
4	資料・情報の収集方法	20	中間発表④
5	論文の構成方法	21	論文執筆・個別指導①
6	内容発表の方法・質疑応答・討議について	22	論文執筆・個別指導②
7	各自のテーマ・研究方法の発表①	23	論文執筆・個別指導③
8	各自のテーマ・研究方法の発表②	24	論文執筆・個別指導④
9	各自のテーマ・研究方法の発表③	25	論文内容の発表・質疑応答①
10	各自のテーマ・研究方法の発表④	26	論文内容の発表・質疑応答②
11	個別指導①	27	論文内容の発表・質疑応答③
12	個別指導②	28	論文内容の発表・質疑応答④
13	個別指導③	29	論文内容の発表・質疑応答⑤
14	個別指導④	30	卒業論文提出
15	まとめ	31	総括
16	後期日程について		

## 【履修上の注意事項】

各自のテーマ設定に基づき、論文作成計画を立案し、計画に沿って着実に論文作成作業を進めること。

## 【評価方法】

提出された論文により評価する。

## 【テキスト】

各自のテーマ及び研究過程で適宜紹介する。

## 【参考文献】

## 卒業論文

担当教員 狩俣 恵一

対象学年 4年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

### 【授業のねらい】

対象分野は、オモロ・琉歌・組踊・琉球の神話や伝説や歌謡等の琉球文学である。テーマの設定、資料収集を踏まえて、目次を作成しながら構想を立て、論文を執筆する。テーマは、「琉歌の研究」「オモロの研究」などという大きなテーマではなく、なるべく小さなテーマとし、資料収集は図書館を最大限に活用すること。特に、自分のテーマと関連する先学の論文は十分に読み込むこと。また、目次を立てることで、論文の全体構想が浮かび上がって来るが、その際、目次の項目ごとに凡その執筆分量の目安を立てること。

### 【授業の展開計画】

～授業のねらいのつづき～

執筆に当たって重要なことは、「書くこと」は「考えること」であり、また文章力という技術を要するということである。卒業論文は、ある意味では「書くこと」の苦しさを味わう作業であるとともに、論理的思考を養うものである。従って、実際に書き出す前に、ゼミの仲間同士で発表し合い、質疑応答を活発にして、論文の構想を練り上げるようにしてほしい。

### 【授業計画】

1. それぞれの研究テーマの確認と現段階の研究報告（目次の作成）
2. 資料収集と先行論文の報告
3. 後期の最初の時間には、400字詰原稿用紙20枚以上を提出すること。
4. 後期は主として個別指導を行う。

### 【履修上の注意事項】

発表者は、発表資料と発表用の原稿を分けて作成すること。

### 【評価方法】

卒業論文と平常点及び出席

### 【テキスト】

なし

### 【参考文献】

各自の研究テーマに応じてその都度指示する。

## 卒業論文

担当教員 山口 真也

対象学年 4年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

## 【授業のねらい】

前年度の「演習II」にて行った個人研究を学術研究へと発展させ、ソフトウェア制作、社会調査(アンケート・観察・インタビュー調査)を本格的に実施し、卒業研究として完成させる。また、「卒業論文集」を出版すると共に、協力機関への報告・図書館への配布・卒業研究発表会の開催を通じて、2年間の個人研究の成果を広く公開する。これらの研究過程を通じて、①情報収集能力(文献調査力)、②データ集計能力、③情報分析力、④情報整理能力(論理的な文章構成力)、⑤情報発信力(プレゼンテーションスキル)、⑥コミュニケーションスキル・協働意識をさらに高め、卒業後、社会人として活躍するための基本的な知識・技能を習得することを目的とする。

## 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	卒業論文とはなにか?・卒業論文執筆の心得	17	卒業論文の執筆方法1 引用・脚注
2	卒業論文の進め方・作業計画書の作成	18	卒業論文の執筆方法2 調査結果の整理方法
3	学術論文の書き方1 主題規定文の作成	19	卒業論文の執筆方法3 調査結果の分析方法
4	学術論文の書き方2 序論執筆・問題意識	20	卒業論文の執筆1 (個別相談期間)
5	学術論文の書き方3 序論執筆・検証方法	21	卒業論文の執筆2 (個別相談期間)
6	学術論文の書き方4 学術論の文体	22	卒業論文の執筆3 (個別相談期間)
7	学術論文の書き方5 調査の方法	23	卒業論文の執筆4 (個別相談期間)
8	資料収集の方法1 図書・新聞記事	24	卒業論文の提出(仮提出)
9	資料収集の方法2 雑誌記事・学術論文	25	卒業論文の添削・個別指導1
10	卒業論文の構成1 目次・章立ての方法	26	卒業論文の添削・個別指導2
11	卒業論文の構成2 目次・章立ての発表①	27	卒業論文の添削・個別指導3
12	卒業論文の構成3 目次・章立ての発表②	28	卒業論文の最終提出・抄録の書き方
13	卒業論文の構成4 目次・章立ての発表③	29	卒業論文集の作成・印刷
14	卒業論文の構成5 目次・章立ての発表④	30	卒業論文最終発表
15	卒業論文の構成6 目次・章立ての発表⑤	31	
16	卒業論文の様式・英語タイトルの決定		

## 【履修上の注意事項】

## 【評価方法】

- 1) 卒業論文の完成度、提出状況、出席状況を総合的に判断し、評価します。
- 2) 出席回数が全授業回数の2/3に満たない場合は単位を与えません。
- 3) 欠席する場合は欠席届を提出すること。(無断で欠席しないこと)
- 4) 10月～12月にかけては、1週間1回30分程度の個別相談を行い、卒業論文の執筆を進めていきます。
- 5) 2月末～3月にかけて合宿形式で卒業研究発表会を行います。

## 【テキスト】

## 【参考文献】

## 卒業論文

担当教員 黒澤 亜里子

対象学年 4年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

### 【授業のねらい】

各自が設定した課題、テーマについて調査・研究を行い、卒業論文をまとめます。

### 【授業の展開計画】

- 1 卒業論文の進め方 年間計画作成
- 2 調査、文献・資料収集の方法
- 3 参考文献目録の作り方
- 4 研究史のまとめ方
- 5 方法、視点の検討
- 6 小テーマの設定
- 7 仮説論証の練習
- 8 卒論テーマの確定
- 9 構想表の作り方
- 10 中間発表 ※夏期合宿での「中間発表会」をふくめ、各自年間3回以上
- 11 論文執筆
- 12 卒業論文の形式、体裁の確認
- 13 手直し／推敲／完成
- 14 合評会

### 【履修上の注意事項】

夏期合宿（卒論中間発表会）への参加は必須です。

### 【評価方法】

論文の内容、調査・研究方法、取り組みの姿勢、努力など総合的に評価します。

### 【テキスト】

各自の課題、テーマに応じて指導します。

### 【参考文献】

適宜指示します。



## 卒業論文

担当教員 葛綿 正一

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

本講義は卒業論文の作成をめざすものである。研究史をまとめ、分析の視点を設定し、論文の構成について考える。こうした方法論は広く応用が可能だと思われるので、ぜひ身につけてほしい。

## 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	卒論とは何か	17	中間発表（8）
2	先行研究の整理（1）	18	中間発表（9）
3	先行研究の整理（2）	19	中間発表（10）
4	先行研究の整理（3）	20	中間発表（11）
5	先行研究の整理（4）	21	中間発表（12）
6	分析の視点（1）	22	中間発表（13）
7	分析の視点（2）	23	中間発表（14）
8	分析の視点（3）	24	中間発表（15）
9	分析の視点（4）	25	再検討（1）
10	中間発表（1）	26	再検討（2）
11	中間発表（2）	27	再検討（3）
12	中間発表（3）	28	再検討（4）
13	中間発表（4）	29	まとめ（1）
14	中間発表（5）	30	まとめ（2）
15	中間発表（6）	31	
16	中間発表（7）		

## 【履修上の注意事項】

## 【評価方法】

卒業論文によって成績を評価するが、その際、先行研究の整理、分析の視点、論文の構成などを重視する。

## 【テキスト】

『枕草子・徒然草・浮世草子一言説の変容』

## 【参考文献】

そのつど指示する

## 地域社会情報論

担当教員 西岡 敏

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

沖縄における説話・歌謡などに関する文献を読み、一般に活用できるような資料として整理します。また、文献に出てくる地域を実際に訪ねる。教室・野外の両方向からのアプローチで、琉球文学についての見識を深めます。

。

### 【授業の展開計画】

授業では、以下のことの繰り返しを計画しています。

1. 課題（説話あるいは歌謡）の提示
2. 学生によるレジュメの準備および発表
3. 学生および教員によるコメント・討議
4. 現地訪問の計画・しおりの作成
5. 現地訪問（フィールドメモ・撮影など）
6. 現地訪問で得た資料の整理およびまとめ
7. インターネットなどを通じた情報発信

### 【履修上の注意事項】

パソコン教室を利用するため、登録人数を制限しています。  
出席日数が3分の2に満たない者は原則として単位を与えません。  
担当者を決めて発表を行うので、担当者は準備を怠らないこと。

### 【評価方法】

平常点、レポート、試験。平常点とレポートを重視します。平常点では、授業への貢献（積極的な発言など）、授業における発表の内容・姿勢、現地訪問の際の貢献度などについて評価します。

### 【テキスト】

その都度配布します。電子データとして配布することもあります。

### 【参考文献】

その都度指示します。

## 地域データベース演習

担当教員 伊佐 常利（前半8回）、芳山 紀子（後半8回）

対象学年 3年

開講時期 前期

単位区分 選必

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

パソコンの初歩的知識・技術を習得している者。2年次までにおいてパソコンの基礎導入である、ソフトウェア操作について体系的な学習を受けた者、および、同等の知識・技術を持っている者を対象とします。本講義では、前学年までに習得したExcel・Wordなどの基礎的なIT活用技術を基に、文系の学生のための更なる高度な分野でのITスキルの習得をめざし、卒業年度までに、個々人でJavaと連携した簡単なデータベースを構築することを最終目的とします。

### 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	MySQL1
2	MySQL2
3	MySQL3
4	MySQL4
5	MySQL5
6	MySQL6
7	MySQL7
8	MySQL8
9	Java基礎1
10	Java基礎2
11	Java基礎3
12	Java基礎4
13	Java基礎5
14	Java基礎6
15	JSPとデータベースの連携
16	期末テスト

### 【履修上の注意事項】

本授業は、人文情報基礎、データベース論の単位取得者を対象とし、パソコン上級者向け授業と位置づける。（上記2科目の単位を取得していない学生は受講できない）

### 【評価方法】

演習課題の提出状況、出席・遅刻状況、学習態度、実力判定試験などを総合的に判断し、評価する。（出席回数が全授業回数の2/3に満たない場合は単位を与えない。）

### 【テキスト】

すべてオリジナルテキスト（アプロスコンピュータ学院）

### 【参考文献】

必要に応じて配布

## 地域データベース論

担当教員 山口 真也・芳山 紀子

対象学年 3年

単位区分 選必

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

### 【授業のねらい】

日本文化学科の専門課程において学ぶ文化に関する様々な知識を蓄積・発信するための技術を習得することを目的として、授業前半はFLASHを用いたWebアニメーションの製作方法を学習し、後半はAccessを用いたデータベースの構築方法を学習する。(1回目～8回目：山口担当、9回目～16回目：芳山担当)

※人文情報コースにてソフトウェア制作を卒業研究のテーマとする学生は必ず受講すること。

### 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	FLASHの基本操作①   ステージ・レイヤー・イラスト描画・素材読み込み・モーショントゥイーン
2	FLASHの基本操作②   モーションプリセット・軌道の調整・回転・振り子・ズームイン・アウト
3	FLASHの基本操作③   加速・減速・シェイプトゥイーン(モーフィング)・カラー変更
4	FLASHの基本操作④   ボーン追加、複雑なフルアニメーションの作成
5	FLASHの基本操作⑤   シーンの活用・サウンドファイルの読み込み・パブリッシュ
6	FLASHの応用操作①   動画ファイルの読み込み・ビデオプレイヤーの作成
7	FLASHの応用操作②   Action Scriptによるアニメーションの制御(1)
8	FLASHの応用操作③   Action Scriptによるアニメーションの制御(2) 授業のまとめ・課題発表
9	データベースとは何か?   Accessの概要・データベースの設計と作成
10	テーブルの概要   マスターの作成・テーブルの作成1・データのインポート他
11	リレーションシップの作成   クエリの概要・クエリを使ったデータの作成1
12	クエリの作成2   条件に合致するデータの抽出・データの集計 その他
13	フォームの概要   フォームの作成
14	レポートの概要   マスターの作成1・宛名印刷他
15	ピボットテーブルとピボットグラフ
16	試験・授業のまとめ

### 【履修上の注意事項】

- 1) 人文情報基礎、データベース論の単位取得者を対象とする。
- 2) 人文情報コースにてデータベース・ソフトウェア制作を卒業研究のテーマとする(予定の)学生は必ず受講すること。

### 【評価方法】

- 1) 演習課題の提出状況、出席・遅刻状況、学習態度、実力判定試験などを総合的に判断し、評価する。
- 2) 出席回数が全授業回数の2/3に満たない場合は単位を与えない。

### 【テキスト】

各担当の1回目の授業にて指示します。

### 【参考文献】

1回目～8回目：杉正人著『Flash Professional CS5 マスターブック』毎日コミュニケーションズ、2010

## データベース論

担当教員 芳山 紀子

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考 琉球文化・日本文化コースは選択科目

## 【授業のねらい】

インターネットをはじめとするネットワーク環境の充実に伴い、データの活用能力はこれからの社会の中で、極めて重要な能力となってきた。

## 【授業の展開計画】

【授業のねらい】の続き～

本教科では、Microsoft Excelを活用し、表計算ソフトウェアの操作を通し、パソコンの基礎概念の形成を第一義として掲げるものとする。また、本講義は、卒論作成や卒業後に実践で役立つ事をねらいとし、更には、社会の中で即戦力の人材と成りうるための「データ活用能力」を養うものとする。到達目標は、日本商工会議所の日商PC検定試験（データ活用）3級と2級の合格レベルとする。また、本講義においては、学生の卒業後におけるビジネス社会で通用するパソコンスキルを総合的に高めることを目的とする。

- 1 基礎編の復習とスキルの平均化1：ガイダンス、表計算機能、グラフ機能
- 2 基礎編の復習とスキルの平均化2：データベース機能、総合演習問題と解説
- 3 関数1：高度な関数の使用方法（複雑なネスト関数を自在にあやつる）
- 4 関数2：難易度の高い関数の活用、演習問題
- 5 ワークシートの連携：ワークシートのグループ化、データのリンク他
- 6 3-D集計/データベース機能応用1：複数のワークシートの一括集計、高度なデータベース機能他
- 7 データベース機能応用2：フィルタオプションの考え方と設定、演習問題
- 8 ピボットテーブル1：データの作成、ピボットテーブルの概要他
- 9 ピボットテーブル2：ピボットテーブルの作成、ピボットテーブルの修正と活用
- 10 自動集計機能：自動集計機能の概要、自動集計機能の活用
- 11 マクロ1：マクロ機能の概要、マクロの作成他
- 12 マクロ2：様々なオブジェクトへの登録、マクロの実行
- 13 パソコン理論講義（1）：一般知識・ハードウェアの概要・ソフトウェア
- 14 パソコン理論講義（2）：ネットワーク・情報セキュリティ
- 15 期末試験
- 16 期末定試験の総括とまとめ弱点指導

## 【履修上の注意事項】

本授業はパソコンの活用能力を高める授業として位置づける。

一年次の人文情報基礎で初歩的な知識・技術をすでに習得し、単位を取得した者を対象とする。（編入生のみ人文情報基礎との同時履修を許可する）

## 【評価方法】

出席状況、演習課題の提出状況、実力判定試験などを総合的に判断し、評価する。

出席回数が全授業数の2/3に満たない場合は単位を与えない。

## 【テキスト】

すべてオリジナルテキスト

## 【参考文献】

必要に応じ配布

FOM出版 日商PCデータ活用完全マスター2級・3級

## 図書館概論

担当教員 吉田 肇吾

対象学年 1年

単位区分 選必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考 琉球文化・日本文化コースは選択科目

### 【授業のねらい】

本講義は、司書資格取得希望者にとってはその導入科目として、また一般学生には図書館を知的関心の対象として位置づける。従って、図書館とは何かという本質論及び、現代の図書館が直面している課題や図書館職員の問題などを通して、歴史的役割、教育や文化との関わりなど、広い視野から図書館という組織が持つ社会的意味を考察する。

### 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション：図書館概論について
2	現代社会と図書館(1)：定義、情報社会・生涯学習社会
3	現代社会と図書館(2)：図書館ネットワーク、図書館職員
4	現代社会と図書館(3)：流通と出版、著作権
5	図書館の理念①：図書館の自由、図書館員の倫理綱領
6	図書館の理念②：公共図書館の任務と目標
7	図書館の法規と行政①：法的基盤
8	図書館の法規と行政②：国レベルの施策
9	図書館の法規と行政③：地方自治体の施策
10	地域社会と図書館
11	図書館の種類と機能①：公共図書館
12	図書館の種類と機能②：学校図書館
13	図書館の種類と機能③：大学・専門図書館
14	図書館の種類と機能④：国立図書館・外国の図書館
15	図書館の歴史的展開
16	試験

### 【履修上の注意事項】

出席回数が3分の2に満たない者には、原則として単位を与えない。

### 【評価方法】

期末試験及びミニレポートと出席回数で総合的に評価する。

### 【テキスト】

「改訂図書館概論」植松貞夫他著 樹村房 2008(新・図書館学シリーズ1)

### 【参考文献】

## 図書館サービス論

担当教員 一呉屋 美奈子

対象学年 1年

単位区分 選必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

利用者と直接関わる図書館サービスの意義、特質、方法について解説し、以下の5項目に関して各種サービスの特質を明らかにする。1) 図書館サービスの意義と種類、2) 公共図書館におけるサービスの構造、3) 館種別図書館サービスと図書館協力、4) 利用対象別サービス、5) 図書館サービスと著作権

### 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	図書館サービスの意義・理念・原則
2	図書館サービスの 要素・諸相
3	図書館サービスの種類 1 テクニカルサービスとパブリックサービス 利用対象別サービス
4	図書館サービスの種類 2 形態別・館種別サービス
5	図書館サービスの方法 貸出し・閲覧
6	図書館サービスの方法 情報サービス 集会サービス
7	公共図書館におけるサービスの構造 公共図書館サービスを支える構造
8	公共図書館におけるサービスの構造 図書館政策・図書館行政
9	館種別図書館サービスと図書館協力 1) 図書館の種類とサービスの特徴
10	館種別図書館サービスと図書館協力 2) 図書館の種類とサービスの特徴
11	類縁機関
12	利用対象別サービス 1)
13	利用対象別サービス 2)
14	図書館サービスと著作権
15	図書館サービスの評価
16	試験

### 【履修上の注意事項】

出席日数が3分の2に満たない者には、原則として単位を与えない。  
人数が多かった場合は、4年次を優先いたします。

### 【評価方法】

期末試験、またはレポートと出席日数で総合的に評価する。

### 【テキスト】

テキスト：『図書館サービス論 改訂』高橋正也編 樹村房 2008 (新図書館学シリーズ)

### 【参考文献】

『図書館学基礎資料』第7版 今まど子編 樹村房 2008

## 図書館資料論

担当教員 國吉 綾子

対象学年 1年

単位区分 選必

準備事項

備考 琉球文化・日本文化コースは選択科目

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

### 【授業のねらい】

図書館資料全般の歴史・特質を論じ、その出版と流通のあり方、資料収集の理念・方法、選択ツールの種類、管理・保存方法について具体的に解説する。また、今日の図書館では図書資料以外にも、さまざまな視聴覚資料や電子資料が収集・提供されているため、これらの新しいメディアの特質や利用等にも言及する。

### 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	図書館資料の種類
2	資料の種類と特性（1）：図書・逐次刊行物
3	資料の種類と特性（2）：ファイル資料・マイクロ資料
4	資料の種類と特性（3）：視聴覚資料・電子資料・視覚障害者用資料
5	資料の種類と特性（4）：政府刊行物
6	資料の種類と特性（5）：地域資料（地方行政資料・郷土資料）
7	資料の収集（1）：コレクションの構築
8	資料の収集（2）：収集方針
9	資料の収集（3）：資料選択と情報源
10	資料の管理・保存
11	コレクションの評価
12	資料収集・提供と図書館の自由（1）
13	資料収集・提供と図書館の自由（2）
14	資料収集と出版流通
15	分担収集・分担保存
16	試験

### 【履修上の注意事項】

出席日数が3分の2に満たない者には、原則として単位を与えない。

### 【評価方法】

期末試験、およびレポートと出席日数で総合的に評価する。

### 【テキスト】

『改訂図書館資料論』平野英俊 [ほか] 著 樹村房 2004（新・図書館学シリーズ；7）

### 【参考文献】

『図書館学基礎資料 第十版』今まど子編 樹村房 2011



## 日本芸能史 I

担当教員 宮城 茂雄

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

日本の古典芸能のなかで、琉球芸能の存在は重要な位置にあるといえる。それは、国が指定する重要無形文化財の指定数からもその重要度がわかる。それは、沖縄が琉球という王国を形成していた時代に発達した芸能が現在まで受け継がれたことによる。

この講義では、現代に伝わる芸能の中から古典芸能を中心に講義をすすめる。

## 【授業の展開計画】

- 1, 琉球古典芸能の歴史と概要
- 2, 琉球古典音楽 「三線音楽と琉歌の関係」
- 3, 琉球古典舞踊 「老人踊り」  
「若衆踊り」  
「女踊り」  
「二才踊り」
- 4, 近代以後の琉球芸能 「雑踊り」  
「歌劇・セリフ劇」
- 5, 古典芸能と民俗芸能の関係性
- 6, まとめ

## 【履修上の注意事項】

出席日数が3分の2に満たない場合は、原則として単位を認めない。  
芸能鑑賞のため、ビデオなどの視聴覚教材を使用する講義が数回ある。  
レポート提出を2回程度予定している。

## 【評価方法】

出席・レポート・期末試験

## 【テキスト】

テキストはなし。随時プリントを配布する。

## 【参考文献】

矢野輝雄著『沖縄舞踊の歴史』築地書館

## 日本芸能史Ⅱ

担当教員 宮城 茂雄

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

日本芸能のなかで、琉球芸能の存在は重要な位置にあるといえる。それは、国が指定する無形文化財の指定数からもその重要度がわかる。その指定を受けている「組踊」や「琉球舞踊」は、首里城を中心に琉球の士族(ユカッチュ)によって深められてきた。その発生・発達過程において、「能・狂言」「歌舞伎」など日本古典芸能の影響を受けているといわれる。この講義では、日本芸能史Ⅰで解説した琉球古典芸能を下敷きに、能や日本舞踊・上方舞などを中心に講義をすすめ、それぞれの芸能の関係性を考える。

## 【授業の展開計画】

- 1, 能楽概説
- 2, 仕舞
- 3, 謡
- 4, 能楽と組踊「玉城朝薫とヤマト芸能」
- 5, 作品研究 ①執心鐘入と道成寺  
②花売の縁と芦刈
- 6, 舞と踊 ①歌舞伎舞踊（日本舞踊）と琉球舞踊  
②上方舞と琉球舞踊
- 7, まとめ

## 【履修上の注意事項】

出席日数が3分の2に満たない場合は、原則として単位を認めない。  
芸能鑑賞のため、ビデオなどの視聴覚教材を使用する講義が数回ある。  
レポート提出を2回程度予定している。  
日本芸能史Ⅰと連続して受講することが望ましい。

## 【評価方法】

出席・レポート・期末試験

## 【テキスト】

テキストはなし。随時プリントを配布する。

## 【参考文献】

矢野輝雄著『組踊への招待』琉球新報社  
『能狂言事典』平凡社

## 日本語史 I

担当教員 仲原 穰

対象学年 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

### 【授業のねらい】

日本語の音韻・語法・語彙等の各分野について、ある言語事実がどのように生じ、どのように発達したか、またどんな経路をとって衰え滅んだかを跡づける。初めに、日本語の変遷を大観し、重要なテーマを解説する。次に学生が、テキストあるいは研究書で述べていることが正しいか、原資料にあたって検証し、その結果を発表し、みんなで討議する。そのようにして、帰納法、実証方法を取得するのが目標である。

### 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	序論（講義目標・講義方法など）
2	概説1（日本語上代・中古語の特徴）
3	概説2（日本語中世・近世語の特徴）
4	概説3（近世語の特徴受講者のテーマの設定）
5	上代の文字（上代特殊仮名遣い）
6	上代の音韻（母音脱落など）
7	上代の文法1（動詞・形容詞活用の特徴）
8	上代の文法2（助動詞「り」、助詞「つ」など）
9	上代の語彙（和語と漢語など）
10	上代の語彙（母音脱落、母音調和の法則など）
11	中古の文字（仮名の発生）
12	中古の音韻（連声の発生）
13	中古の文法（活用の種類の変異）
14	中古の語彙（漢語の普及）
15	総括
16	

### 【履修上の注意事項】

聞くのみでなく、討論に参加してほしい。発表やレポートなどの期日は厳守のこと。登録できるのは原則として「日本語学概論」を履修済みである者。

### 【評価方法】

研究発表、意見発表、期末レポート（授業記録）で成績評価をする。

### 【テキスト】

1回目の授業で指示します。

### 【参考文献】

1回目の授業で指示します。

## 日本語史Ⅱ

担当教員 仲原 穰

対象学年 2年

単位区分 選必

準備事項

備考 琉球文化・人文情報コースは選択科目

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

### 【授業のねらい】

日本語の音韻・語法・語彙等の各分野について、ある言語事実がどのように生じ、どのように発達したか、またどんな経路をとって衰え滅んだかを跡づける。初めに、日本語の変遷を大観し、重要なテーマを解説する。次に学生が、テキストあるいは研究書で述べてあることが正しいか、原資料にあたって検証し、その結果を発表し、みんなで討議する。帰納法、実証方法を取得するのが目標である。

### 【授業の展開計画】

日本語の音 日本語史Ⅱ（後期）

週	授 業 の 内 容
1	中世の文字（当て字など）
2	中世の音韻（長音の発生など）
3	中世の文法1（活用語の連体形と終止形の同一化）
4	中世の文法2（推量の助動詞「う・よう」の発生）
5	中世の文法3（丁寧語「候」の発生など）
6	中世の語彙（女房言葉の構造）
7	近世の文体（文体の分類とその特徴）
8	近世の音韻（四つ仮名の混同）
9	近世の文法1（代名詞など）
10	近世の文法2（已然形と仮定形の交替）
11	近世の文法3（形容詞・形容動詞の新しい活用）
12	近世の文法4（丁寧語「です」などの発生）
13	近代の文体（言文一致文）
14	近代の語彙（西洋からの外来語）
15	総括
16	

### 【履修上の注意事項】

資料の収集・整理の方法、論理の展開の方法、結論の出し方、相手の主張の正否の判断法などを学んでほしい。登録できるのは原則として「日本語史Ⅰ」を履修済みである者。

### 【評価方法】

研究発表、意見発表、期末レポート（授業記録）で成績評価をする。よって、追試・再試はない。

### 【テキスト】

土井忠夫・森田武著『新訂国語史要説』（修文社）

### 【参考文献】

阪倉篤他編 『講座国語史』 全6巻（大修館）  
 亀井孝他編 『日本語の歴史』 全6巻（平凡社）

## 日本語音声学 I

担当教員 仲間 恵子

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

私たちの音声器官から発せられる声（言語音声）とは何かを現代日本語・標準語を中心に考え、必要に応じて諸言語・琉球語（琉球方言）との比較を行う。人は言語音声をどのように発声し、聞き取り、意味をもつ単位として使用しているのかを理解する。

## 【授業の展開計画】

進捗状況により内容は前後する

週	授 業 の 内 容
1	講義内容のガイダンス
2	言語音声のラング的側面と非ラング的側面について
3	言語音声の非ラング的側面 1
4	言語音声の非ラング的側面 2
5	あらためて言語音声とは
6	言語音声のラング的側面 1（単語・文・イントネーション）
7	言語音声のラング的側面 2（単語・音節・音素）
8	テスト（第 1 回）
9	五十音図の成立について
10	五十音図と仮名文字
11	成立時の音声と現代日本語標準語との対比
12	行と段の音声学的要素
13	清音と濁音の音声学的要素
14	母音について
15	はねる音（撥音）とつまる音（促音）
16	テスト（第 2 回）

## 【履修上の注意事項】

講義は音声学に関する専門的な用語が多くありますが、常に用語がさししめす具体的な音声、または具体的なことがらを考えながら受講してください。時に一緒に発声することがあります。それができる学生の受講を希望します。

## 【評価方法】

テスト 2 回（各 30%）とレポート 1 回（30%）。以上で評価の 90%とする。残り 10%を出席状況で判断する。

## 【テキスト】

「言語音声は何を伝えるか」上村幸雄 1964

※テキストは教員で用意する。

## 【参考文献】

『日本語音声の研究 全 7 巻』杉藤美代子 和泉書院

## 日本語音声学Ⅱ

担当教員 仲間 恵子

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

私たちの音声器官から発せられる声（言語音声）とは何かを現代日本語・標準語を中心に考え、必要に応じて諸言語との比較を行う。日本語音声学Ⅰでの講義内容をふまえ、日本語標準語の音声の考察を深める。また、音声学における国際音声字母（IPA）の理論と表記法について日本語音声を主な具体例として学ぶ。

## 【授業の展開計画】

進捗状況により内容は前後する。

週	授 業 の 内 容
1	現代日本語標準語の規範的な音声
2	母音1（みじか母音音素となが母音音素／連母音／二重母音）
3	母音2（標準語の母音音素とジョーンズの基本母音to）
4	母音3（母音音素まとめ）
5	子音1（音節を開く子音音素／音節を閉じる子音音素）
6	テスト（第1回）
7	子音2（直音と拗音）
8	子音3（直音と合拗音）
9	子音4（子音音素の調音と音声表記）
10	子音5（つまる音（促音）とはねる音（撥音）の調音と音声表記）
11	音節1（日本語のみじかい音節となが音節）
12	音節2（単語と音節）
13	音節とアクセント
14	アクセント
15	アクセントとイントネーション
16	テスト（第2回）

## 【履修上の注意事項】

講義は音声学に関する専門的な用語が多くありますが、常に用語がさしめす具体的な音声、または具体的なことがらを考えながら受講してください。時に一緒に発声することがあります。それができる学生の受講を希望します。

## 【評価方法】

テスト2回（各45%）。以上で評価の90%とする。残り10%を出席状況で判断する。

## 【テキスト】

「日本語 現代（音韻）」『言語学大辞典第4巻』上村幸雄

※テキストは教員で用意する。

## 【参考文献】

(1) 『ことばの科学入門』GLORIA J. BORDEN/KATHERINE S. HARRIS 廣瀬  
肇訳 メディカルリサーチセンター (2) 『日本語音声の研究 全7巻』杉藤美代子 和泉書院

## 日本語学概論Ⅰ

担当教員 西岡 敏

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

日本語の語彙について、練習問題を解きながら考えます。同義語、対義語、上位語と下位語などのような意味の側面、和語、漢語、外来語のような歴史的な由来の側面、複合語や派生などといった単語の作り方の側面などに、それぞれ焦点を当てて考察していきます。世界の中の日本語、日本語の歴史や琉球語諸方言との関連なども念頭に置いて話を進めていきます。

### 【授業の展開計画】

1. 序論
2. 意味
3. 単語の種類
4. 単語の系列
5. 単語のつかわれる広さ
6. 和語・外来語・漢語

### 【履修上の注意事項】

出席日数が3分の2に満たない者は原則として単位を与えません。  
ふだんから、日常会話、本、新聞、テレビ、ラジオなどの日本語表現に注意しておきましょう。  
日本語を多角的な視点で捉えるよう心がけましょう。

### 【評価方法】

出席・課題（30%）＋期末試験（70%）

### 【テキスト】

『語彙教育 その内容と方法』（むぎ書房）。適宜レジュメを配布します。

### 【参考文献】

金田一春彦1991『日本語の特質』（日本放送出版協会）  
『日本語検定公式領域別問題集 語彙・言葉の意味』（東京書籍）

## 日本語学概論Ⅰ

担当教員 下地 賀代子

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

私たちが普段もっとも口にする、耳にするコトバは、「日本語」と呼ばれる言語です。この授業では、現代共通語を題材に日本語の特徴について学んでいき、日本語学における基礎的知識および考え方の習得をめざします。そして、その専門的な知識を得ることによって、「コトバを客観的に捉える視点」を養ってもらいたいと思います。ふだん何気なく、無意識に使っている日本語が、いったいどのような特徴を持った言語なのかを意識的に考えてみましょう。Ⅰでは、語彙・意味を中心に解説していきます。また、文法についても少しだけ触れます。

## 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	「言語」とは？「日本語」とは？
3	文と(単)語、品詞について
4	語彙とは、語の構成
5	語種と語感(1)：和語・漢語
6	語種と語感(2)：外来語・混種語
7	語の位相(1)：男性語・女性語， 幼児語， 集団語
8	語の位相(2)：若者言葉， 方言
9	中間試験
10	語彙の歴史
11	意味とは、意味研究のいろいろ
12	類義語・反義語
13	同音語・多義語
14	意味の変化：比喩、慣用表現
15	ウチナーヤマトウグチの語彙と意味
16	期末試験

## 【履修上の注意事項】

出席と授業への参加度を重視します。

出席日数が3分の2に満たない場合は原則として単位を認めないので、注意。

## 【評価方法】

出席&授業への参加度(40%) + 中間試験(30%) + 期末試験(30%)

※中間試験の日程は、講義の進み具合により変わる可能性があります。

## 【テキスト】

仁田義雄 他『改訂版 日本語要説』ひつじ書房(2009年)  
また、プリントを配布します

## 【参考文献】

授業中に適宜紹介します。



## 日本語学概論 I

担当教員 尚 真貴子

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

日本語教育を実際に行う場合に役立つように、現代共通語としての日本語を説明する上で必要な基礎的知識を幅広く学習する。「音声」「語彙」「意味」「文法」「表記」「若者言葉」「ウチナーヤマトウグチ」などの個々の分野で、日本語教育面での重要事項や現代共通語の特質についてできる限り触れていきたい。そして、無意識に使用していた日本語を客観的に捉えられるような力を養ってもらいたい。

## 【授業の展開計画】

実際の授業の進め方（授業の展開計画）については、最初の授業の際に、詳しいシラバスを配布する予定である。

## 【履修上の注意事項】

積極的に教室活動に参加してほしい。

## 【評価方法】

総合的に評価（試験、発表等）するが、特に平常点（出席率、宿題、授業への参加度等）を重視する。

## 【テキスト】

配布資料と参考文献を中心に講義を進めていく。

## 【参考文献】

『概説日本語学』 鈴木 一彦他 （明治書院）  
『日本語概説』 加藤 彰彦他 （おうふう）

## 日本語学概論Ⅱ

担当教員 西岡 敏

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

日本語の語彙について、練習問題を解きながら考えます。同義語、対義語、上位語と下位語などのような意味の側面、和語、漢語、外来語のような歴史的な由来の側面、複合語や派生などといった単語の作り方の側面などに、それぞれ焦点を当てて考察していきます。世界の中の日本語、日本語の歴史や琉球語諸方言との関連なども念頭に置いて話を進めていきます。

### 【授業の展開計画】

1. 単語のつくり方
2. 慣用句
3. 語彙の歴史
4. 辞書
5. 語彙論とその教育

### 【履修上の注意事項】

出席日数が3分の2に満たない者は原則として単位を与えません。

### 【評価方法】

出席・課題（30%）＋期末試験（70%）

### 【テキスト】

『語彙教育 その内容と方法』（むぎ書房）。適宜レジュメを配布します。

### 【参考文献】

金田一春彦1991『日本語の特質』（日本放送出版協会）  
『日本語検定公式領域別問題集 語彙・言葉の意味』（東京書籍）

## 日本語学概論Ⅱ

担当教員 下地 賀代子

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

私たちが普段もっとも口にする、耳にするコトバは、「日本語」と呼ばれる言語です。この授業では、現代共通語を題材に日本語の特徴について学んでいき、日本語学における基礎的知識および考え方の習得をめざします。そして、その専門的な知識を得ることによって、「コトバを客観的に捉える視点」を養ってもらいたいと思います。ふだん何気なく、無意識に使っている日本語が、いったいどのような特徴を持った言語なのかを意識的に考えてみましょう。Ⅱでは、文字論と表記法を中心に解説していきます。また、音韻・音声についても触れていきます。

## 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	文字と音声、日本語の文字
3	かな文字と発音の変化(1)：上代
4	かな文字と発音の変化(2)：中古
5	かな文字と発音の変化(3)：中世～近世
6	漢字の歴史と分類
7	漢字の字体、漢語の構成
8	音読みと訓読み
9	中間試験
10	漢字の問題：当用漢字と常用漢字
11	日本語の表記法：文体の変遷
12	仮名遣いと漢字の送り仮名
13	ローマ字と外来語の表記
14	沖縄の人名・地名の漢字表記
15	これからの漢字の研究
16	期末試験

## 【履修上の注意事項】

出席と授業への参加度を重視します。

出席日数が3分の2に満たない場合は原則として単位を認めないので、注意。

## 【評価方法】

出席&授業への参加度(40%) + 中間試験(30%) + 期末試験(30%)

※中間試験の日程は、講義の進み具合により変わる可能性があります。

## 【テキスト】

仁田義雄 他『改訂版 日本語要説』ひつじ書房(2009年)

また、プリントを配布します

## 【参考文献】

『新しい国語表記ハンドブック(第5版)』三省堂

その他、授業中に適宜紹介します。

## 日本語現代文法 I

担当教員 西岡 敏

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

日本語の総合的な運用能力を高めます。前期は敬語と文法に着目します。日本語検定3級の合格を目指し、実際に練習問題を解いていきます。

## 【授業の展開計画】

1. 敬語 尊敬語 謙譲語Ⅰ 謙譲語Ⅱ 丁寧語 美化語
2. 文法 語の文法 文の文法 語句の誤用と文のねじれ

## 【履修上の注意事項】

出席日数が3分の2に満たない者は原則として単位を与えません。  
宿題は必ずやってくることを。

## 【評価方法】

平常点（30%）＋期末試験（70%）

## 【テキスト】

日本語検定公式テキスト「日本語」中級 3・4級受検用（東京書籍）  
適宜、プリントを配ります。

## 【参考文献】

庵功雄・日高水穂・前田直子・山田敏弘・大和シゲミ2003『やさしい日本語のしくみ』（くろしお出版）。  
佐々木瑞枝1994『外国語としての日本語』（講談社現代新書）。

## 日本語現代文法 I

担当教員 野原 優一

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

私たちは、物事を伝えたり、気持ちや考えを表したりするためにことばを使う。ことばにはいろいろ決まりがあるわけだが、その続け方（言語表現の組み立て方）の決まりを文法という。本講義は、ことばを文法的に考えることを通して日本語について考察を深めるとともに、日本語を各分野から捉え、日本語について知識を深め、自己の日本語力を豊かにすることも併せて習得する。前期は敬語法、体言、用言を中心に学び、日本語検定3級合格を目指す。

### 【授業の展開計画】

1. 日本語の特色
2. 敬語：尊敬語 謙讓語Ⅰ 謙讓語Ⅱ 丁寧語 美化語
3. 文法：名詞 動詞 形容詞 接続詞 感動詞

### 【履修上の注意事項】

出席日数が3分の2に満たない者は原則として単位を与えない。  
宿題は必ずやってくること。

### 【評価方法】

平常点（30%）＋ 期末試験（70%）

### 【テキスト】

日本語検定公式テキスト「日本語」中級 3・4級受検用（東京書籍）  
適宜、プリントを配る。

### 【参考文献】

『国文法の基礎』永山 勇著 1989 洛陽社  
『概説・現代日本語文法』鈴木康之監修 日本語文法研究会編 2001 おうふう

## 日本語現代文法Ⅱ

担当教員 西岡 敏

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

日本語の総合的な運用能力を高めます。後期は、語彙、言葉の意味、表記、漢字を扱います。日本語検定3級さらには2級の合格を目指し、実際に練習問題を解いていきます。

## 【授業の展開計画】

- |          |         |                |               |
|----------|---------|----------------|---------------|
| 1. 語彙    | 語と語の関係  | 結び付きにおける語の性格   | 語種と文体         |
| 2. 言葉の意味 | 似た言葉の区別 | 言葉の多義性         | ことわざ・慣用句・故事成語 |
| 3. 表記    | 現代仮名遣い  | 送り仮名           |               |
| 4. 漢字    | 異字同訓    | 字形が似ている漢字の使い分け |               |

## 【履修上の注意事項】

出席日数が3分の2に満たない者は原則として単位を与えません。  
宿題は必ずやってくることを。

## 【評価方法】

平常点（30％）＋期末試験（70％）

## 【テキスト】

日本語検定公式テキスト「日本語」中級 3・4級受検用（東京書籍）  
適宜、プリントを配ります。

## 【参考文献】

庵功雄・日高水穂・前田直子・山田敏弘・大和シゲミ2003『やさしい日本語のしくみ』（くろしお出版）。  
佐々木瑞枝1994『外国語としての日本語』（講談社現代新書）。

## 日本語現代文法Ⅱ

担当教員 野原 優一

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

私たちは、物事を伝えたり、気持ちや考えを表したりするためにことばを使う。ことばにはいろいろ決まりがあるわけだが、その続け方（言語表現の組み立て方）の決まりを文法という。本講義は、ことばを文法的に考えることを通して日本語について考察を深めるとともに、日本語を各分野から捉え、日本語について知識を深め、自己の日本語力を豊かにすることも併せて習得する。後期は、語彙・言葉の意味・漢字・表記法・付属語などを扱い、日本語検定3、2級の合格を目指す。

## 【授業の展開計画】

- |          |         |                |               |
|----------|---------|----------------|---------------|
| 1. 語彙    | 語と語の関係  | 結び付きにおける語の性格   | 語種と文体         |
| 2. 言葉の意味 | 似た言葉の区別 | 言葉の多義性         | ことわざ・慣用句・故事成語 |
| 3. 表記    | 現代仮名遣い  | 送り仮名           |               |
| 4. 漢字    | 異字同訓    | 字形が似ている漢字の使い分け |               |
| 5. 文法    | 副詞      | 連体詞            | 助動詞 助詞        |

## 【履修上の注意事項】

出席日数が3分の2に満たない者は原則として単位を与えない。  
宿題は必ずやってくること。

## 【評価方法】

平常点（30%）＋ 期末試験（70%）

## 【テキスト】

日本語検定公式テキスト「日本語」中級 3・4級受検用（東京書籍）  
適宜、プリントを配る。

## 【参考文献】

『国文法の基礎』永山 勇著 1989 洛陽社  
『概説・現代日本語文法』鈴木康之監修 日本語文法研究会編 2001 おうふう

## 日本語古典文法 I

担当教員 田場 裕規

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

高等学校までの古典文法（古文・漢文の文法）を復習し、古典文学作品を読むための基礎力の養成をめざす。文法だけに重きをおくのではなく、言語文化としての古典ということを意識して講義する。

## 【授業の展開計画】

- 1 ガイダンス
- 2 歴史的仮名遣い・言葉の単位・品詞
- 3 古文演習①
- 4 動詞
- 5 形容詞・形容動詞
- 6 古文演習②
- 7 名詞・連体詞・副詞
- 8 古文演習③
- 9 訓読について（送り仮名・返り点）
- 10 書き下し文
- 11 漢文演習①
- 12 再読文字・返読文字
- 13 漢文演習②
- 14 句形①
- 15 漢文演習③
- 16 テスト

## 【履修上の注意事項】

①後期「日本語古典文法Ⅱ」を継続履修すること。②A4サイズのノートを準備すること。③指定した範囲の予習をノートにした上で授業にのぞむこと。④古語辞典・漢語辞典を持参すること。⑤追試なるものは一切しない。ただし、どうしても単位取得の必要な学生は申し出ること。考慮しないことはない。⑥プリント類の保管・管理は受講者が行うこと。増し刷りや欠席者への対応はしない。自主性を重んじる。

## 【評価方法】

単純に（出席点＋テスト点＋ノート点）÷3＝成績点とする。ノート提出はテスト終了時を締め切りとする。

## 【テキスト】

『改訂版 楽しく学べる 基礎からの古典文法』（第一学習社）530円  
『基礎から解釈へ 漢文必携』（桐原書店）520円

## 【参考文献】



## 日本語古典文法Ⅱ

担当教員 田場 裕規

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

前期に引き続き、高等学校までの古典文法（古文・漢文の文法）を復習し、古典文学作品を読むための基礎力の養成をめざす。文法だけに重きをおくのではなく、言語文化としての古典を意識して講義する。

## 【授業の展開計画】

- 1 助動詞①
- 2 助動詞②
- 3 古文演習
- 4 助動詞③
- 5 助動詞④
- 6 古文演習
- 7 助詞①
- 8 助詞②
- 9 古文演習
- 10 句形②
- 11 漢文演習
- 12 句形③
- 13 漢文演習
- 14 句形④
- 15 漢文演習
- 16 テスト

## 【履修上の注意事項】

①前期「日本語古典文法Ⅰ」も履修すること。②A4サイズのノートを準備すること。③指定した範囲の予習をノートにした上で授業にのぞむこと。④古語辞典・漢語辞典を持参すること。⑤追試なるものは一切しない。他だし、どうしても単位取得の必要な学生は申し出ること。考慮しないことはない。⑥プリント類の保管・管理は受講者が行うこと。増し刷りや欠席者への対応はしない。自主性を重んじる。

## 【評価方法】

単純に（出席点＋テスト点＋ノート点）÷3＝成績点とする。ノート提出はテスト終了時を締め切りとする。

## 【テキスト】

『改訂版 楽しく学べる 基礎からの古典文法』（第一学習社）530円  
『基礎から解釈へ 漢文必携』（桐原書店）520円

## 【参考文献】

## 日本語表現法演習 I

担当教員 佐渡山 美智子

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

日本語表現法演習 I では、日本語の音声表現を中心に、基本である日本語の発声・発音、「伝える姿勢とその方法」を学び、グループワークを通して、互いに認め合い「繋がる」ことから理解を深めるプログラムです。「情報の収集」「理解」「整理」「選択」「表現」を実践しながらコミュニケーション力を高めます。

## 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	日本語表現<音声表現>の現状とスキルアップの目的   班員紹介の実施方法
2	<音声表現>の基本―「姿勢」「発声」「発音」   班員紹介―班内紹介
3	<音声表現>の基本― 明瞭な発音「滑舌」   各班紹介
4	<音声表現>の基本―「外郎売」   人物スケッチの方法
5	<音声表現>の基本―「外郎売」   人物スケッチ=他己紹介
6	<言葉に想いをのせて>詩の朗読―作品の選択・解釈   詩の創作スタート
7	<言葉に想いをのせて>詩の朗読―声・間の取り方・抑揚・強弱など
8	<言葉に想いをのせて>創作詩―言葉を選び紡ぐ   <文字表現>創作詩集制作
9	<連携>創作詩集制作―報告・連絡・相談   役割分担と連携の方法
10	<集団表現>群読―実践   詩集配布
11	<理解>創作民話劇「鬼慶良間」について   台本配布
12	<集団表現>群読―鬼慶良間より   外郎売・暗唱表現テスト
13	<舞台表現>創作民話劇「鬼慶良間」キャスティングオーディション
14	「鬼慶良間」キャスティング・スタッフ決定   外郎売・暗唱表現テスト
15	表現の魅力と責任―言葉の力   外郎売・暗唱表現テスト
16	レポート提出

## 【履修上の注意事項】

- ・日本文化学科1年生は全員受講してください。
- ・出席日数が3分の2に満たない場合は単位を認めません

## 【評価方法】

2/3以上の出席を要件とし、授業態度、発表への取り組み、課題提出状況をもとに総合的に評価します。

## 【テキスト】

配付資料を使用します。

## 【参考文献】

1回目の授業で説明します。

## 日本語表現法演習Ⅱ

担当教員 佐渡山 美智子

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

日本語表現法演習Ⅱでは、日本文化学科の伝統として受け継いでいる創作民話劇「鬼慶良間」を大学祭で上演します。総合芸術といわれる舞台表現・演劇を、受講生全員がそれぞれの役割を担い、想いを繋いで創り上げる過程からコミュニケーション力を高め、表現することを実践します。後半では、論理的な思考と表現方法、理解力とあわせて自らの意思を伝えることを目的にディスカッションやディベートを行います。

## 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	日本語表現法演習Ⅱの講義計画の説明と日程   鬼慶良間スタッフ紹介
2	「鬼慶良間」作品の解釈と説明・読み合わせ   本番までの計画書の作成
3	「鬼慶良間」立ち稽古   係ごとの報告・連絡・相談
4	「鬼慶良間」立ち稽古   係ごとの報告・連絡・相談
5	「鬼慶良間」通し稽古   係ごとの報告・連絡・相談
6	「鬼慶良間」ゲネプロ
7	「鬼慶良間」上演—大学祭①
8	「鬼慶良間」上演—大学祭②
9	「鬼慶良間」上映
10	プレゼンテーションとディスカッションについて —基本とマナー
11	ディスカッションのテーマをプレゼンテーション   テーマ決定
12	グループディスカッションの実践   主張・論拠・データ検証
13	ディベートについて—ディベートの方法とその目的—   論理的な思考・発言力
14	ディベートの実践— ディベートマッチ
15	エンディング・グループワーク「これから」   表現の目的と方法について
16	レポート提出

## 【履修上の注意事項】

- ・日本文化学科1年生は全員受講してください。
- ・出席日数が3分の2に満たない場合は単位を認めません。

## 【評価方法】

2/3以上の出席を要件とし、授業態度、発表への取り組み、課題提出状況をもとに総合的に評価します。

## 【テキスト】

配付資料を使用します。

## 【参考文献】

1回目の授業で説明します。

## 日本史概論 I

担当教員 新城 俊昭

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

私たちが過去をふり返り、ある出来事について語ることは、現在の歴史観で過去の歴史事実に評価を下していることになる。いわば、現在の歴史観が明日の歴史の指針を示しているといえよう。私たちが過去の歴史事実にこだわるのは、その歴史評価を下している現在の目が、そのまま未来を見つめているからにほかならない。本講義では、日本の原始・古代から近世初期までの歴史を、史料・資料の分析を通して歴史事象の因果関係を明らかにし、その歴史的意義について考察する。

## 【授業の展開計画】

旧石器時代から室町時代までの歴史を概観するとともに、毎時間テーマを設定して学習を展開し、課題を深く掘り下げて学ぶことにより歴史的な思考力を培う。また、琉球・沖縄史にも視野を広げ、ウチナーンチュのアイデンティティの形成についても考察する。

週	授 業 の 内 容
1	旧石器時代の日本について港川人を中心に学ぶ。
2	縄文時代から弥生時代への移行について邪馬台国論争を中心に学ぶ。
3	大和政権の成立・発展と東アジア社会について学ぶ。
4	推古朝の政治と飛鳥文化について学ぶ。
5	平安初期の政治と文化について学ぶ。
6	摂関政治と国風文化について学ぶ。
7	武士の台頭と平氏政権について学ぶ。
8	鎌倉幕府の成立と執権政治の展開について学ぶ。
9	元寇と幕府の衰退及び鎌倉文化について学ぶ。
10	南北朝の動乱と室町幕府の政治・外交について学ぶ。
11	琉球王国の成立と発展について学ぶ。
12	東アジア社会と琉球の大交易時代について学ぶ。
13	惣村の発展と応仁の乱及び室町文化について学ぶ。
14	戦国の争乱とヨーロッパ人の来航について学ぶ。
15	授業のまとめ。沖縄歴史検定等で琉球・沖縄史についてのまとめ学習もする。
16	期末試験。

## 【履修上の注意事項】

特になし。毎回のテーマの進捗状況によって、扱うテーマを多少変更する場合もある。

## 【評価方法】

課題（レポート形式で3～5回程度）と試験の結果で評価する。試験は本講座で学んだ基礎知識の確認と、予め与えた課題から数点論述させる。配分は課題4割、テスト6割。また、授業に取り組む姿勢や意欲も重視する。場合によっては加点・減点することがある。

## 【テキスト】

特に指定教科書はない。毎回レジュメや史料・絵図などの参考資料を配布。副読本として『沖縄から見える歴史風景』新城俊昭著（編集工房東洋企画発行）を使用。

## 【参考文献】

プリントで配布または毎時間授業で紹介。

## 日本史概論Ⅱ

担当教員 新城 俊昭

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

私たちが過去をふり返り、ある出来事について語ることは、現在の歴史観で過去の歴史事実に評価を下していることになる。いわば、現在の歴史観が明日の歴史の指針を示しているといえよう。私たちが過去の歴史事実にこだわるのは、その歴史評価を下している現在の目が、そのまま未来を見つめているからにほかならない。本講義では、日本の近世から現代までの歴史を、史料・資料の分析を通して歴史事象の因果関係を明らかにし、その歴史的意義について考察する。

## 【授業の展開計画】

織豊政権から現代までの歴史を概観するとともに、毎時間テーマを設定して学習を展開し、課題を深く掘り下げて学ぶことにより歴史的な思考力を培う。また、琉球・沖縄史にも視野を広げ、ウチナーンチュのアイデンティティの形成についても考察する。

週	授 業 の 内 容
1	豊臣秀吉と琉球の関係について学ぶ。
2	江戸幕府の成立と幕藩制国家の仕組みについて学ぶ。
3	薩摩藩島津氏の琉球侵略について学ぶ。
4	幕藩制国家に組み込まれた近世琉球の社会と文化について学ぶ。
5	欧米列強の進出と日本の開国について学ぶ。
6	明治維新と廃琉置県(琉球処分)について学ぶ。
7	近代日本における沖縄の位置づけについて学ぶ。
8	不平等条約の改正と国境の確定について学ぶ。
9	日清戦争・日露戦争と沖縄の日本への同化について学ぶ。
10	第一次世界大戦と国際社会における日本の動向について学ぶ。
11	アジア太平洋戦争と沖縄戦の実相から見えるものについて学ぶ。
12	戦後日本の政治と米軍支配時代の沖縄について学ぶ。
13	高度経済成長期の日本と沖縄の「祖国復帰運動」について学ぶ。
14	現代日本の課題と沖縄の基地問題について学ぶ。
15	授業のまとめ。沖縄歴史検定等で琉球・沖縄史についてのまとめ学習もする。
16	期末試験。

## 【履修上の注意事項】

特になし。毎回のテーマの進捗状況によって、扱うテーマを多少変更する場合もある。

## 【評価方法】

課題(レポート形式で3～5回程度)と試験の結果で評価する。試験は本講座で学んだ基礎知識の確認と、予め与えた課題から数点論述させる。配分は課題4割、テスト6割。また、授業に取り組む姿勢や意欲も重視する。場合によっては加点・減点することがある。

## 【テキスト】

教科書は特に指定しない。毎回レジュメや史料・絵図などの参考資料を配布。副読本として『沖縄から見える歴史風景』新城俊昭著(編集工房東洋企画発行)を使用。

## 【参考文献】

プリントで配布または毎時間授業で紹介。

## 日本思想史 I

担当教員 田場 裕規

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

本講は、「古典に親しむ」ことを意識しながら、万葉集の歌を取り上げ、日本人と歌について講義する。また、歌を漢字表記することによって、どのような知的な活動が生まれていったのかということも考え、漢字と日本文化についても論じたい。

## 【授業の展開計画】

- 1 ガイダンス
- 2 歌のころ・言霊・霊魂
- 3 時代区分・万葉概説
- 4 磐姫皇后・雄略天皇
- 5 有間皇子
- 6 額田王
- 7 額田王と大海人皇子
- 8 壬申の乱と天武朝
- 9 大津皇子
- 10 柿本人麻呂①
- 11 柿本人麻呂②
- 12 高市黒人
- 13 歌の漢字表記①
- 14 歌の漢字表記②
- 15 日本人と歌—漢字表記から表現へ

## 【履修上の注意事項】

①無断欠席をしないこと（欠席後の欠席届は不要）。②プリント類の保管・管理は受講者が行うこと。増し刷りや欠席者への対応はしない。自主性を重んじる。

## 【評価方法】

単純に（出席点＋レポート点）÷2＝成績点とする。

## 【テキスト】

## 【参考文献】

適宜紹介する。

## 日本思想史Ⅱ

担当教員 田場 裕規

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

本講は、「古典に学ぶ」ことを意識しながら、万葉集の歌を取り上げ、日本人と歌について講義する。「万葉びととの対話」ということをめざし、万葉びとの心について論じたい。今に生きる現代人が、「万葉びととの対話」によって、どのような価値観を見出すことができるか考えていきたい。前期の「日本思想史Ⅰ」を深化・拡充する。

## 【授業の展開計画】

- 1 ガイダンス
- 2 山部赤人
- 3 大伴旅人
- 4 山上憶良
- 5 高橋虫麻呂
- 6 大伴坂上郎女
- 7 戯れの歌
- 8 大伴家持①
- 9 東国農庶民①
- 10 東国農庶民②
- 11 防人
- 12 遣新羅使人
- 13 中臣宅守と狭野弟上娘子
- 14 大伴家持②
- 15 万葉の終焉

## 【履修上の注意事項】

①無断欠席をしないこと（欠席後の欠席届は不要）。②プリント類の保管・管理は受講者が行うこと。増し刷りや欠席者への対応はしない。自主性を重んじる。

## 【評価方法】

単純に（出席点＋レポート点）÷2＝成績点とする。

## 【テキスト】

## 【参考文献】

適宜紹介する

## 日本の美術

担当教員 花城 郁子

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

日本文化概念について茶室を軸に大陸文化から日本様式を形成する経緯を学びながら、「見立てと靈性」というくくりで、現代のマンガ文化まで読み解く。画像を見せながら感想などを話し合う時間を多く持ち、毎回リアクション・ペーパーを描く・書くことで、自身の表現力を問うと共に言葉と図像、絵の関係を意識する場とする。

## 【授業の展開計画】

- 1: ガイダンス
- 2: 茶道の歴史
- 3: 茶室の成り立ち（寝殿造りから書院造りへ）
- 4: 陶芸1
- 5: 日本画1
- 6: 日本画2
- 7: 作品鑑賞（学外。展示期間により、日程が前後する場合がある）
- 8: 春画を読み解く
- 9: 現代美術の状況1- 性を考えるアート
- 10: 現代美術の状況2- コンセプトチャルアートからインスタレーション
- 11: 少女の世界1（表紙を飾る女性たち、少女漫画の歴史）
- 12: 少女の世界2（呪術と造形）
- 13: 少女の世界3（萩尾望都の世界）
- 14: 少女なの？の世界（腐女子、その文化）
- 15: まとめ
- 16: テスト形式のレポート

## 【履修上の注意事項】

作品画像を観て感想を述べ合う以外は、私語・雑談禁止。

美術に興味を持ち、表現する事とは何かを考え、理解しようという意欲を持った学生の参加を希望。毎講義では小演習としてリアクションペーパーを書く、描くこととなります。各自準備するもの一色鉛筆、マーカー、クレヨン、ハサミ、ノリ、セロテープなど。

## 【評価方法】

リアクション・ペーパー、レポート、試験で総合的に評価。

## 【テキスト】

適宜に配布。

## 【参考文献】

県立博物館・美術館、画廊、野外展示など美術作品展示空間に行き作品鑑賞、及び映画やテレビなどの美術関係の番組鑑賞。



## 日本文化基礎演習

担当教員 大野 隆之

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 前期・後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考 琉球文化・人文情報コースは選択必修科目

### 【授業のねらい】

樋口一葉「たけくらべ」をグループで輪読することにより、朗読力、明治期の語彙に関する調査、読解力、批評力を身につける。

### 【授業の展開計画】

- 1, 教員による模擬発表、諸注意。
- 2, グループによる発表。

### 【履修上の注意事項】

グループ結成後の履修取り消しは認めない。

### 【評価方法】

発表内容が90%。特に朗読部分を最重視する。  
期末テストを行う。これはグループ内における個人の力を確認するためのもので、評価の基本はグループの持ち点による。ただし不受験の場合は不可になるので注意。

### 【テキスト】

新潮文庫『にごりえ・たけくらべ』

### 【参考文献】

## 日本文化特殊講義Ⅱ

担当教員 一丸山 顯徳

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 集中

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

### 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	天地初発の五神[沖縄の神話・伝説との比較]「沖縄本島の天地分離、宮古の卵生神話。
2	イザナキとイザナミ [沖縄の神話・伝説との比較] 「多良間の始まり、八重山の始まり。
3	イザナミの死と黄泉の国 [沖縄の神話・伝説との比較] 「冥界往来神話」「蛇婿入り浜下型」
4	禊による三貴神の誕生と三貴子の天地海洋の分治 [沖縄の神話・伝説との比較]
5	スサノヲの狼藉 [沖縄の神話・伝説との比較] 「沖縄の来訪神」「疫病神」
6	アマテラスの岩屋隠れ [沖縄の神話・伝説との比較] 「日食月食由来」
7	スサノヲの下界追放。スサノヲの穀神殺し (ハイヌウェレ型神話) [沖縄の神話・伝説との比較]
8	出雲神話 [沖縄の神話・伝説との比較] 「沖縄本島の龍蛇退治神話。沖縄本島の大蛇岩。
9	大国主神とスクナビコナの国土創世と御諸山の鎮座 [沖縄の神話・伝説との比較]
10	葦原中つ国に平定 [沖縄の神話・伝説との比較] 「沖縄の老賢者」「雷神の伝説」
11	ニニギ天孫降臨 [沖縄の神話・伝説との比較] 「沖縄の天人降下」「鬼餅由来」「鷲とシャコ貝」
12	コノハナサクヤビメとの結婚 [沖縄の神話・伝説との比較] 「聖女機織 (仲渠マカト型) 伝説」
13	日向神話 [沖縄の神話・伝説との比較] 「失った釣り針型 (平良)」「竜宮訪問 (宮古諸島)」
14	豊玉比売の出産。三輪山神話 (蛇婿入り型) [沖縄の神話・伝説との比較] 「竜宮女房」。
15	まとめ「日本神話の特色と沖縄神話伝説」
16	テスト (授業のまとめ)

### 【履修上の注意事項】

出席回数が2/3以上に達しない場合はテストを受験することができない。

### 【評価方法】

16回目にテストを行い、60点以上を可、70点以上を良、80点以上を優とする。

### 【テキスト】

『新版 古事記 現代語訳付き』中村啓信著 (角川ソフィア文庫 1180円)

### 【参考文献】

## 日本文化特殊講義Ⅲ

担当教員 仁野平 智明（後半）／田場 裕規（前半）

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

古今東西、人間は言語によって対象を認識し表現してきた。評論や文学作品に表れた書き手の価値観や、それを述べるに用いられた論理構造をとらえることによって、言語で表現することの意味を考えていく。あわせて、テキストそのものを精緻に読む能力を身につけることを目指す。

### 【授業の展開計画】

1. オリエンテーション
2. 読むこと・書くこととは
3. 日本古典①
4. 日本古典②
5. 日本古典③
6. 日本古典④
7. 中国古典①
8. 中国古典②
9. 中国古典③
10. 近代評論①
11. 近代評論②
12. 近代評論③
13. 現代評論①
14. 現代評論②
15. 現代評論③
16. 総括

### 【履修上の注意事項】

- (1) 教職課程履修者の履修を強く望む。
- (2) 課題を出すことが多くなるが、きちんと果たして授業に臨むこと。

### 【評価方法】

提出物、出席状況などにより、総合的に評価する。

### 【テキスト】

適宜指示する。

### 【参考文献】

プリントを配布する。

## 日本文化特殊講義Ⅳ

担当教員 仁野平 智明（前半）／田場 裕規（後半）

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

古今東西、人間は言語によって対象を認識し表現してきた。評論や文学作品に表れた書き手の価値観や、それを述べるに用いられた論理構造をとらえることを通して、言語によって表現することの意味を考えていく。日本文化特殊講義Ⅲの内容をふまえ、テキストそのものを精緻に読む能力のさらなる向上を目指す。

### 【授業の展開計画】

1. オリエンテーション
2. 読むこと・書くこととは
3. 日本古典①
4. 日本古典②
5. 日本古典③
6. 日本古典④
7. 中国古典①
8. 中国古典②
9. 中国古典③
10. 近代評論①
11. 近代評論②
12. 近代評論③
13. 現代評論①
14. 現代評論②
15. 現代評論③
16. 総括

### 【履修上の注意事項】

- (1) 教職課程履修者の履修を強く望む。
- (2) 課題を出すことが多くなるが、きちんと果たして授業に臨むこと。

### 【評価方法】

提出物、出席状況などにより、総合的に評価する。

### 【テキスト】

適宜指示する。

### 【参考文献】

プリントを配布する。

## 日本文化論

担当教員 葛綿 正一

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

本講義は、日本文化について概観するものである。まず絵巻と古典文学について考え、次に演劇と古典文化について考え、最後に映画と現代文化について考える。日本文化の多様性や広がりを知ってほしい。ビデオ資料を活用する予定である。

## 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	文化論の陥穽
2	絵巻と日本文化（1）
3	絵巻と日本文化（2）
4	絵巻と日本文化（3）
5	絵巻と日本文化（4）
6	演劇と日本文化（1）
7	演劇と日本文化（2）
8	演劇と日本文化（3）
9	演劇と日本文化（4）
10	映画と日本文化（1）
11	映画と日本文化（2）
12	映画と日本文化（3）
13	映画と日本文化（4）
14	まとめ（1）
15	まとめ（2）
16	

## 【履修上の注意事項】

## 【評価方法】

三回のレポートによって成績を評価する。

## 【テキスト】

開講時に指示する

## 【参考文献】

そのつど指示する

## 日本文学概論

担当教員 大野 隆之

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 前期・後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

世界文化の中の日本文学という視点を特に利解するために英文で書かれた日本文学論を講読する。

### 【授業の展開計画】

- 1, ドナルドキーンについて
- 2, 日本文学と中国文学
- 3, 日本特有の掛詞について
- 4, 暗示と象徴
- 5, 世界文学に対する日本文学の影響
- 6, 日本文学の構成力について

### 【履修上の注意事項】

毎回予習すること。

### 【評価方法】

発表もしくはレポートで受験資格を獲得し、期末テストで評価する。

### 【テキスト】

Donald Keene "Japanese Literature"  
こちらで配布するので、購入は不要。

### 【参考文献】

## 日本文学講読 I

担当教員 田場 裕規

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

本講は『宇治拾遺物語』の講読を行い、語彙、文法、表現等への理解を深め、古文読解力の養成をめざす。国語の教職免許状取得のために必要な科目でもあるので、高等学校において教えるうる読解力を想定して講義する。

## 【授業の展開計画】

- 1 ガイダンス 9 『宇治拾遺物語』の講読⑥
- 2 説話とは何か 10 『宇治拾遺物語』の講読⑦
- 3 『宇治拾遺物語』の類話について 11 『宇治拾遺物語』の講読⑧
- 4 『宇治拾遺物語』の講読① 12 『宇治拾遺物語』の講読⑨
- 5 『宇治拾遺物語』の講読② 13 『宇治拾遺物語』の講読⑩
- 6 『宇治拾遺物語』の講読③ 14 『宇治拾遺物語』の講読⑪
- 7 『宇治拾遺物語』の講読④ 15 『宇治拾遺物語』の講読⑫
- 8 『宇治拾遺物語』の講読⑤ 16 テスト

## 【履修上の注意事項】

①無断欠席をしないこと。②講義のはじめに本文（変体仮名）の読みを行うので、事前に読みの練習等を行ってから講義に臨むこと。③指定した範囲の予習をした上で講義に臨むこと。④古語辞典を必ず持参すること。⑤追試なるものは一切しない。但し、どうしても単位取得に必要な学生は、申し出ること。考慮しないことはない。  
\*厳しい注意事項を列挙したが、読み味わう心と古典に学ぶ謙虚な姿勢を重視したい。

## 【評価方法】

単純に（出席点＋テスト点＋レポート点）÷3＝成績評価とする。レポートのテーマは講義初回に提示する。『宇治拾遺物語』に関する複数のテーマから任意に選択し取り組んでもらう。尚、400字詰原稿用紙換算10枚以上とする。

## 【テキスト】

中島悦次校注『宇治拾遺物語』（角川ソフィア文庫）940円

## 【参考文献】

## 日本文学講読Ⅱ

担当教員 田場 裕規

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

本講は『源氏物語』桐壺巻の講読を行い、語彙、文法、表現等への理解を深め、古文読解力の養成をめざす。国語の教職免許状取得のために必要な科目でもあるので、高等学校において教えるうる読解力を想定して講義する。また本文（青表紙本の変体仮名）の読みに慣れることも目指す。

## 【授業の展開計画】

- |   |               |    |               |
|---|---------------|----|---------------|
| 1 | ガイダンス         | 9  | 『源氏物語』桐壺巻の講読⑥ |
| 2 | 『源氏物語』の概説①    | 10 | 『源氏物語』桐壺巻の講読⑦ |
| 3 | 『源氏物語』の概説②    | 11 | 『源氏物語』桐壺巻の講読⑧ |
| 4 | 『源氏物語』桐壺巻の講読① | 12 | 『源氏物語』桐壺巻の講読⑨ |
| 5 | 『源氏物語』桐壺巻の講読② | 13 | 『源氏物語』桐壺巻の講読⑩ |
| 6 | 『源氏物語』桐壺巻の講読③ | 14 | 『源氏物語』桐壺巻の講読⑪ |
| 7 | 『源氏物語』桐壺巻の講読④ | 15 | 『源氏物語』桐壺巻の講読⑫ |
| 8 | 『源氏物語』桐壺巻の講読⑤ | 16 | テスト           |

## 【履修上の注意事項】

①無断欠席をしないこと。②講義のはじめに本文（変体仮名）の読みを行うので、事前に読みの練習等を行ってから講義に臨むこと。③指定した範囲の予習をした上で講義に臨むこと。④古語辞典を必ず持参すること。⑤追試なるものは一切しない。但し、どうしても単位取得に必要な学生は、申し出ること。考慮しないことはない。

## 【評価方法】

単純に（出席点＋テスト点＋レポート点）÷3＝成績評価とする。レポートのテーマは講義初回に提示する。桐壺巻に関する複数のテーマから任意に選択し取り組んでもらう。尚、400字詰原稿用紙換算10枚以上とする。

## 【テキスト】

『古典セレクション 源氏物語1』（小学館）1,680円

## 【参考文献】



## 日本文学講読Ⅲ

担当教員 黒澤 亜里子

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

本講義では、主として近現代作家のテキストを取り上げながら、日本近代のジェンダー編成のありかたを考察します。

## 【授業の展開計画】

(前期)

- 1 ジェンダー論入門  
「勢力 (power)」概念で読む向田邦子の「花の名前」「かわうそ」
- 2 樋口一葉「にごりえ」／ジェンダーと周縁性
- 3 与謝野晶子「みだれ髪」／ジェンダーと身体性の言説
- 4 田山花袋「蒲団」／ジェンダーと囲い込み
- 5 森鷗外「半日」／ジェンダーと〈母〉
- 6 長塚節「土」／ジェンダーと階級

## 【履修上の注意事項】

期末レポート以外に、発表、課題を2～3回課します。

## 【評価方法】

①試験 (orレポート) ②課題・提出物 ③出席

## 【テキスト】

『ジェンダーの日本近代文学』（黒澤亜里子他著、翰林書房）

## 【参考文献】

そのつど指示します。

## 日本文学講読Ⅳ

担当教員 黒澤 亜里子

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

本講義では、主として近現代作家のテクストを取り上げながら、日本近代のジェンダー編成のありかたを考察します。

## 【授業の展開計画】

(導入) ジェンダー論入門Ⅱ

- 7 田村俊子「生血」／ジェンダーと〈性〉
- 8 平塚らいてう「茅ヶ崎へ、茅ヶ崎へ」／女性同性愛というセクシュアリティ
- 9 夏目漱石「こゝろ」／男性同性愛と異性愛体制およびジェンダー
- 10 菊池寛「父帰る」／ジェンダーと家父長制
- 11 有島武郎「或る女」／ジェンダーとセクシュアリティ
- 12 谷崎潤一郎「痴人の愛」／ジェンダーとメディア

## 【履修上の注意事項】

発表、提出物を課します。

## 【評価方法】

- ①試験 (orレポート) ②課題発表・提出物 ③出席

## 【テキスト】

『ジェンダーの日本近代文学』（黒澤亜里子他著、翰林書房）

## 【参考文献】

そのつど指示します。

## 日本文学史 I

担当教員 葛綿 正一

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

本講義は日本文学史を学ぶものである。特に古典文学を中心に、個々の作品を読み進めながら、それぞれの文学史的位置づけについて考えてみたい。レポートの書き方についても触れる予定である。

## 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	時代区分について
2	万葉集について、一
3	万葉集について、二
4	万葉集について、三
5	古事記について、一
6	古事記について、二
7	風土記について
8	レポートの書き方
9	古今集について
10	物語文学について
11	日記文学について
12	随筆文学について
13	歴史物語について
14	説話文学について
15	まとめ
16	

## 【履修上の注意事項】

## 【評価方法】

レポートとテストによって成績を評価する。

## 【テキスト】

『日本古典読本』筑摩書房

## 【参考文献】

そのつど指示する

## 日本文学史Ⅱ

担当教員 大野 隆之

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

## 【授業の展開計画】

日本の近代現代文学はすでに百年以上の歴史をもっている。その内どこまでを近代とし、どこからを現代とするかは諸説あるが、日本文学史近代現代Ⅱでは自然主義成立以後、即ち大正市民文学以降の文学の流れを概観する。具体的には次の通りである。

- 1、明治期啓蒙思想、戯作の残像と変容
- 2、写実主義と浪漫主義、没理想論争
- 3、ロマン主義から自然主義へ、日本近代文学の確立
- 4、大正文学・白樺派、私小説と芥川
- 5、関東大震災の衝撃
- 6、モダニズムとプロレタリア文学の登場
- 7、転向文学と国策文学
- 8、戦後文学
- 9、現代文学文学

## 【履修上の注意事項】

## 【評価方法】

## 【テキスト】

テキストは初回の講義で指示する。

## 【参考文献】

柄谷行人『日本近代文学の起源』講談社1980年  
亀井秀雄『感性の変革』講談社1983年

## 日本文学特殊講義 I

担当教員 仁野平 智明

対象学年 3年

単位区分 選必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

近現代の小説を文学的文章教材として研究する方法について学ぶとともに、中学・高等学校の国語科教科書に採録されている作品の教材価値について具体的に考察する。文学研究における成果をはじめとする、国語科を取り巻く近接諸領域との関連も合わせて検討し、教材研究における素材的研究を行う能力と姿勢を身につける。

## 【授業の展開計画】

1. オリエンテーション
2. 読書行為とテキスト
3. 作者はどこにいるのか、語り手とは何者か
4. 教材論とは
5. グループ発表・研究討議①
6. グループ発表・研究討議②
7. グループ発表・研究討議③
8. グループ発表・研究討議④
9. グループ発表・研究討議⑤
10. グループ発表・研究討議⑥
11. グループ発表・研究討議⑦
12. グループ発表・研究討議⑧
13. グループ発表・研究討議⑨
14. グループ発表・研究討議⑩
15. グループ発表・研究討議⑪
16. グループ発表・研究討議⑫

## 【履修上の注意事項】

- (1) 教職課程履修者は、履修することが望ましい。
- (2) 扱う作品を事前に読み込んで、自分の解釈をもって授業に臨むこと。

## 【評価方法】

発表の内容、討論への参加状況、提出物、出席状況などにより、総合的に評価する。

## 【テキスト】

プリントを配布する。

## 【参考文献】

プリントを配布する。

## 日本文学特殊講義Ⅱ

担当教員 仁野平 智明

対象学年 3年

単位区分 選必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

近現代の韻文作品を文学的文章教材として研究する方法について学ぶとともに、中学・高等学校の国語教科書に採録されている作品の教材価値について具体的に考察する。文学研究における成果をはじめとする、国語科を取り巻く近接諸領域との関連も合わせて検討し、教材研究における素材的研究を行う能力と姿勢を身につける。

## 【授業の展開計画】

1. オリエンテーション
2. 韻文とは
3. 作者中心主義からの脱却
4. 音読・朗読・群読
5. グループ発表・研究討議①
6. グループ発表・研究討議②
7. グループ発表・研究討議③
8. グループ発表・研究討議④
9. グループ発表・研究討議⑤
10. グループ発表・研究討議⑥
11. グループ発表・研究討議⑦
12. グループ発表・研究討議⑧
13. グループ発表・研究討議⑨
14. グループ発表・研究討議⑩
15. グループ発表・研究討議⑪
16. グループ発表・研究討議⑫

## 【履修上の注意事項】

- (1) 教職課程履修者は、履修することが望ましい。
- (2) 扱う作品を事前に読み込んで、自分の解釈をもって授業に臨むこと。

## 【評価方法】

発表の内容、討論への参加状況、提出物、出席状況などにより、総合的に評価する。

## 【テキスト】

プリントを配布する。

## 【参考文献】

プリントを配布する。

## 比較文化 I

担当教員 上里 賢一

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

琉球（沖縄）の文化は、日本、中国、朝鮮、東南アジア諸国等の影響を受けて、独自の特色を持つものになってきたと言われている。この講義では、中国を中心にして形成された「漢字文化圏」の中における琉球の位地を文化的に解明していくことで、東アジアにおける琉球文化の一端を明らかにする。漢字文化の琉球への伝来、漢字による記録の発達と変遷、漢字による芸術の成立と展開等の視点から、琉球における漢字文化の諸相を見ていく。

## 【授業の展開計画】

【授業のねらい】の続き～

漢字文化の精華の一つであり、東アジア漢字文化圏の共有財産である漢詩を軸にして、琉球と中国、日本などの作品を比較し、その特色を明らかにすることで、琉球文化の内容に迫る。

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション
2	東アジア漢字文化圏と琉球①
3	東アジア漢字文化圏と琉球②
4	琉球漢詩の成立
5	程順則の作品①
6	程順則の作品②
7	程順則の作品③
8	程搏万の作品
9	蔡温の産業政策と漢詩文
10	蔡温の作品①
11	蔡温の作品②
12	蔡鐸の作品
13	曾益の作品①
14	曾益の作品②
15	まとめ
16	試験

## 【履修上の注意事項】

漢和辞典を用意すること。

## 【評価方法】

出席、試験、その他の課題等を総合して判断する。

## 【テキスト】

特に指定しない。学期のはじめに使用する資料を配布する。

## 【参考文献】

一海知義『漢詩入門』岩波ジュニア新書 1998 / 高島俊男『漢字と日本人』文春新書 平成13年 / 上里賢一『ピン江のほとり—琉球漢詩の原郷を行く』沖縄タイムス社2001 / 島尻勝太郎選・上里賢一注釈『琉球漢詩選』ひるぎ社 1990

## 比較文化Ⅱ

担当教員 上里 賢一

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

琉球（沖縄）の文化は、日本、中国、朝鮮、東南アジア諸国等の影響を受けて、独自の特色を持つものになってきたと言われている。この講義では、中国を中心にして形成された「漢字文化圏」の中における琉球の位地を文化的に解明していくことで、東アジアにおける琉球文化の一端を明らかにする。漢字文化の琉球への伝来、漢字による記録の発達と変遷、漢字による芸術の成立と展開等の視点から、琉球における漢字文化の諸相を見ていく。

## 【授業の展開計画】

【授業のねらい】の続き～

漢字文化の精華の一つであり、東アジア漢字文化圏の共有財産である漢詩を軸にして、琉球と中国、日本などの作品を比較し、その特色を明らかにすることで、琉球文化の内容に迫る。

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション(東アジア漢字文化圏と琉球)
2	周新命の作品
3	祭文溥の作品
4	首里の漢学と漢詩人
5	東国興の作品
6	毛世輝の作品①
7	毛世輝の作品②
8	楊文鳳の作品①
9	楊文鳳の作品②
10	楊徳仁の作品
11	喜舎場朝賢の作品
12	林世功の作品①
13	林世功の作品②
14	毛有慶の作品
15	眞境名安興の作品
16	試験

## 【履修上の注意事項】

漢和辞典を用意すること。

## 【評価方法】

出席、試験、その他の課題等を総合して判断する。

## 【テキスト】

特に指定しない。学期のはじめに使用する資料を配布する。

## 【参考文献】

一海知義『漢詩入門』岩波ジュニア新書 1998/村上哲見『唐詩』講談社学術文庫 1998/上里賢一『ビソ江のほとり—琉球漢詩の原郷に行く』沖縄タイムス社2001 /島尻勝太郎選・上里賢一注釈『琉球漢詩選』ひるぎ社 1990



## 文化情報学概論

担当教員 山口 真也

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

本授業は、人文情報コース関係科目の基礎科目として位置づけ、2つのサブコース(文化情報学、図書館情報学)の研究内容を理解することを目的とします。前半は文化情報を発信するためのルールとマナーを「表現・言論・報道の自由」という観点から理解し、後半は、後半は沖縄の民話を素材とする朗読CDを制作、図書館やインターネット等の情報装置を使って文化情報を発信するための基礎的な知識と技術を習得します。

## 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	文化情報を発信する意義・人文情報コースの説明   情報発信のルール① 表現・言論の自由
2	情報発信のルール②表現・言論の自由 基本的人権としての自由権
3	情報発信のルール③表現・言論の自由 表現の自由と自主規制(非実在青少年問題)
4	情報発信のルール④表現・言論の自由 演習(ドラえもんの原作マンガ書き換えにみる自主規制基準)
5	情報発信のルール⑤表現・言論の自由 演習(原作マンガとアニメの比較にみる自主規制基準)
6	文化情報の発信①音声情報処理 民話情報をデジタル化する意義・作品選定・台本作成方法の説明
7	情報発信のルール⑥著作権と文化 著作権法の目的・種類(知的財産権、侵害事例)
8	情報発信のルール⑦著作権と文化 著作権法の構造(複製権の制限を中心に)
9	文化情報の発信②音声情報処理 グループ演習(台本作成→提出)
10	文化情報の発信③音声情報処理 グループ演習(台本添削・返却→再提出)   情報処理・入門編
11	文化情報の発信④音声情報処理 応用編(効果音追加・フェイドアウト・ミキシング)
12	文化情報の発信⑤音声情報処理 音声入力(スタジオ録音:リハーサル)
13	文化情報の発信⑥音声情報処理 音声入力(スタジオ録音:本番)
14	文化情報の発信⑦音声情報処理 実習
15	文化情報の発信⑧音声情報処理 実習
16	文化情報の発信⑨ 課題提出・朗読CDの複製・図書館等への配布・インターネットでの公開

## 【履修上の注意事項】

3年次から人文情報コースへ進み、ソフトウェア制作を卒業研究のテーマとしたいと考えている人は必ず2年次に履修してください。

## 【評価方法】

- 1) 単元ごとに実施する小レポートの提出状況、音声情報処理課題の提出状況、出席状況の点数を総合的に判断し、評価します。
- 2) 出席回数が全授業回数の2/3に満たない場合は単位を与えません。
- 3) 遅刻は3回で1回の欠席とします。

## 【テキスト】

- 1) 毎週、プリントを配布します。テキストは使用しません。
- 2) データを保存するメディアとして、USBフラッシュメモリ(1GB以上)を各自で準備してください。

## 【参考文献】

## 文化情報学基礎演習

担当教員 山口 真也

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考 琉球文化・日本文化コースは選択必修科目

## 【授業のねらい】

本授業は、前期の「文化情報学概論」にて制作した音声データ(沖縄民話の朗読CD)を使って、アニメーション形式のデジタル紙芝居と手製の絵本を制作し、県内の小学校、公共図書館へ配付(または上映)することで、3年次から始まる人文情報コースでの文化情報の蓄積と発信に関する研究についての理解をさらに深めることを目指します。また、これらの制作過程を通じて、①ソフトウェア制作に関心がある学生向けにはFlashアニメーションの制作技術、②図書館司書資格課程受講生向けには本の仕組みの知識・製本技術、③Wordを使ったDTP(書籍編集)技術を身につけることを目標とします。※「文化情報学概論」を受講した人が履修できます。

## 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	文化情報を発信する意義・デジタル紙芝居(アニメーション)・手作り絵本制作の計画
2	アニメーションの制作①:Flashの基本操作(図形の描画、レイヤー、モーショントウイーンの設定)
3	アニメーションの制作②:Flashの基本操作(モーションガイドの設定、背景の透過)
4	アニメーションの制作③:Flashの基本操作(アニメーション効果、カラー変更、パブリッシュ)
5	アニメーションの制作④:Flashの基本操作(音声の追加、シェイプトウイーン、振り子の設定)
6	アニメーションの制作⑤:Flashの基本操作(アクションスクリプトによるファイルの連結)
7	アニメーションの制作⑥:イラスト作成(ペンタブ、ペイント系ソフトの使い方)
8	アニメーションの制作⑦:イラスト作成実習
9	アニメーションの制作⑧:イラスト作成実習
10	アニメーションの制作⑨:イラスト作成(PCへの取り込み、着色)
11	手作り絵本の制作①:DTP パソコンを使った書籍編集方法、ページ入れ替え・テキスト流し込み
12	手作り絵本の制作②:製本 表紙布の切り出し、表紙ボール紙の切り出し
13	手作り絵本の制作③:製本 背の作成、表紙の完成
14	手作り絵本の制作④:DTP 絵本の印刷・本体と表紙シールの作成
15	手作り絵本の制作⑤:製本 いとかがり綴じ、本体との結合、絵本の完成
16	課題提出・発表:アニメーション上映会の実施

## 【履修上の注意事項】

- 1) 前期に開講される「文化情報学概論」を履修した者が受講できます。
- 2) 3年次より、人文情報コースを選択し、文化情報ソフトウェア、データベース制作を行う者は必ず受講するようにして下さい。
- 3) パソコンの基本操作ができることを前提とする授業のため、「人文情報基礎」「データベース論」「マルチメディア論」(同時受講可)を履修していることが望ましい。

## 【評価方法】

- 1) 出席回数と課題提出状況によって総合的に評価します。
- 2) 全16回の授業の内、2/3以上欠席した場合、または課題未提出者には単位を与えません。
- 3) アニメーション上映会は授業日以外に行うこともあります(日曜日など)。2ヶ月ほど前に日程を通知しますので、必ず参加できることを受講の条件とします。

## 【テキスト】

- 1) プリントを配布します。
- 2) 500MB以上保存できるUSBフラッシュメディアを各自で準備すること。

## 【参考文献】

## 文化情報学基礎演習

担当教員 吉田 肇吾

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考 琉球文化・日本文化コースは選択必修科目

## 【授業のねらい】

3年次から「図書館情報学ゼミ」を専攻しようとする学生への基礎ゼミと位置づける。したがって国策レベルの図書館変化の方向性(理想像)を把握した上で、図書館における「課題・問題点のとらえ方・考え方」の基礎を学ぶ。また最新の図書館情報学の学問的成果や、実際の図書館の諸相を広く取り上げ、分析方法の基礎を身につける。

## 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション：科目内容について
2	生涯学習社会・情報社会の図書館の基礎知識
3	生涯学習社会・情報社会の図書館員の基礎知識
4	生涯学習社会・情報社会の図書館像①：レポートA
5	レポートA：発表①
6	レポートA：発表・まとめ②
7	生涯学習社会・情報社会の図書館像②：レポートB
8	レポートB：発表①
9	レポートB：発表・まとめ②
10	現代図書館の実像：レポートC
11	レポートC：発表：現状報告
12	レポートC：発表：現状まとめ
13	これからの図書館像
14	これからの図書館職員
15	現代図書館の課題・対応策のまとめ
16	試験

## 【履修上の注意事項】

2年次前期までに、司書資格の基礎的科目である「図書館概論」「図書館サービス論」「図書館資料論」を履修しておくことが望ましい。

3年次から「図書館情報学ゼミ」を専攻しようとする学生は履修すること。

## 【評価方法】

レポート・出席状況及び授業への参加姿勢で総合的に評価する。

## 【テキスト】

必要に応じ適宜プリントを配布する。

## 【参考文献】

## 文化情報学特殊講義

担当教員 久保田 真弓

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 集中

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

本講義では、コミュニケーションを「人」と「文化」という切り口から捉え、人間のコミュニケーションに関わる様々な事象について包括的に考える。あたりまえのように日々行っているコミュニケーションだが、そのメカニズムについては、あまり意識したことがないだろう。そこで、文化人類学、言語学、社会心理学、教育学などの知見をもとに、人間のコミュニケーションについて、事例を参照しながら解説する。

## 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	アイデンティティとコミュニケーション
2	コミュニケーション・モデル
3	コミュニケーションの基本概念・基本前提
4	文化とコミュニケーション
5	コミュニケーションと意識
6	非言語コミュニケーション (1)
7	非言語コミュニケーション (2)
8	非言語と言語の関係
9	言語によるコミュニケーション (1)
10	言語によるコミュニケーション (2)
11	ステレオタイプと偏見
12	異文化接触とコミュニケーション
13	価値観とコミュニケーション
14	コミュニケーション能力
15	グローバル化とアイデンティティ
16	最終試験

## 【履修上の注意事項】

下記の教科書を使用しますので事前に購入しておくこと。

池田理知子・E. M. クレーマー著 (2000)『異文化コミュニケーション入門』有斐閣アルマ

## 【評価方法】

コミュニケーション・カード(30%) 定期試験 (70%)

## 【テキスト】

池田理知子・E. M. クレーマー著 (2000)『異文化コミュニケーション入門』有斐閣アルマ

## 【参考文献】

(1) 古田暁、石井敏、岡部一郎、平井一弘、久米昭元「異文化コミュニケーション・キーワード」有斐閣双書 2001 (2) 石井敏、久米昭元、遠山淳、平井一弘、松本茂、御堂岡潔「異文化コミュニケーション・ハンドブック」有斐閣選書 1997

## 文化情報処理論

担当教員 芳山 紀子

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考 琉球文化・日本文化コースは選択科目

## 【授業のねらい】

パソコンの初歩的知識・技術を習得している者。1年次の人文情報基礎において、体系的に学習を受けた者および、同等の知識・技術を持っている者を対象とし、Excel・Wordの応用操作を通し、身の回りに存在するデータを効率よく活用する技術を習得する。また、最終到達目標は、日本商工会議所の「日商PC検定試験（文書作成）2級」とし、合格率70%以上を目指すものとする。（受験は、任意）

## 【授業の展開計画】

本授業をとおり、パソコンの操作技術は勿論のこと、今後実社会で必要とされるネットワークやハードウェアなど、パソコンの基礎知識及び漢字力・読解力・企画力・数学力など、総合力を育成し卒業後の即戦力への足がかりとする。

- 1 ビジネス文書の基本構成と活用 基本的ビジネス文書の作成 頭語と結語 時候の挨拶など
- 2 文書の編集 移動・コピー・入れ替え ビジネス文書作成 ルビと記号入力 その他
- 3 図形描画の概念と活用 練習問題 テキストボックスの概念と活用（1）
- 4 図形描画で作品を作る（機関車トーマス）
- 5 図形描画練習問題1 演習問題 図形描画演習問題2 作成手順の説明
- 6 罫線活用と図形活用の表の違いと特徴 罫線の学習1-1 段落罫線 文字列を表に変換
- 7 罫線活用と図形活用の表の違いと特徴 罫線の学習1-2 段落罫線 表の編集
- 8 異なるアプリケーションの連携 データ作成 OLE機能の確認
- 9 日本語能力確認 慣用句・漢字の読み書き・敬語及び謙譲語その他
- 10 パソコン基礎概論講義1（一般知識 ハードウェア概要）
- 11 パソコン基礎概論講義2（ソフトウェア ネットワーク 情報セキュリティ）
- 12 実力養成演習問題1
- 13 実力養成演習問題2
- 14 実力養成演習問題2
- 15 期末試験
- 16 総括とまとめ

## 【履修上の注意事項】

各学生の情報技術、知識、希望を考慮し、クラス分けを行う。

本授業は、人文情報基礎、データベース論の単位取得者を対象とし、パソコン上級者向け授業と位置づける。（上記2科目の単位を取得していない学生は受講できない）

## 【評価方法】

演習課題の提出状況、出席・遅刻状況、学習態度、実力判定試験などを総合的に判断し、評価する。（出席回数が全授業回数の三分の二に満たない場合は単位を与えない。）

## 【テキスト】

すべてオリジナルテキスト（芳山紀子編集）

## 【参考文献】

FOM出版：日商PC検定試験完全マスター2級（文書作成）

## 文化テキスト論 I

担当教員 黒澤 亜里子

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考 人文情報コースは選択科目

## 【授業のねらい】

文化テキスト論とは、多様な文化現象、表象を対象とし、それらが作られ、消費される構造や関係性を批判的に問題化する研究です。前期の文化テキスト論 I では、主としてジェンダー理論の基礎を学び、文化における表象、イメージを、ジェンダー、セクシュアリティ、ポスト・コロニアル等の視点から考察する予定です。

## 【授業の展開計画】

- 1 ジェンダーとは何か／おおまかな見取り図を描く
- 2 先駆者たちがめざしたもの
- 3 「男」「女」とは何か／性別の起源
- 4 性差・ステレオタイプ・差別
- 5 性役割と「らしさ」の罫
- 6 「性」に潜む二つの意味
- 7 ジェンダーの平等とバックラッシュ

## 【履修上の注意事項】

レポート、提出物を4～5回課します。

## 【評価方法】

- ①試験 (orレポート) ②課題・提出物 ③出席

## 【テキスト】

加藤秀一『ジェンダー入門』（朝日新聞社）

## 【参考文献】

参考図書・文献は、そのつど指示します。

## 文化テキスト論Ⅱ

担当教員 黒澤 亜里子

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考 人文情報コースは選択科目

## 【授業のねらい】

文化テキスト論とは、多様な文化現象、表象を対象とし、それらが作られ、消費される構造や関係性を批判的に問題化する研究です。文化テキスト論Ⅱでは、実際の文学テキストや映像（映画、写真、ポスター、絵画 etc.）における表象、イメージを、ジェンダー、セクシュアリティ、クィア・スタディーズ、ポスト・コロニアル等の視点から分析、考察する予定です。

## 【授業の展開計画】

- 1 文化テキスト論入門 Ⅱ
- 2 クィア理論の射程
- 3 「エイリアン」の表象分析
- 4 男同士の絆／ホモソーシャルな欲望（E・K・セジウィック）
- 5 北野武「BROTHER」の表象分析
- 6 「強制異性愛社会」と「ミソジニー（女性嫌悪）」「ホモフォビア（同性愛嫌悪）」
- 7 夏目漱石「こころ」の表象分析
- 8 「下妻物語」「ウーマン・ラブ・ウーマン」他

## 【履修上の注意事項】

レポート・課題を4～5回課します。

## 【評価方法】

- ①試験（orレポート） ②課題・提出物 ③出席

## 【テキスト】

プリントを使用。

## 【参考文献】

参考図書・文献は、そのつど指示します。

## マルチメディア論

担当教員 島村 岳

対象学年 1年

単位区分 選必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考 琉球文化・日本文化コースは選択科目

## 【授業のねらい】

ホームページをはじめとするマルチメディアを、単に技術ではなくひとつのメディアとしてとらえ、そのメディアの利用法を学ぶ。マルチメディア全般の概念・用語、ビデオ動画をのぞくマルチメディア関係のデータ処理（音声データ処理、画像処理）、Gifアニメ、FLASHなどを含むHTMLの学習。学生各自が各マルチメディア素材を生かしたホームページを作成できるような知識、技術を身につける。最終的には、全体で10ページ前後、使用画像数40点前後、重さ3メガ程度のホームページを生徒自身で作成させる。

## 【授業の展開計画】

- 1週目（マルチメディア概論） マルチメディア全般用語説明、技術、用語の基礎知識  
 2週目（画像処理1） 画像圧縮と変換・画像加工： PHOTOSHOP全般用語説明、技術、用語の基礎知識 ～PHOTOSHOP編/1  
 3週目（画像処理2） 画像圧縮と変換・画像加工： 教材画像の切り抜き、色調補正、合成 ～PHOTOSHOP編/2  
 4週目（画像処理3） 画像圧縮と変換・画像加工： 持ち込み画像のスキャン、色調補正、合成、加工された教材画像の評価、発表 ～PHOTOSHOP編/3  
 5週目（画像処理4） 画像圧縮と変換・画像加工： 加工された持ち込み画像、完成  
 持ち込み画像、ホームページ(html)への張り込み ～PHOTOSHOP編/4  
 6週目（画像処理5） イラスト・アニメの作成： Illustrator全般用語説明、技術、用語の基礎知識 ～Illustrator編/1  
 7週目（画像処理6） イラスト・アニメの作成： 教材用epsファイルを使い小鳥の絵を描く 1（パスツールで小鳥を囲い込む） ～Illustrator編/2  
 8週目（画像処理7） イラスト・アニメの作成： 教材用epsファイルを使い小鳥の絵を描く 2（色の設定、文字の書き込み） ～Illustrator編/3  
 9週目（画像処理8） イラスト・アニメの作成： 教材用epsファイルを使い小鳥の絵を描く 3（ファイルの書き出し・htmlへの貼り込み） ～Illustrator編/4  
 10週目（画像処理9） イラスト・アニメの作成： 教材用epsファイルを使い小鳥の絵を描く 4（貼り込まれた小鳥の評価、発表） ～Illustrator編/4  
 11週目（動画処理1） フラッシュアニメの基礎知識、パラパラアニメ、トゥーンアニメ、～Flash編/1  
 12週目（動画処理2） フラッシュアニメの基礎知識、ホームページへの貼り込み ～Flash編/2  
 （音声処理） 音声ファイル形式・音声取込と加工  
 13週目（HTML） HTMLの基礎と応用、各マルチメディア素材の活用/1  
 14週目（HTML） HTMLの基礎と応用、各マルチメディア素材の活用/2  
 15週目（プレゼンテーション） 各自が作成したホームページを発表

## 【履修上の注意事項】

- 1) インターネットは見ているが作ったことがない、生徒の受講を希望。技術の取得ではなく、理念を学習する。
- 2) かなりテンポの早い、内容の濃い講義です。2回連続して欠席した場合、確実についてゆけなくなります。

## 【評価方法】

5点の提出物・発表(①制作ホームページのテーマ、②ホームページ構成図、③写真画像(ビットマップ系画像)、④ポストスクリプト系画像、⑤作成したホームページ、⑥ジャックポット特別評価)より成績の評価をします。

## 【テキスト】

ホームページ<http://soranchu.bbplus.net/joho/>をテキストとします。

## 【参考文献】



## 琉球文化基礎演習

担当教員 狩俣 恵一

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考 日本文化・人文情報コースは選択必修科目

### 【授業のねらい】

琉球文化の代表的なものとして、言語・芸能・音楽・信仰・建築・工芸等を挙げることができるが、本演習ではそれらの中から、琉球の言語と文学及び民俗に関するテーマを選んで発表してもらう。発表に先立っては、資料の収集だけに限らず、必要に応じて現地調査なども行うこと。発表においては、日本本土・中国・韓国などのアジア諸国との比較研究を行うと共に、独自の見解を出すことができるように努めること。但し、受講生が多いときは、講義形式を中心進める。

### 【授業の展開計画】

第1回 発表についての説明

1. 発表日時と発表内容の確定。
2. 調査研究及び発表資料の作成。
3. 発表資料は、パソコンで作成すること。
4. 発表においては、聞き手がわかりやすいように工夫すること。

第2回

講義：琉球文化とは何か。

琉球の範囲・琉球文化の特質について考える。

第3回～第15回

学生の発表及び質疑応答  
発表のまとめを行う。

### 【履修上の注意事項】

発表者は無断欠席をしないこと。

### 【評価方法】

試験と出席

### 【テキスト】

なし

### 【参考文献】

必要に応じて、その都度指示する。

## 琉球文化基礎演習

担当教員 西岡 敏

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考 日本文化・人文情報コースは選択必修科目

## 【授業のねらい】

前期の科目「琉球方言学概論」で培った琉球方言に関する知識をもとに、更なる発展を目指します。琉球方言に関するメディア（方言ニュース、しまうたのCD、沖縄芝居、沖縄の民話など）も題材として考えます。沖縄の芸能や文学作品で用いられている言語の意味が理解でき、鑑賞できるようになることが目標です。

## 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	琉球語諸方言概説
2	不規則動詞・「～で」にあたる助詞
3	継続過去形・シヨッタ形
4	義務表現・沖縄語における文法化
5	親族名詞（士族言葉と平民言葉）
6	「～の」にあたる助詞（属格）
7	サ形容詞・動詞継続形の否定形
8	受身と使役
9	疑問の係り結び
10	沖縄語の助動詞（その1）
11	沖縄語の助動詞（その2）
12	沖縄語の尊敬語（その1）
13	沖縄語の尊敬語（その2）
14	沖縄語の謙譲語（その1）
15	沖縄語の謙譲語（その2）
16	試験

## 【履修上の注意事項】

登録人数を制限することがあります。  
出席日数が3分の2に満たない者は原則として単位を与えません。

## 【評価方法】

出席・提出課題（30%）＋期末試験（70%）

## 【テキスト】

西岡敏・仲原穰[著]、伊狩典子・中島由美[協力] 2007[2000]  
『沖縄語の入門（CD付改訂版） たのしいウチナーグチ』（白水社）。第8課から第12課まで。

## 【参考文献】

国立国語研究所[編] 1963『沖縄語辞典』（財務省印刷局[大蔵省印刷局]）。波照間永吉[監修]・沖縄県教育文化資料センター『新編 沖縄の文学』編集委員会[編] 2003『新編 沖縄の文学』（沖縄時事出版）。

## 琉球文化論

担当教員 照屋 理

対象学年 1年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

### 【授業のねらい】

琉球文化論とは文字通り、琉球の文化を論じる講義のことです。ところで「琉球」とはどこにあるのでしょうか。「沖縄」と何が違うのでしょうか。また「文化」もよく聞かれる言葉ですが、一体どのようなものなのでしょうか。この講義は、主に琉球・沖縄文学をテーマとしながら、見、聞き、触れ、嗅ぐことなどを通して「琉球文化」を受講生自身で考え、各自の足下を掘り下げていくことをねらいとしています。

### 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション。講義内容、評価方法の紹介等
2	琉球・沖縄文学概説
3	身近な方言について
4	南島祭祀歌謡の概説
5	『おもろさうし』概説
6	オモロ鑑賞
7	奄美地域の歌謡概説と作品鑑賞
8	宮古地域の歌謡概説と作品鑑賞
9	八重山地域の歌謡概説と作品鑑賞
10	琉歌概説（琉歌を詠む）
11	琉歌作品鑑賞
12	琉球・沖縄劇文学の概説と作品鑑賞
13	琉球・沖縄説話文学の概説と作品鑑賞
14	「琉球」「文化」を論じるということについて・総括
15	総括2
16	期末試験 基礎問題(3~4問)70点+応用問題(2問)30

### 【履修上の注意事項】

本講義は「琉球」や「沖縄」、あるいは「文化」について自分の力で考え、かつそれを提示することが求められる。講義で何を感じ、どう考えたかを確認する為、講義の最後に毎回小レポートを書き、提出してもらう。小レポートは成績評価の対象とする。

### 【評価方法】

成績は出席状況、課題や小レポートの提出状況、受講態度、期末試験等を総合的に判断し評価する。出席日数が全講義の3分の2に満たない場合は単位を与えない。また、課題レポート等において、引用の提示がない、あるいは主要部分がコピー&ペーストされた内容である場合は単位を与えない。

### 【テキスト】

『新編 沖縄の文学』（沖縄時事出版 2008 増補・改訂版）

### 【参考文献】

必要に応じて配布する。

## 琉球文学概論

担当教員 狩俣 恵一

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

琉球文学とは、主として琉球方言による文学であるが、琉球の人々が書いた和文学と漢文学をも含んでいる。しかし、琉球文学には、小説・日記・随筆などの記載文芸は少なく、神話・伝説・昔話・歌謡・芸能等の口頭で伝承されたものが主流である。その主な理由はとして考えられることは、琉球文学が祭祀や祝宴などと密接に繋がって伝承されてきたことにある。

### 【授業の展開計画】

～授業のねらいのつづき～

本講義では、上記の琉球文学の特質を考慮して、琉球方言による神話・伝説・昔話・琉歌・オモロ・民俗歌謡・組踊・狂言等をジャンル（形態）別に整理・体系化したうえで、それぞれのジャンル（形態）について具体的に説明する。

### 【講義計画】

1. 琉球文学の分類
2. 詩歌形態……呪言・呪詞・生産叙事歌謡・物語歌謡・オモロ・琉歌
3. 小説形態……説話（神話・伝説・昔話・世間話）
4. 戯曲形態……民俗芸能・組踊・琉球歌劇

### 【履修上の注意事項】

講義中の退出は認めない。講義では、常にノートをしっかりとること。

### 【評価方法】

試験と出席。

### 【テキスト】

必要に応じてプリントを配る。

### 【参考文献】

その都度指示する。

## 琉球文学講読 I

担当教員 仲原 伸子

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考 日本文化・人文情報コースは選択科目

## 【授業のねらい】

『おもろさうし』は首里王府によって編纂された沖縄最古の神歌集である。1531年に第1巻、1613年に第2巻、1623年に第3巻以降の全22巻が成立した（総数1554首）。

本講義では、実際にオモロに関する資料を活用しながら、資料の内容を理解しその扱い方を学ぶ。最終的に自分でオモロを調べることができることを目標とする。1コマ1・2首ずつ採り上げ、重複、校異、歌形、反復句、語意、語釈、解釈、先行研究などについて調べ読解していく。

## 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	琉球文学の中の『おもろさうし』
2	『おもろさうし』概説（成立・内容・主題）
3	『おもろさうし』概説（周辺歌謡・文学史的な位置づけ）
4	『おもろさうし』概説（諸本）
5	王府おもろ
6	神女おもろ(1)
7	神女おもろ(2)
8	船ゑとのおもろ(1)
9	船ゑとのおもろ(2)
10	ゑさおもろ
11	名人おもろ
12	こねりおもろ
13	地方おもろ(1)
14	地方おもろ(2)
15	公事おもろ
16	期末試験

## 【履修上の注意事項】

## 【評価方法】

レポート点と出席状況・授業参加姿勢とを総合的に評価する。

## 【テキスト】

『おもろさうし』上・下（外間守善・岩波文庫・2000年刊）

## 【参考文献】

『南島の神歌 おもろさうし』（外間守善・中央公論社・1994年刊）

『古典を読む おもろさうし』（外間守善・岩波書店・1998年刊）

その他、参考文献一覧を授業で配布する。

## 琉球文学講読Ⅱ

担当教員 仲原 伸子

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考 日本文化・人文情報コースは選択科目

## 【授業のねらい】

『おもろさうし』は首里王府によって編纂された沖縄最古の神歌集である。1531年に第1巻、1613年に第2巻、1623年に第3巻以降の全22巻が成立した（総数1554首）。

本講義では、実際にオモロに関する資料を活用しながら、資料の内容を理解しその扱い方を学ぶ。最終的に自分でオモロを調べることができることを目標とする。1コマ1・2首ずつ採り上げ、重複、校異、歌形、反復句、語意、語釈、解釈、先行研究などについて調べ読解していく。

## 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	琉球文学の中の『おもろさうし』
2	『おもろさうし』概説（成立・内容・主題）
3	『おもろさうし』概説（周辺歌謡・文学史的な位置づけ）
4	『おもろさうし』概説（諸本）
5	王府おもろ
6	神女おもろ(1)
7	神女おもろ(2)
8	船ゑとのおもろ(1)
9	船ゑとのおもろ(2)
10	ゑさおもろ
11	名人おもろ
12	こねりおもろ
13	地方おもろ(1)
14	地方おもろ(2)
15	公事おもろ
16	期末試験

## 【履修上の注意事項】

## 【評価方法】

レポート点と出席状況・授業参加姿勢とを総合的に評価する。

## 【テキスト】

『おもろさうし』上・下（外間守善・岩波文庫・2000年刊）

## 【参考文献】

『南島の神歌 おもろさうし』（外間守善・中央公論社・1994年刊）

『古典を読む おもろさうし』（外間守善・岩波書店・1998年刊）

その他、参考文献一覧を授業で配布する。

## 琉球文学特殊講義 I

担当教員 宮城 茂雄

対象学年 3年

単位区分 選必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

琉球文学のなかで劇文学や戯曲として位置づけられている「組踊」は、玉城朝薫によって創作された。また、現在まで上演され続けている琉球芸能の一つでもある。

本講義では、組踊の表現方法をさまざまな視点から考察することを目的とする。

### 【授業の展開計画】

- 1、組踊概説
  - ①誕生とその歴史
  - ②文学的表現（台詞を中心に）
  - ③音楽的・舞踊的表現
- 2、作品研究
  - 「執心鐘入」 台本講読  
演技と音楽
  - 「二童敵討」 台本講読  
演技と音楽
  - 「花売の縁」 台本講読  
演技と音楽

### 【履修上の注意事項】

出席日数が3分の2に満たない場合は、原則として単位を認めない。  
組踊の鑑賞のため、ビデオなどの視聴覚教材を使用する講義が数回ある。  
レポート提出を2回程度予定している。

### 【評価方法】

出席・レポート・期末試験

### 【テキスト】

テキストはなし。随時プリントを配布する。

### 【参考文献】

矢野輝雄著『組踊への招待』琉球新報社

## 琉球文学特殊講義Ⅱ

担当教員 宮城 茂雄

対象学年 3年

単位区分 選必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

琉球文学のなかで劇文学や戯曲として位置づけられている「組踊」は、玉城朝薫によって創作された。また、現在まで上演され続けている琉球芸能の一つでもある。

本講義では、組踊の表現方法をさまざまな視点から考察することを目的とする。

### 【授業の展開計画】

- 1, 組踊概説
  - ①誕生とその歴史
  - ②文学的・音楽的・舞踊的表現
  
- 2, 作品研究
  - 「万歳敵討」 台本講読  
演技と音楽
  
  - 「雪払い」 台本講読  
演技と音楽
  
  - 「大川敵討」 台本講読  
演技と音楽

### 【履修上の注意事項】

出席日数が3分の2に満たない場合は、原則として単位を認めない。  
組踊の鑑賞のため、ビデオなどの視聴覚教材を使用する講義が数回ある。  
レポート提出を2回程度予定している。

### 【評価方法】

出席・レポート・期末試験

### 【テキスト】

テキストはなし。随時プリントを配布する。

### 【参考文献】

矢野輝雄著『組踊への招待』琉球新報社



## 琉球方言学概論

担当教員 西岡 敏

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

琉球語諸方言の一つである沖縄語首里方言について、できるだけやさしく楽しく学んでいきます。本講義では、CALL教室で学びながら、沖縄語（ウチナーグチ）が何とか聞けるようになることを目標とします。また、沖縄中南部方言に属する首里方言のみならず、沖縄北部方言、奄美方言、宮古方言、八重山方言、与那国方言などの諸方言についても、折にふれて解説します。

## 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイドダンス・琉球語諸方言の区画
2	三母音化・口蓋化
3	「ヌ」と「ガ」・指示詞
4	沖縄語の形容詞（サ形容詞）
5	沖縄語の動詞
6	「ヤ」が付くときの音変化・動詞の終止形
7	動詞の連体形・沖縄語における「係り結び」
8	「～に」にあたる助詞（与格）・動詞の語幹
9	志向形・疑問詞と疑問文
10	声門閉鎖音・サ形容詞の丁寧形
11	連用形（第1中止形）・尾略形（準連体形）
12	テ形（第2中止形）・過去形・継続形
13	ナ形容詞（形容動詞）・終助詞
14	動詞の丁寧形・アーニ形（第3中止形）
15	沖縄語の複文
16	試験

## 【履修上の注意事項】

登録人数を制限することがあります。  
出席日数が3分の2に満たない者は原則として単位を与えません。

## 【評価方法】

出席・提出課題（30%）＋期末試験（70%）

## 【テキスト】

西岡敏・仲原穰[著]、伊狩典子・中島由美[協力] 2006[2000]  
『沖縄語の入門（CD付き改訂版） たのしいウチナーグチ』（白水社）。第7課まで。

## 【参考文献】

国立国語研究所[編] 1963『沖縄語辞典』（財務省印刷局[大蔵省印刷局]）。井上史雄・吉岡泰夫[監修] 2004  
『沖縄の方言 調べてみよう暮らしのことば』（ゆまに書房）。

## 琉球方言学概論

担当教員 下地 賀代子

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

奄美大島から与那国島に至る島々の連なりは「琉球弧」と呼ばれています。「琉球方言」（最近では「琉球語」とも）とは、この琉球弧の島々で用いられているさまざまなコトバ＝方言の総称です。この授業では、メディアなどを通して最も目や耳にする機会の多い首里方言について、できるだけやさしく学んでいきます。そして、その基礎を身につけることを目標とします。また授業の後半では、首里方言以外の各地の方言（奄美、沖縄北部、宮古、八重山）についても解説します。

## 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイドダンス、琉球弧とその広がり
2	「ウチナーグチ」とは—「琉球共通語」としての首里方言・あいさつ、自己紹介
3	首里方言の基礎①・母音の対応、口蓋化、連母音の融合・指示語、助詞「ヌ」と「ガ」
4	首里方言の基礎②・母音の対応、口蓋化、連母音の融合・形容詞の基本的な活用、動詞の活用(1)
5	首里方言の基礎③・動詞の活用(2)、疑問詞と疑問文、人称代名詞
6	首里方言の基礎④・声門閉鎖音、音声対応のまとめ・丁寧体の文(1)、動詞の活用(3)
7	首里方言の基礎⑤・動詞の活用(4)、過去形と継続形、ナ形容詞の活用
8	中間試験
9	首里方言の基礎⑥・丁寧体の文(2)、順接・逆接、条件文
10	首里方言の基礎⑦・不規則動詞、アスペクト形式
11	首里方言の基礎⑧・親族名称、格形式のまとめ
12	首里方言の基礎⑨・受身と使役、助動詞
13	首里方言の基礎⑩・尊敬語と謙譲語
14	琉球語の多様性をみる：ハ行子音の分布、親族語彙など 北琉球と南琉球
15	ウチナーヤマトウグチ 琉球語の「今」と「未来」
16	期末試験

## 【履修上の注意事項】

登録人数を制限することがあります。

出席日数が3分の2に満たない場合は原則として単位を認めないので、注意。

## 【評価方法】

出席&提出課題(40%) + 中間試験(30%) + 期末試験(30%)

※中間試験の日程は、講義の進み具合により変わる可能性があります。

## 【テキスト】

西岡敏・仲原穰[著]、伊狩典子・中島由美[協力]

『沖縄語の入門(CD付き改訂版)』白水社(2006 [2000])

## 【参考文献】

国立国語研究所編『沖縄語辞典』大蔵省印刷局(1963)

野原三義『うちなあぐちへの招待』沖縄タイムス社(2005)

その他、授業中に適宜紹介します。

## 琉球方言学特殊講義 I

担当教員 下地 賀代子

対象学年 3年

単位区分 選必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

この授業では、琉球方言の「文法」についての講義を通して、その基本的な特徴と、日本語との違いを学んでいきます。‘つまらない’と思われがちな文法ですが、実は、学べば学ぶほど面白くなっていく分野です。普段何気なく使っているウチナーヤマトウグチや共通語をふりかえりながら、「文法＝ことばの仕組み」について考えてみましょう。

## 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	琉球方言研究の歴史①
3	琉球方言研究の歴史②
4	言語学の諸分野、日本語の研究と琉球方言の研究
5	琉球方言で品詞を考えてみる
6	名詞について
7	代名詞①
8	〃 ②
9	格の体系①
10	〃 ②
11	〃 ③
12	〃 ④
13	とりたて助辞①
14	〃 ②
15	〃 ③
16	期末試験

## 【履修上の注意事項】

出席と授業への参加度を重視します。

## 【評価方法】

出席&授業への参加度(40%) + 期末試験[論述](60%)

## 【テキスト】

とくになし

## 【参考文献】

高橋太郎他『日本語の文法』ひつじ書房(2005)  
その他、授業中で適宜紹介します。

## 琉球方言学特殊講義Ⅱ

担当教員 下地 賀代子

対象学年 3年

単位区分 選必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

この授業では、琉球方言の「文法」についての講義を通して、その基本的な特徴と、日本語との違いを学んでいきます。‘つまらない’と思われがちな文法ですが、実は、学べば学ぶほど面白くなっていく分野です。普段何気なく使っているウチナーヤマトウグチや共通語をふりかえりながら、「文法＝ことばの仕組み」について考えてみましょう。

## 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	名詞と動詞、曲用と活用
3	琉球方言の動詞の形
4	動詞の活用①
5	〃 ②
6	〃 ③
7	動詞の文法的カテゴリーの色々
8	テンス・アスペクト①
9	〃 ②
10	〃 ③
11	ムード①
12	〃 ②
13	〃 ③
14	ヴォイス①
15	〃 ②
16	期末試験

## 【履修上の注意事項】

出席と授業への参加度を重視します。

## 【評価方法】

出席&授業への参加度(40%) + 期末試験[論述](60%)

## 【テキスト】

とくになし。

## 【参考文献】

高橋太郎他『日本語の文法』ひつじ書房(2005)  
その他、授業中で適宜紹介します。